

平成27年度
「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」
調査報告書

長野市

目 次

I	調査の概要	1
	1 調査の目的	
	2 調査の対象	
	3 抽出方法	
	4 調査の方法	
	5 調査時期	
	6 送付・回収状況	
	7 調査事項	
	8 調査票の集計 報告書の見方	
II	回答者の属性	5
III	結果の概要	13
IV	調査の結果	19
	一般的な問題	21
	労働に関する問題	43
	仕事と家庭生活の調和に関する問題	51
	地域社会に関する問題	71
	男女の人権に関する問題	77
	男女共同参画施策に関する問題	85
	資 料	91
	単純集計	93
	自由意見	109
	調 査 票	129

I 調査の概要

1 調査の目的

長野市における男女共同参画に関する市民の意識と実態を調査し、男女共同参画施策の推進状況の把握と、今後の男女共同参画行政の推進のための資料を得ることを目的とする。

2 調査の対象

平成 27 年 8 月 17 日現在で長野市に在住する 20 歳以上 75 歳未満の男女各 1,000 人
(計：2,000 人)

3 抽出方法

長野市住民基本台帳より、単純無作為抽出

4 調査の方法

調査票を郵送し、個人へ記入を依頼。その後、返信用封筒（料金受取人払）により調査票を返送してもらう郵送調査法による（調査票は別紙のとおり）。

5 調査時期

平成 27 年 9 月 1 日（火） ～ 平成 27 年 9 月 18 日（金）

6 送付・回収状況

送付数：2,000 票

回収数：891 票（回収率：44.6%）【男性票：376 票、女性票：515 票】

7 調査事項

● 回答者の属性

A 性別 B 年齢 C 職業 D 家族 E 配偶者の有無 F 配偶者の職業の有無 G 子の有無

- (1) 一般的な問題
- (2) 労働に関する問題
- (3) 仕事と家庭生活の調和に関する問題
- (4) 地域社会に関する問題
- (5) 男女の人権に関する問題
- (6) 男女共同参画施策に関する問題
- (7) 自由記入

8 調査票の集計

電子計算機による集計（委託）

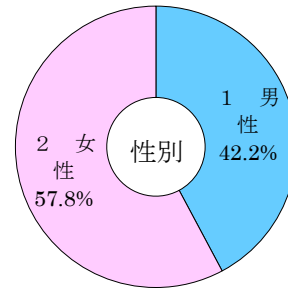
報告書の見方

- ①調査結果の数値は、原則として百分率で表記した。百分率の値は、小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位まで表記している。従って、内訳を合計しても 100%に合致しない場合がある。
- ②アンケートへの回答は、単数回答と複数回答を求めた設問があり、複数回答を求めた設問では、比率の合計が 100%を上回る場合がある。
- ③属性別の結果については、特徴的なもの、資料として重要と思われるものについて分析した。なお、図表によっては、不明サンプルを表示していないため、標本数の合計が全体の標本数と異なる場合がある。
- ④設問中の選択肢の文字数が多いものについては、本文中や図表中において、便宜上短く省略している場合がある。

II 回答者の属性

A 性別

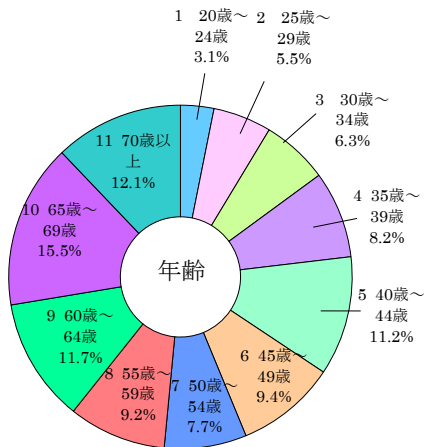
	回答者数 (人)	割合 (%)
1 男性	376	42.2%
2 女性	515	57.8%
合計	891	100.0%



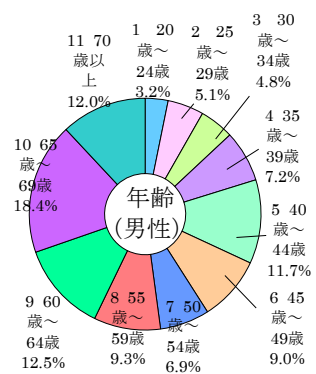
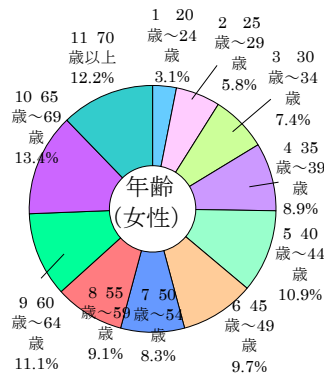
B 年齢

	回答者数 (人)			割合 (%)		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
1 20歳～24歳	28	16	12	3.1	3.1	3.2
2 25歳～29歳	49	30	19	5.5	5.8	5.1
3 30歳～34歳	56	38	18	6.3	7.4	4.8
4 35歳～39歳	73	46	27	8.2	8.9	7.2
5 40歳～44歳	100	56	44	11.2	10.9	11.7
6 45歳～49歳	84	50	34	9.4	9.7	9.0
7 50歳～54歳	69	43	26	7.7	8.3	6.9
8 55歳～59歳	82	47	35	9.2	9.1	9.3
9 60歳～64歳	104	57	47	11.7	11.1	12.5
10 65歳～69歳	138	69	69	15.5	13.4	18.4
11 70歳以上	108	63	45	12.1	12.2	12.0
合計	891	515	376	100.0	100.0	100.0

【全体】



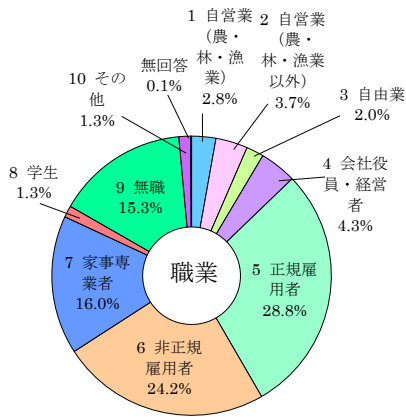
【男女別】



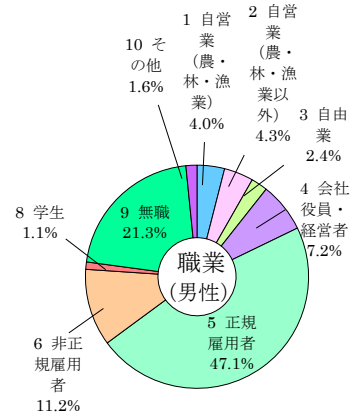
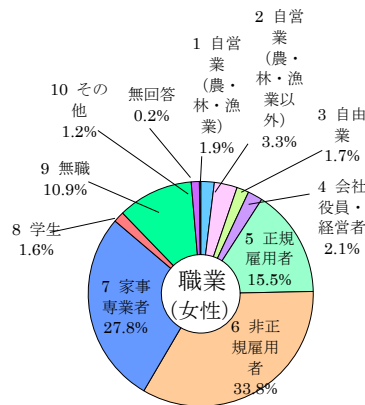
C 職業

	回答者数 (人)			割合 (%)		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
1 自営業 (農・林・漁業)	25	10	15	2.8	1.9	4.0
2 自営業 (農・林・漁業以外)	33	17	16	3.7	3.3	4.3
3 自由業	18	9	9	2.0	1.7	2.4
4 会社役員・経営者	38	11	27	4.3	2.1	7.2
5 正規雇用者	257	80	177	28.8	15.5	47.1
6 非正規雇用者	216	174	42	24.2	33.8	11.2
7 家事専業者	143	143	0	16.0	27.8	0.0
8 学生	12	8	4	1.3	1.6	1.1
9 無職	136	56	80	15.3	10.9	21.3
10 その他	12	6	6	1.3	1.2	1.6
無回答	1	1	0	0.1	0.2	0.0
合計	891	515	376	100.0	100.0	100.0

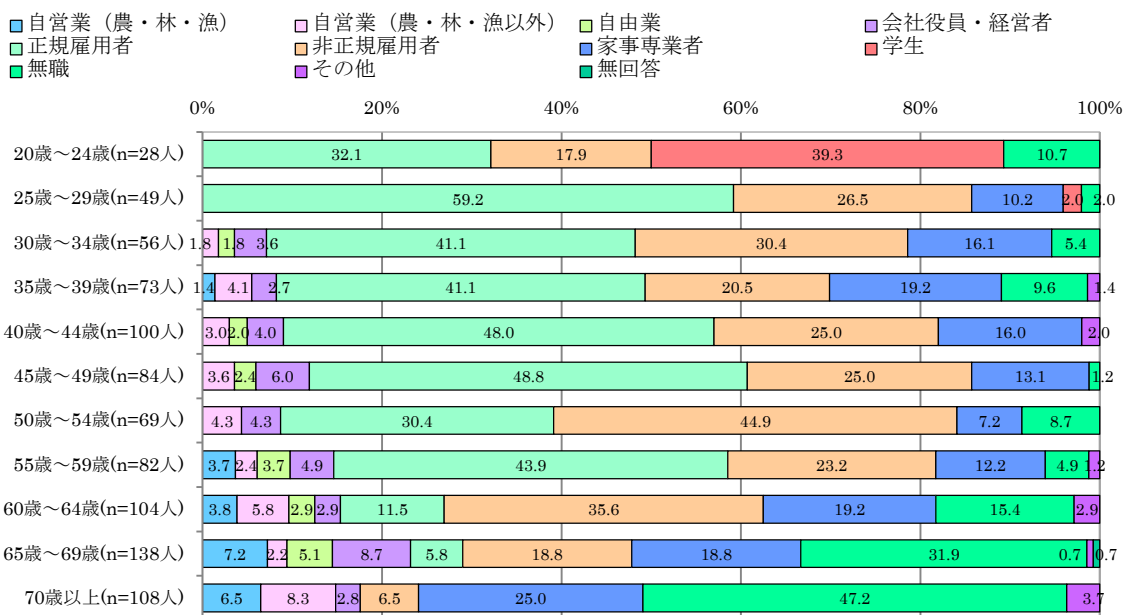
【全体】



【男女別】



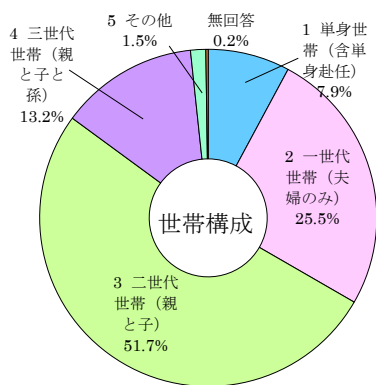
【年代別】



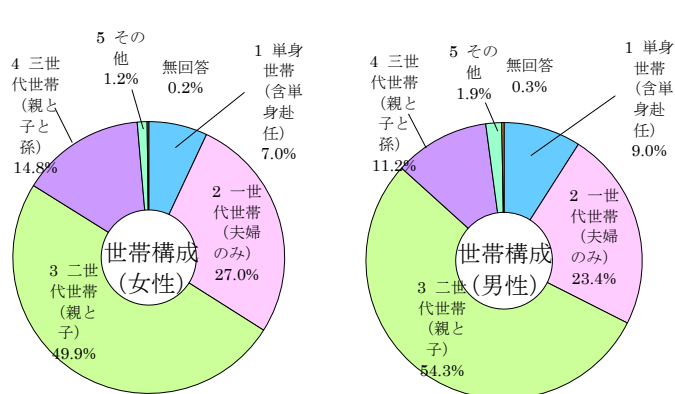
D あなたの家族の構成（世帯構成）について教えてください。

	回答者数（人）			割合（％）		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
1 単身世帯（含単身赴任）	70	36	34	7.9	7.0	9.0
2 一世代世帯（夫婦のみ）	227	139	88	25.5	27.0	23.4
3 二世世代世帯（親と子）	461	257	204	51.7	49.9	54.3
4 三世世代世帯（親と子と孫）	118	76	42	13.2	14.8	11.2
5 その他	13	6	7	1.5	1.2	1.9
無回答	2	1	1	0.2	0.2	0.3
合計	891	515	376	100.0	100.0	100.0

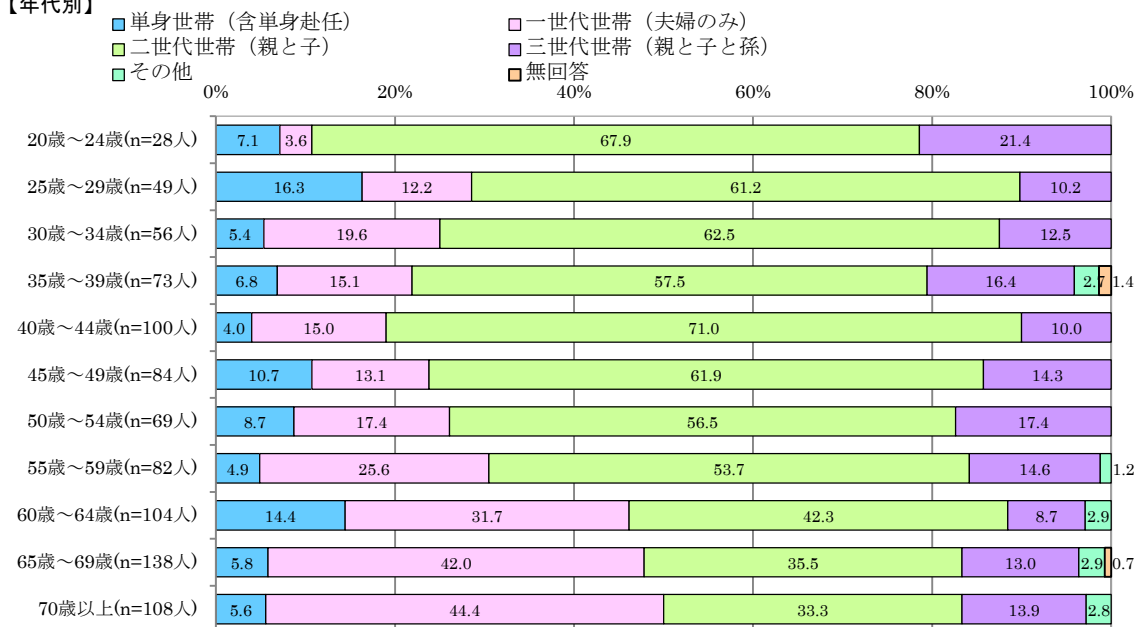
【全体】



【男女別】



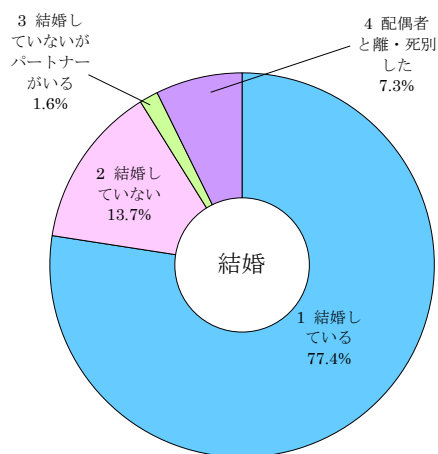
【年代別】



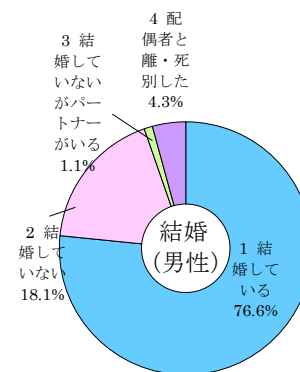
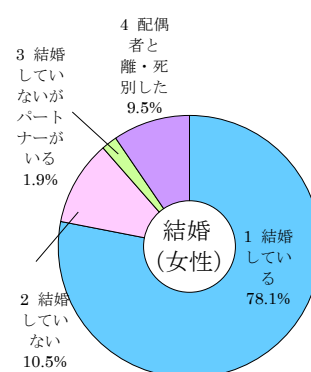
E あなたは現在、結婚していますか。

	回答者数（人）			割合（%）		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
1 結婚している	690	402	288	77.4	78.1	76.6
2 結婚していない	122	54	68	13.7	10.5	18.1
3 結婚していないがパートナーがいる	14	10	4	1.6	1.9	1.1
4 配偶者と離・死別した	65	49	16	7.3	9.5	4.3
合計	891	515	376	100.0	100.0	100.0

【全体】

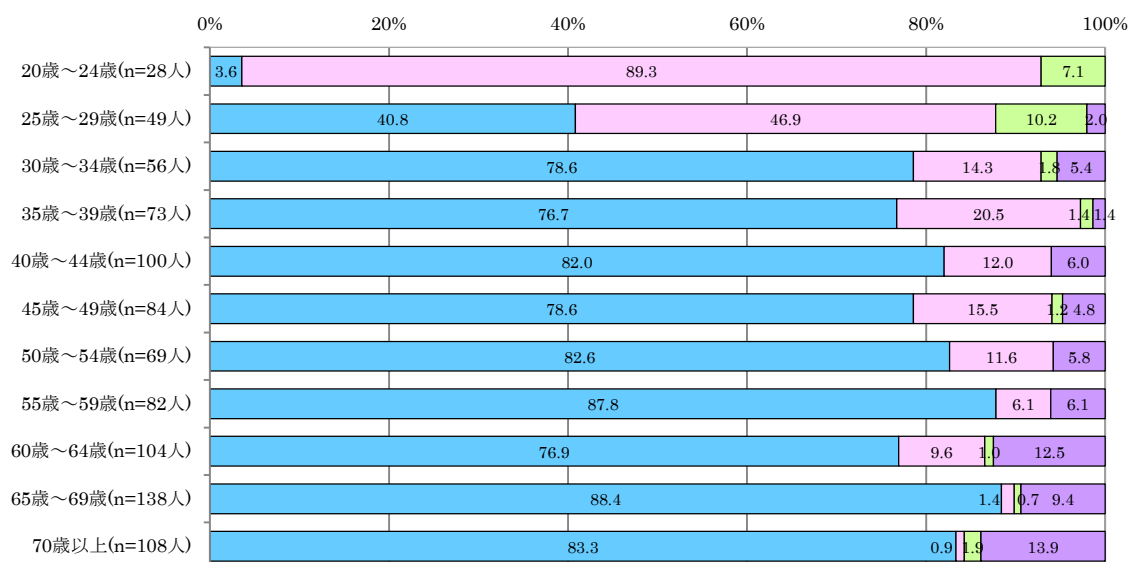


【男女別】



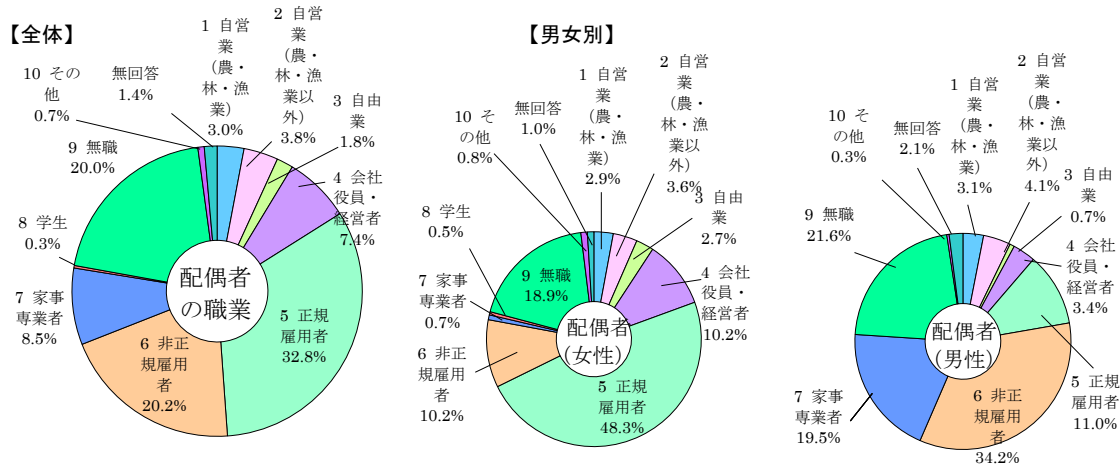
【年代別】

■ 結婚している ■ 結婚していない ■ 結婚していないがパートナーがいる ■ 配偶者と離・死別した

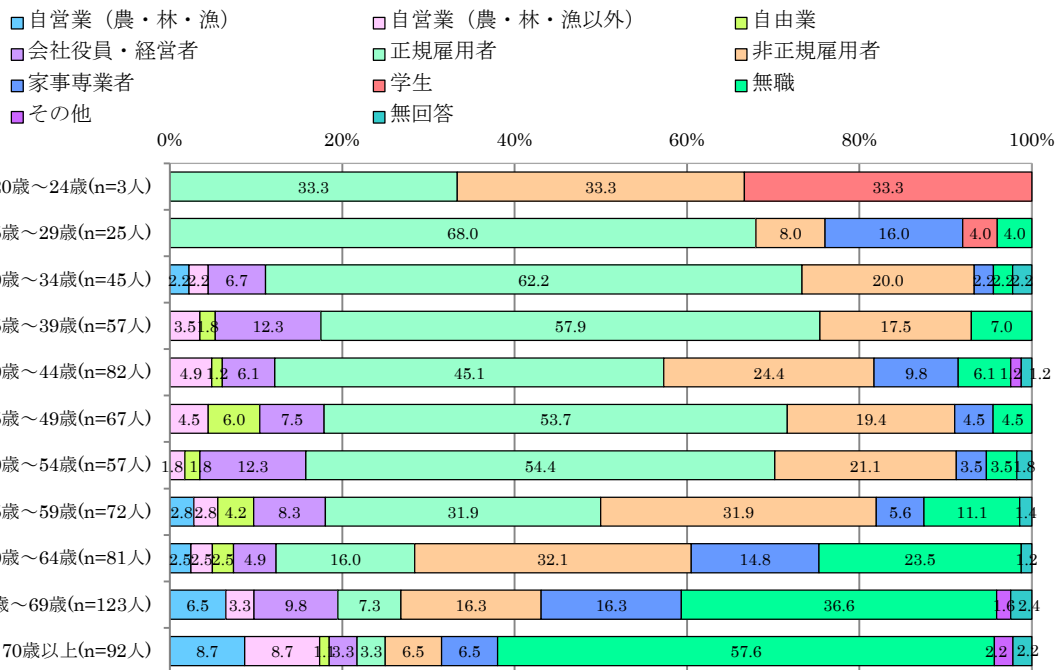


F Eで「1 結婚している」「3 結婚していないがパートナーがいる」と答えた方のみお答えください。
あなたの配偶者又はパートナーの職業を教えてください。

	回答者数（人）			割合（％）		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
1 自営業（農・林・漁業）	21	12	9	3.0	2.9	3.1
2 自営業（農・林・漁業以外）	27	15	12	3.8	3.6	4.1
3 自由業	13	11	2	1.8	2.7	0.7
4 会社役員・経営者	52	42	10	7.4	10.2	3.4
5 正規雇用者	231	199	32	32.8	48.3	11.0
6 非正規雇用者	142	42	100	20.2	10.2	34.2
7 家事専業者	60	3	57	8.5	0.7	19.5
8 学生	2	2	0	0.3	0.5	0.0
9 無職	141	78	63	20.0	18.9	21.6
10 その他	5	4	1	0.7	1.0	0.3
無回答	10	4	6	1.4	1.0	2.1
合計	704	412	292	100.0	100.0	100.0



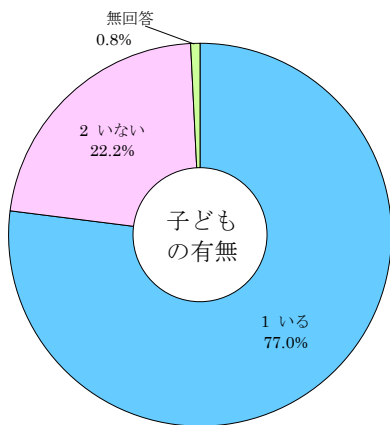
【年代別】



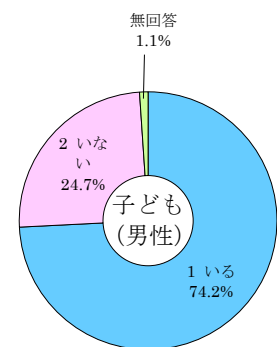
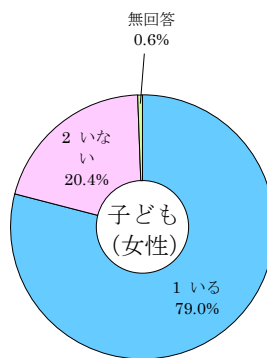
G あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

	回答者数（人）			割合（%）		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
1 いる	686	407	279	77.0	79.0	74.2
2 いない	198	105	93	22.2	20.4	24.7
無回答	7	3	4	0.8	0.6	1.1
合計	891	515	376	100.0	100.0	100.0

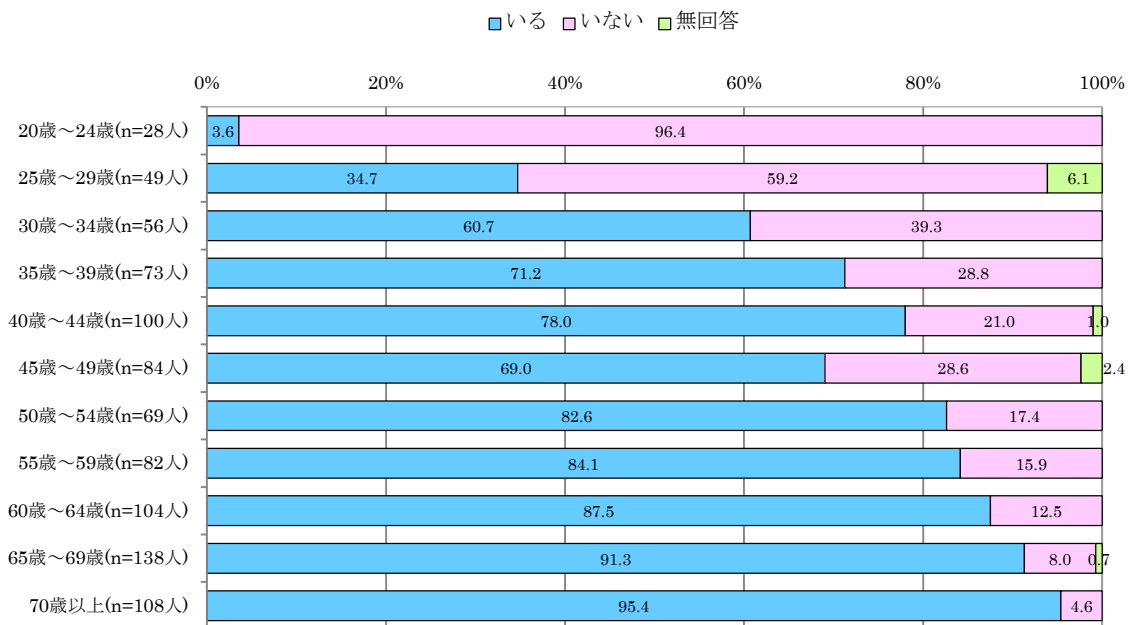
【全体】



【男女別】



【年代別】



Ⅲ 結果の概要

1 一般的な問題

(1) 社会における男女の扱いについて

「家庭」、「学校教育」、「地域社会」、「職場」、「法律や制度」、「慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」の8つの分野に関して、男女は平等になっているかを尋ねたところ、「平等である」と考えている割合が高いのは、「学校教育」(54.7%)、「家庭」(44.1%)、「法律や制度」(39.7%)の3分野であった。それ以外の分野では「男性が優位」という回答が最も多くなっている。特に「慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」では「男性が優位」という回答が7割を超えている。

分野別でみると、「家庭」においては、全体では「平等である」という回答が最も多かったが、「男性が優位」という回答は、男性が23.4%、女性が42.3%となり、性別による感じ方に差がある。同様に、「法律や制度」においても、「男性が優位」という回答は、男性が26.1%なのに対し、女性は41.4%と最も多い回答となっている。また、「地域社会」、「職場」、「慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」といった分野でも、「男性が優位」という回答が多く、男女とも約5割～8割となっている。

(2) 男女共同参画に関する用語について

「男女共同参画社会」、「ジェンダー(社会的性別)」、「女子差別撤廃条約」、「男女雇用機会均等法」、「長野市男女共同参画推進条例」、「長野市男女共同参画センター」の6つの用語の認知度を尋ねたところ、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が高いのは、「男女雇用機会均等法」(93.6%)と「男女共同参画社会」(76.1%)、「ジェンダー(社会的性別)」(55.0%)の3つとなっている。それ以外の用語の認知度は、いずれも5割を下回っている。

用語別では、いずれの用語においても性別による認知度の差は少ない。「男女雇用機会均等法」はすべての年代、性別においても8割以上の認知度となっている。

(3) 固定的性別役割分担意識について

「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は41.9%、一方、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答割合の合計は56.8%となっている。前年に比べ、前者は0.2ポイント、後者は0.8ポイント増加した。平成22年度調査から、「反対」、「どちらかといえば反対」という回答が、半数を上回り、その差は徐々に大きくなっている。年代別でみると、20歳代の男女、45歳～49歳、50歳～54歳、60歳代の女性と、55歳～59歳の男性で「賛成」がない結果となっている。

また、女性が働くことへの考え方に関しては、男女ともに「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も多い回答となっている。

2 労働に関する問題

職場における男女の平等について

職場における「賃金」、「昇進や昇格」、「仕事の内容」、「研修の機会や内容」「経験や能力を発揮する機会」の5つに関して、男女が平等であるかを尋ねたところ、「昇進や昇格」以外の項目では「平等である」という回答が最も多くなっている。「昇進や昇格」に関しては、「男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、男女とも4割以上が回答している。また、「賃金」に関しては、「女性の方が優遇されている」という回答がほとんどないという結果となっている。

3 仕事と家庭生活の調和に関する問題

(1) ワーク・ライフ・バランスの認知度について

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度については、「言葉も内容も知っている」という回答が、全体の25.1%となっており、認知度は依然として低い。「言葉も内容も知っている」という回答は、男性が32.7%と女性の19.6%より多くなっている。

(2) 理想とする生活と、現実の生活について

「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、理想とする生活と、現実の生活について尋ねたところ、理想とする生活としては、『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も多い回答となった。現実の生活では、『仕事』優先」と『家庭生活』優先」がほぼ同率で最も多い回答となっている。しかし、『仕事』優先」では、男性が37.2%、女性が15.3%、『家庭生活』優先」では、男性が10.6%、女性が34.6%となっており、男女間での差が大きくなっている。

(3) 家事と育児・介護について

「掃除」、「洗濯」、「食料品、日用品などの買物」、「食事のしたく」、「食事の後かたづけ」、「ごみ捨て」の6つの分野に関して尋ねたところ、「主に自分がしている」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「ごみ捨て」(38.9%)、女性では、「食事のしたく」(78.2%)、「洗濯」(77.3%)であった。「していない」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「食事のしたく」(48.2%)、「洗濯」(46.7%)で、女性では、「ごみ捨て」(16.1%)であった。

また、男性は、「掃除」、「食料品、日用品などの買物」については、「自分は手伝い程度している」という回答割合が4割を超えている。

育児に関しては、「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」を選んだ方が、男性は25.6%、女性は59.5%と差が大きいが、介護に関しては男性が19.6%、女性が23.1%と育児より差が小さい。

「育児・介護休業制度」に関しても、「利用しにくい雰囲気があるから」(58.4%)、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(50.6%)、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(41.9%)、「制度の整備が不十分だから」(40.4%)といった理由で利用が進まないといった状況となっている。

4 地域社会に関する問題

自治会やPTAなど地域の活動における現状と女性の参画について

自治会やPTAで、性別によって決められている事例があるか尋ねたところ、「そうである」という回答が多かったのは、「自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である」で、48.1%となっている。一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は男性だけで決めている」44.4%、「女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される」39.4%となっている。

女性が地域の重要な方針決定の場に参画するためにはどうすればよいか尋ねたところ、「積極的改善措置(ポジティブ・アクション)は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も回答割合が高く、4割(40.9%)を超えている。次いで、「役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)を導入すること」(20.3%)と「女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること」(18.6%)と続いている。

5 男女の人権に関する問題

DV（ドメスティック・バイオレンス）について

DVを受けた又はしたことがあるか尋ねたところ、「受けたことがある」と答えた割合は、男性が26.3%に対し、女性は44.1%と男性の2倍近くになっている。項目別でみると、「大声で怒鳴る」については、男性で「したことがある」という回答が22.3%、女性では「受けたことがある」という回答が19.2%と比較的多くなっている。

DVにあったときの相談窓口として、知っているという回答が最も多かったのは、「県警（地域安全推進室）」で約4割（41.9%）となっている。次いで、「児童虐待・DV24時間ホットライン」（25.9%）、「長野市福祉事務所」（23.0%）の順となる。

DVに対する考え方は、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」が最も多く、約5割（47.8%）となっている。

6 男女共同参画施策に関する問題

（1）長野市議会及び住民自治協議会への女性の参画について

長野市議会及び住民自治協議会の女性議員・役員の数についての考えを尋ねたところ、「現在より少し増えた方がよい」（34.7%）という回答が最も多くなっている。次いで、「現在より大幅に増えた方がよい」（29.6%）が続いており、合わせて64.3%の方が「増えた方がよい」と考えている。

また、政策決定の場に女性が増えることで何を期待するか尋ねたところ、最も多い回答は「女性が持つ意見や発想が活かされる」（46.1%）となっており、男性では約4割（42.0%）、女性では約5割（49.1%）の回答割合となる。

（2）男女共同参画社会実現へ向けた拠点施設の機能と行政に期待することについて

拠点施設の機能としては、「相談機能の充実」（42.3%）が最も多くなっている。次いで、「女性リーダーの育成」（39.4%）、「市民団体への活動の場の提供」（38.2%）の順で続いている。

行政に期待することについては、「育児や介護に関するサービスの充実」（51.7%）が最も多くなっている。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」（36.4%）、「学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実」（29.7%）の順で続いている。

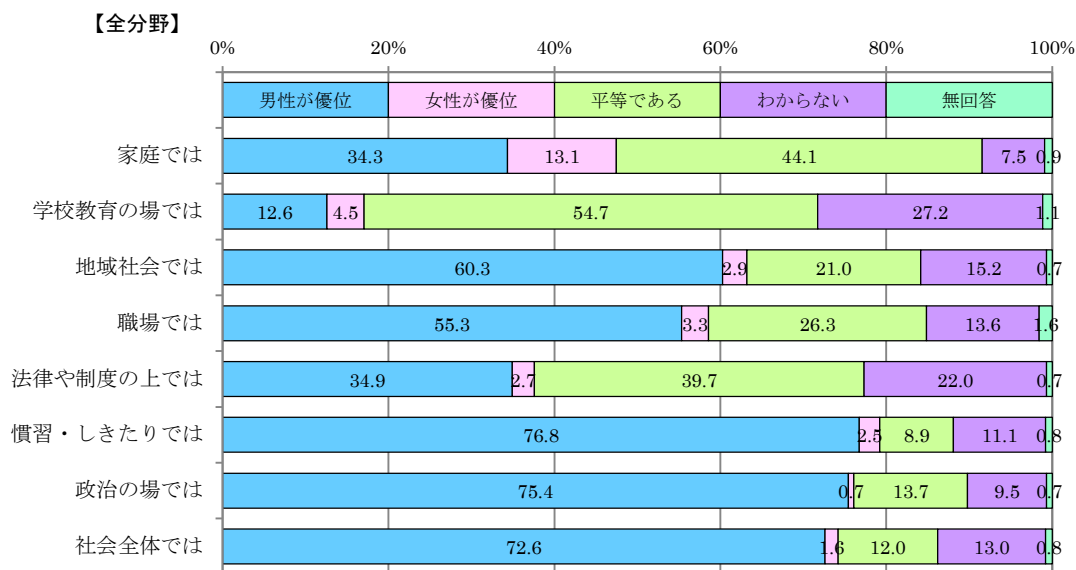
IV 調査の結果

一般的な問題

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。
それぞれ1つずつお選びください。

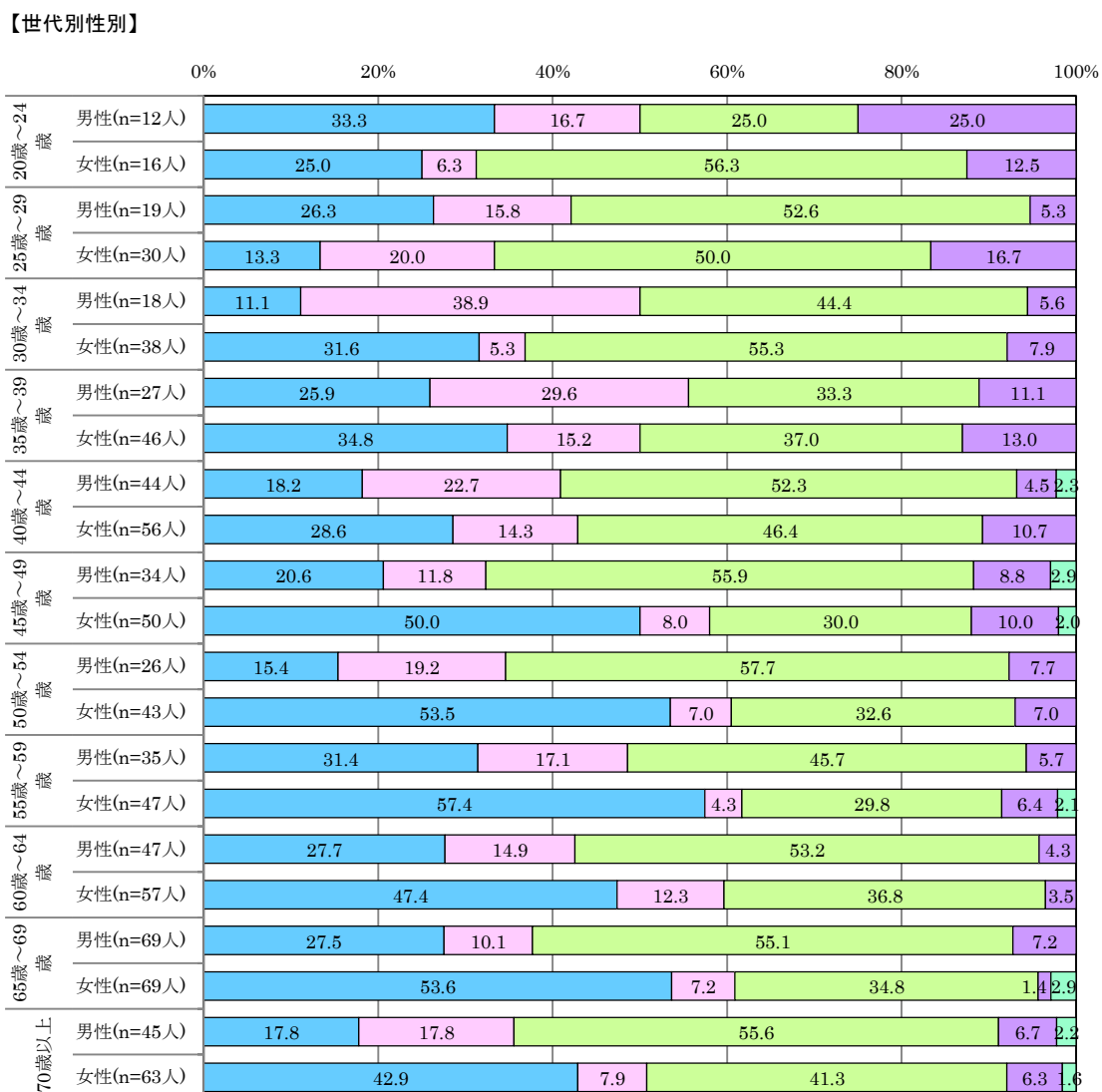
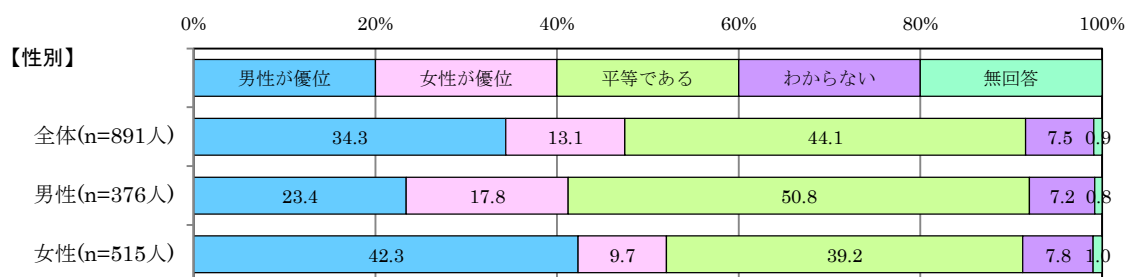
- ・「平等である」と考えている割合が高いのは、「学校教育」(54.7%)、「家庭」(44.1%)、「法律や制度」(39.7%)の3分野となっている。
- ・一方、「地域社会」、「慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」では、「男性が優位」という回答がいずれも6割以上で最も多い回答となっている。なかでも「慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」では7割を超えており、その他の分野に比べて「男性が優位」という回答が多い。

全体 (n=891人)



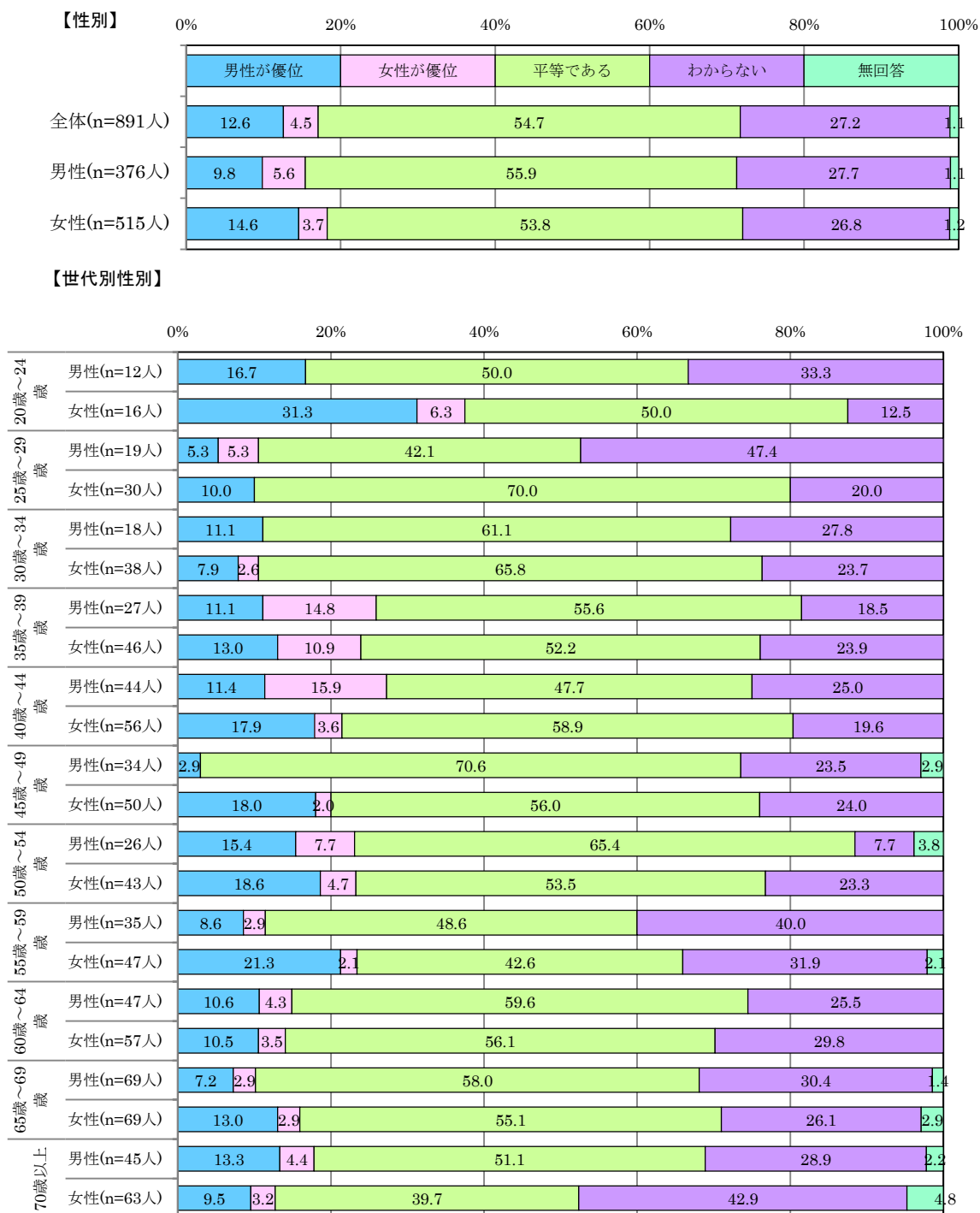
1 家庭では

- 性別でみると、男性は、「平等である」(50.8%)という回答が最も多く、5割を超えているが、女性の回答は約4割(39.2%)となっている。「男性が優位」という回答は、男性においては約2割(23.4%)となっているが、女性では約4割(42.3%)となり、最も多い回答となっている。
- 世代別性別でみると、「男性が優位」という回答は、女性では45歳～49歳と50歳代、65歳～69歳で多く、回答割合が5割を超えている。男性では、20歳～24歳以外は、いずれも「平等である」という回答が最も多い。



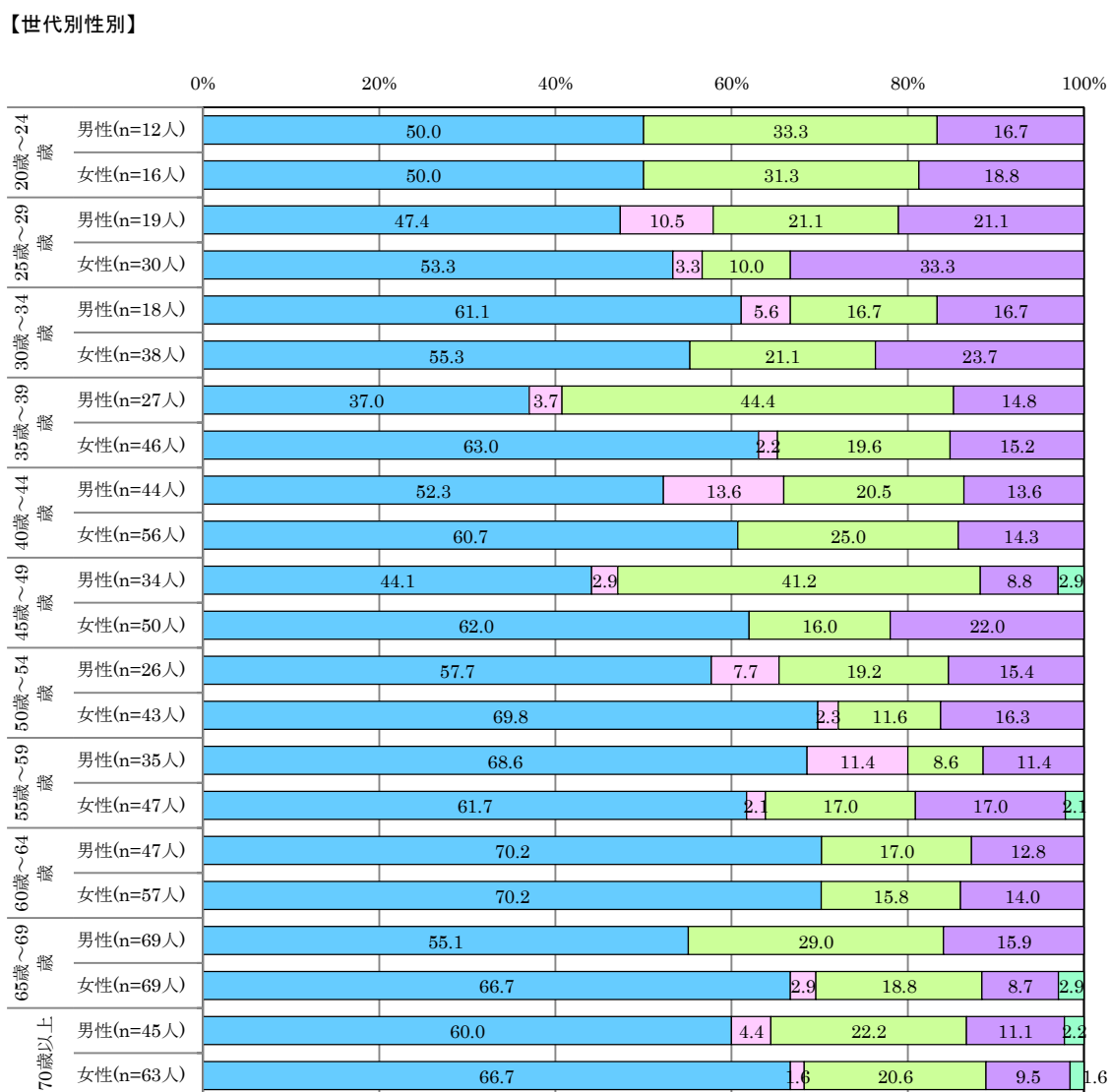
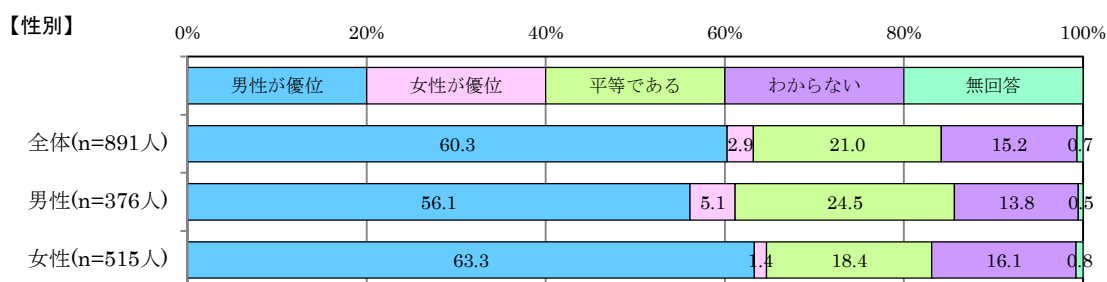
2 学校教育の場では

- 性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、男性（55.9%）、女性（53.8%）とともに5割を超えている。「男性が優位」という回答は、男性よりも女性の方がやや多くなっている。
- 世代別性別でみると、25歳～29歳男性と70歳以上の女性以外は、いずれの世代でも「平等である」という回答が最も多くなっている。「男性が優位」という回答は、20歳～24歳の女性で約3割となり、そのほかの世代に比べ高い回答割合となっている。また、25歳～29歳の女性と、20歳～24歳、30歳～34歳、45歳～49歳の男性においては、「女性が優位」という回答はなしとなっている。



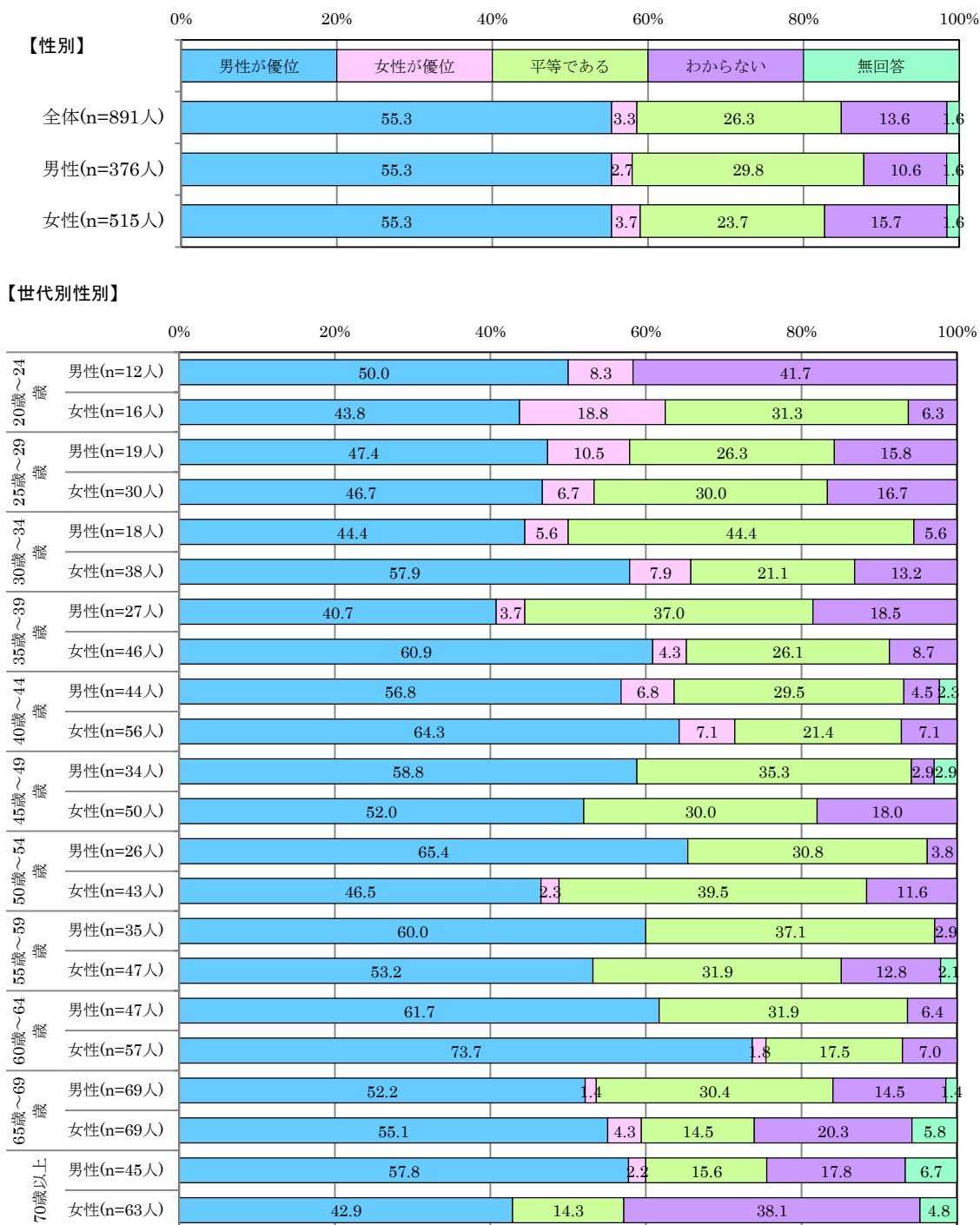
3 地域社会では

- ・性別でみると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性は約6割（56.1%）、女性は6割（63.3%）を超えている。一方、「平等である」という回答は男女ともに約2割で、男性が24.5%、女性が18.4%となる。
- ・世代別性別でみると、35歳～39歳の男性を除いて、いずれも「男性が優位」という回答が最も多い回答となっている。なかでも60歳～64歳の男女においては「男性が優位」という回答が7割を超えている。



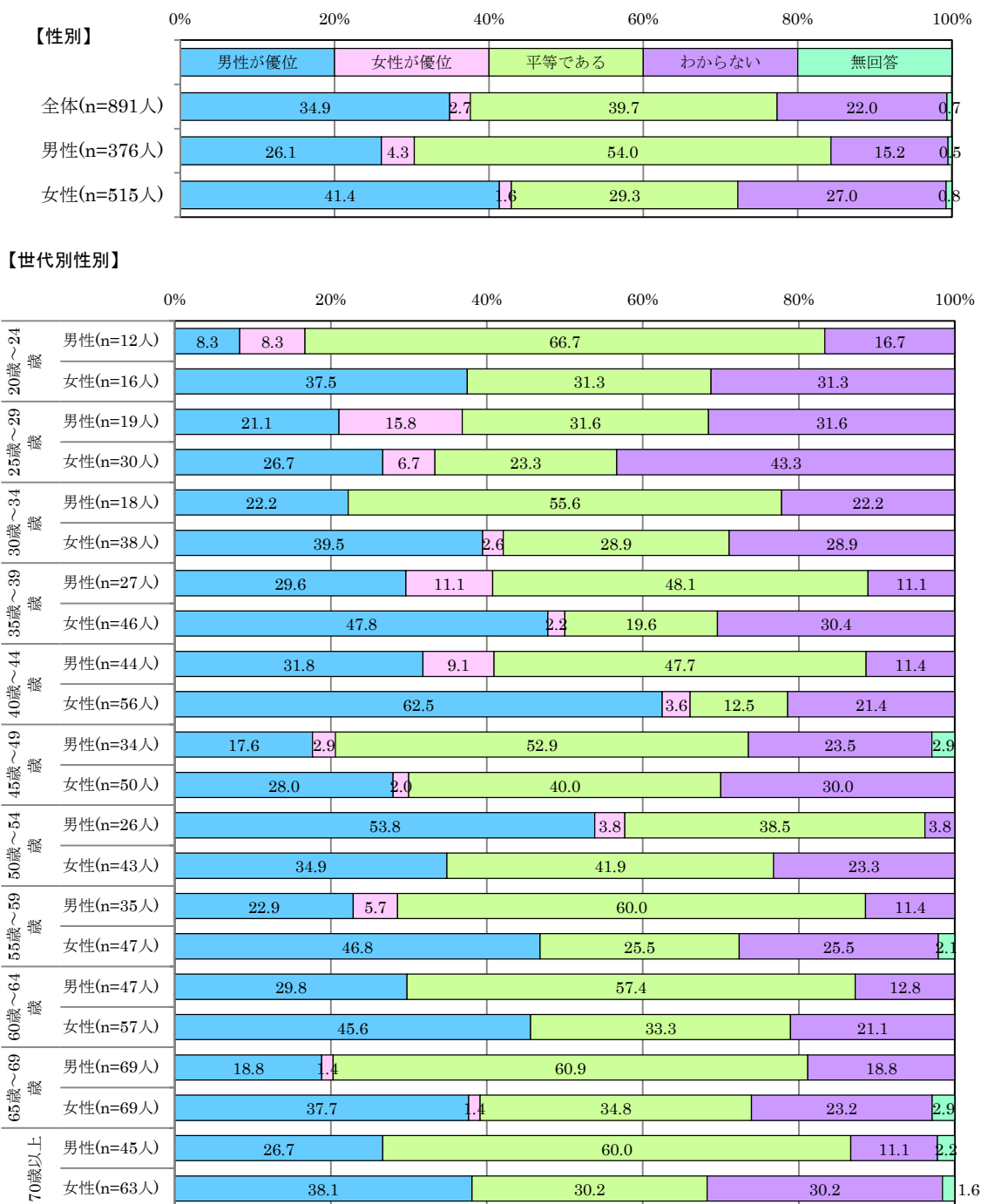
4 職場では

- ・性別でみると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男女ともに5割（55.3%）を超えている。「平等である」という回答は、男性の約3割（29.8%）に対し、女性は約2割（23.7%）となっている。
- ・世代別性別でみると、30歳～34歳の男性においては「男性が優位」と「平等である」が同じ割合となっている。それ以外の世代では、いずれも「男性が優位」という回答が最も多い。



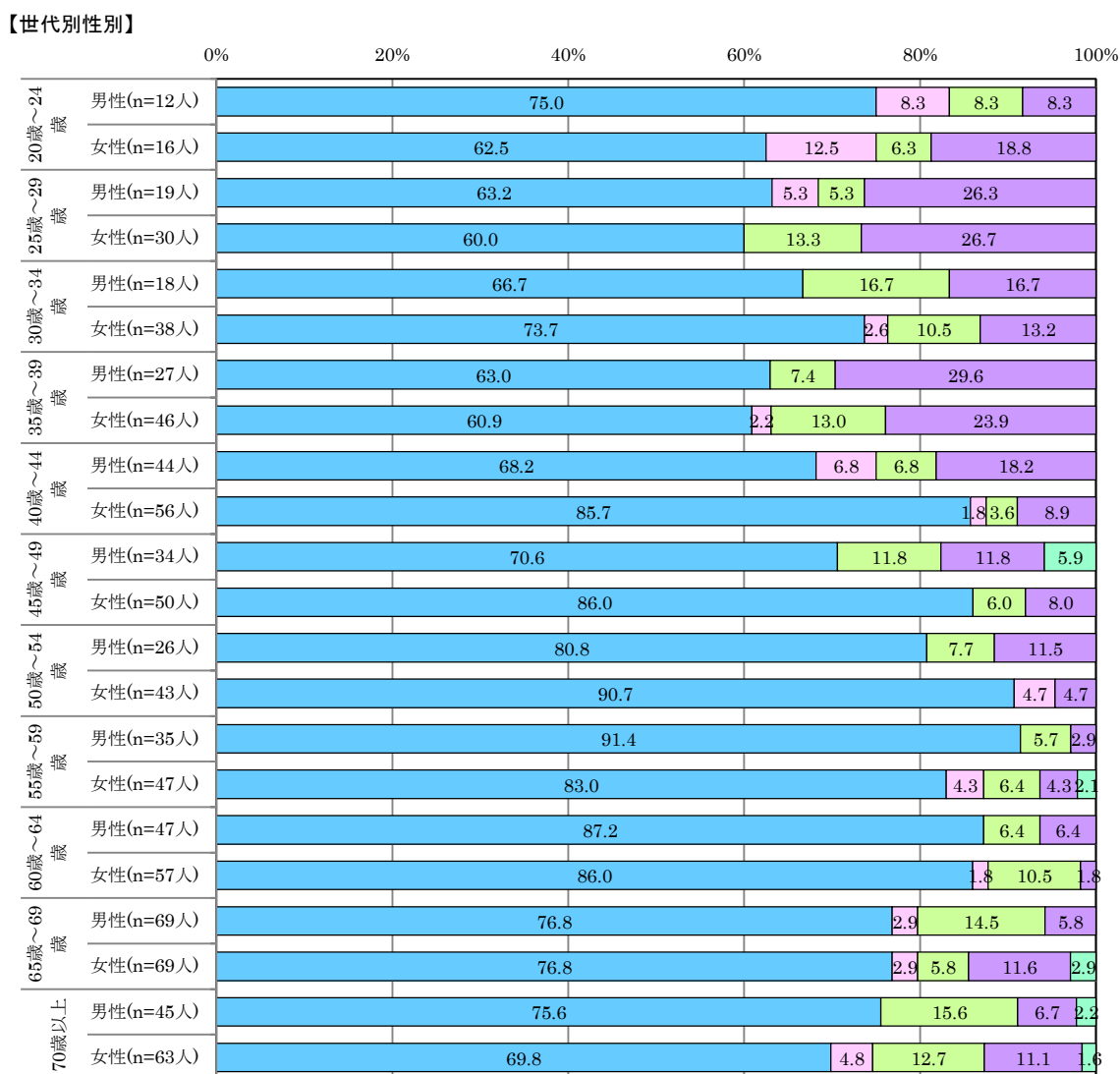
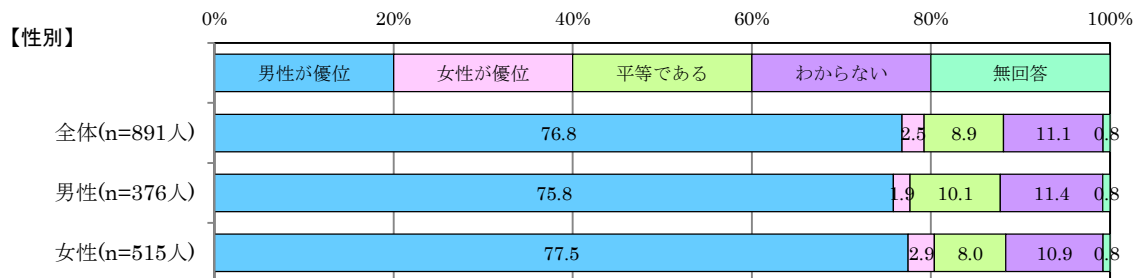
5 法律や制度の上では

- ・性別でみると、男性では「平等である」という回答が最も多く、5割（54.0%）を超えている。一方、女性は「男性が優位」（41.4%）という回答が、「平等である」（29.3%）という回答を上回っている。法律や制度については男女間で感じ方に差があると考えられる。
- ・世代別性別でみると、男性では、50歳～54歳以外の世代で、「平等である」という回答が最も多くなっている。30歳～34歳、60歳～64歳、70歳以上で、「女性が優位」という回答はなしとなっている。
- ・女性においては、40歳～44歳で、「男性が優位」という回答が6割（62.5%）を超えている。20歳～24歳、50歳～54歳、55歳～59歳、60歳～64歳、70歳以上で、「女性が優位」という回答はなしとなっている。



6 慣習・しきたりでは

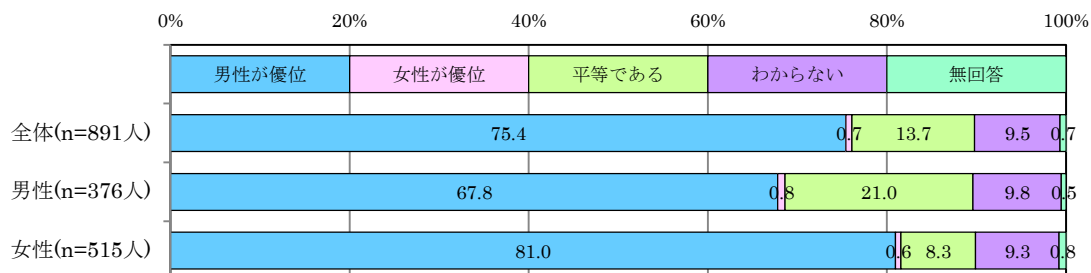
- ・性別では、男女とも「男性が優位」という回答が最も多く、男性（75.8%）、女性（77.5%）と、ともに約8割となっている。
- ・世代別性別でみると、女性では、20歳代、35歳～39歳、70歳以上を除き、「男性が優位」という回答がいずれも7割以上となっている。特に、50歳～54歳の女性においては90.7%と極めて高い。
- ・男性においては、55歳～59歳で「男性が優位」という回答が9割（91.4%）となっている。



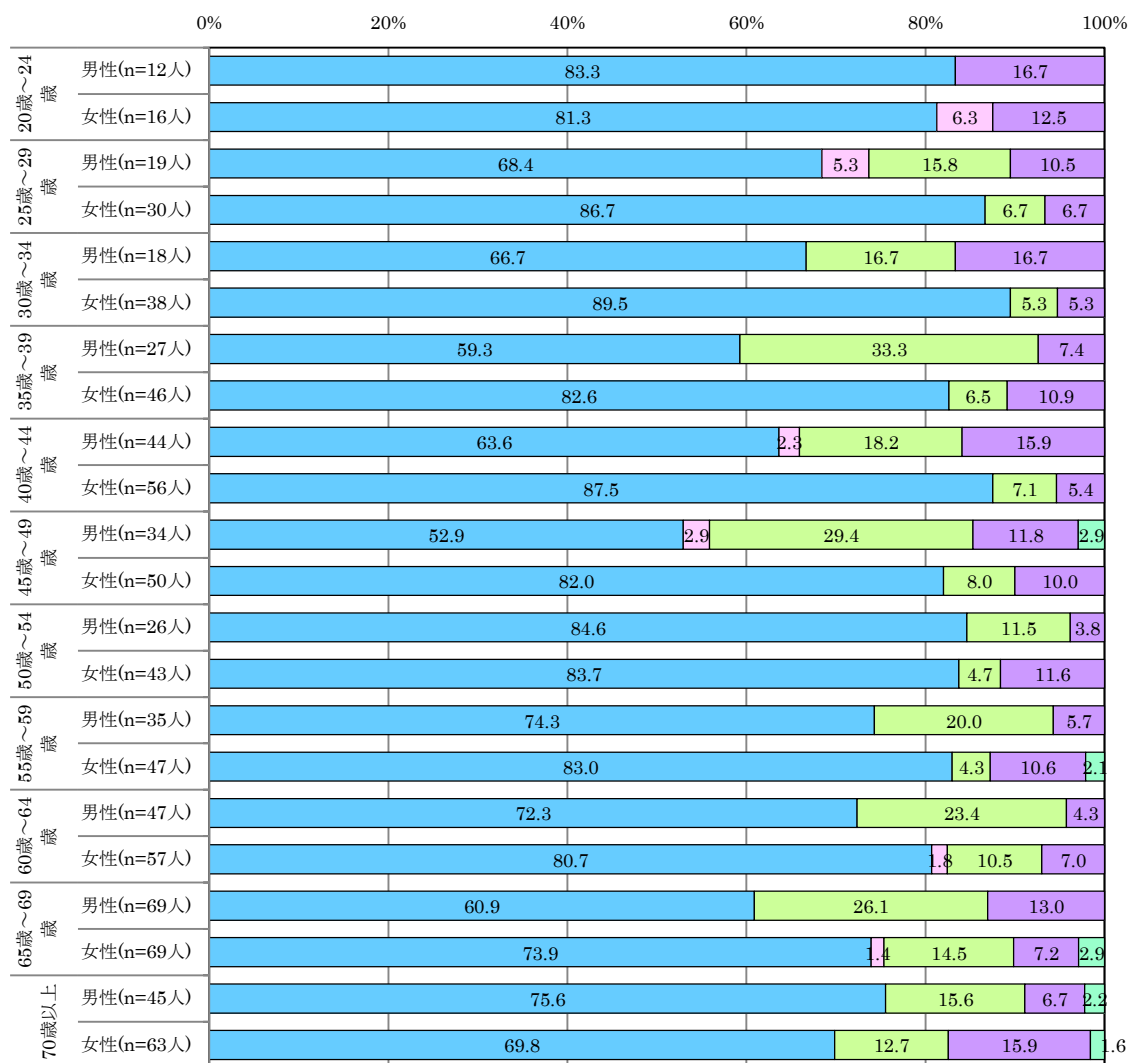
7 政治の場では

- ・性別でみると、男性は約7割（67.8%）、女性は約8割（81.0%）の方が、「男性が優位」と回答している。「平等である」という回答は、男性が約2割（21.0%）なのに対して、女性は1割未満（8.3%）となっている。
- ・世代別性別でみると、いずれの世代においても「男性が優位」という回答が最も多くなっている。

【性別】

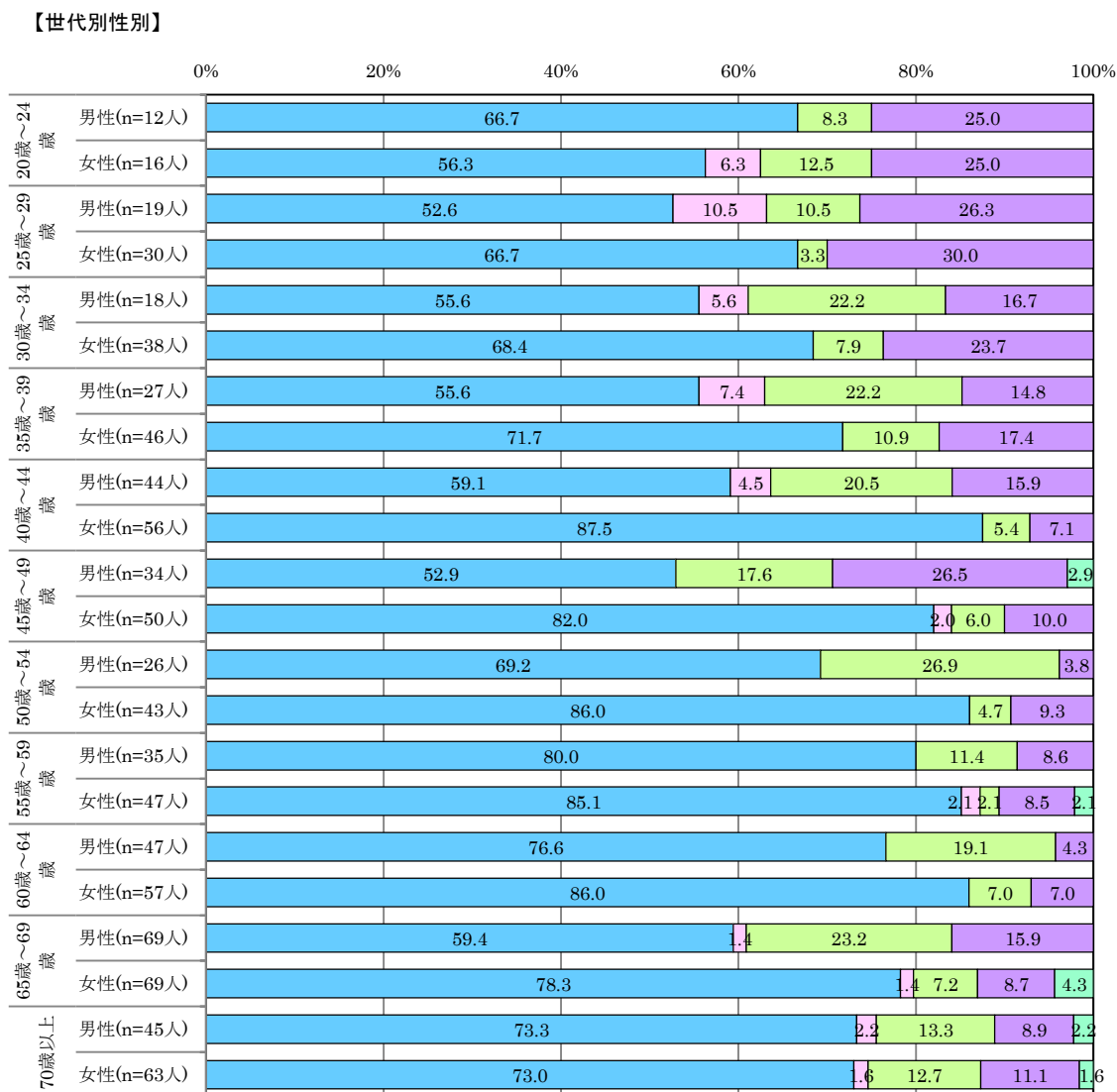
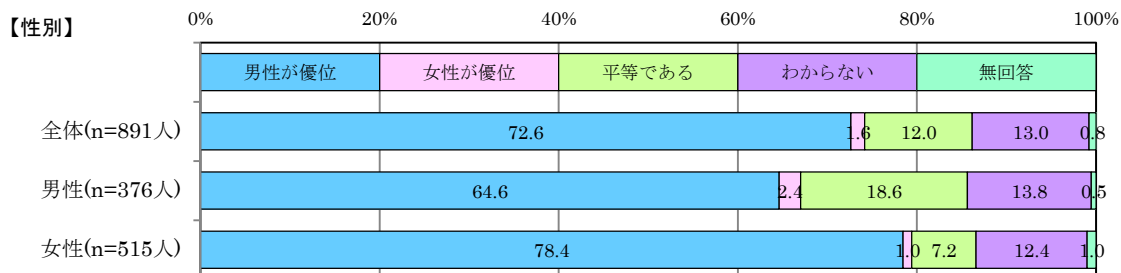


【世代別性別】



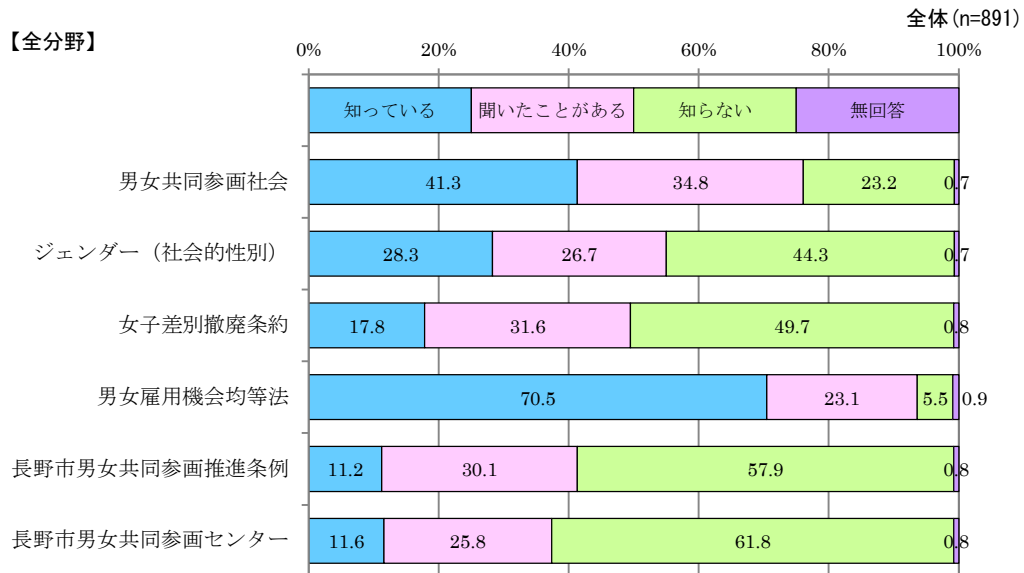
8 社会全体では

- ・性別でみると、男女とも「男性が優位」という回答が最も多いが、男性が約6割（64.6%）、に対し、女性は約8割（78.4%）となっている。
- ・「平等である」という回答は、男性が約2割（18.6%）、女性が約1割未満（7.2%）となる。社会全体においても男性が優位であると感じている割合が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、いずれの世代においても「男性が優位」という回答が最も多い。



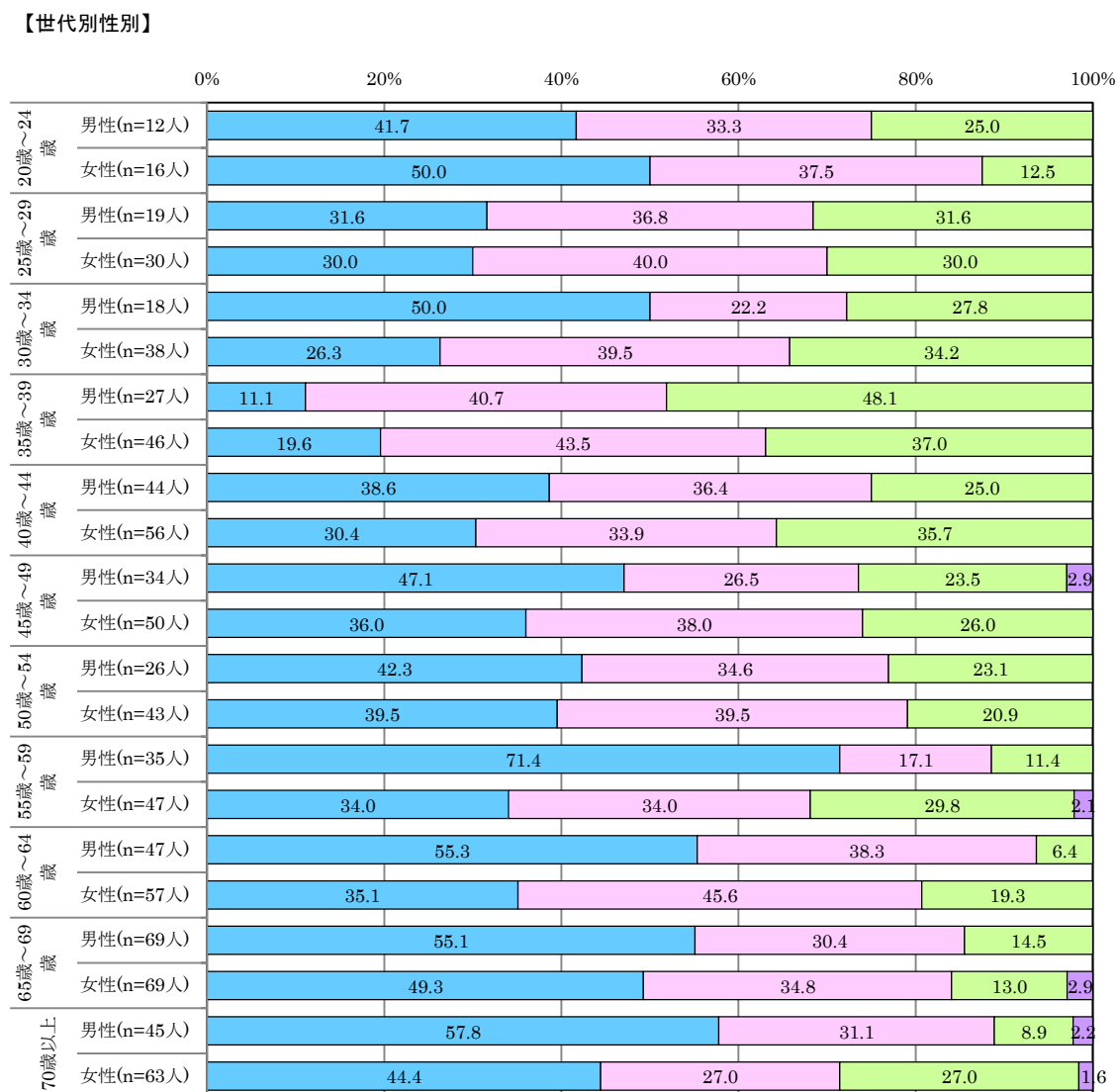
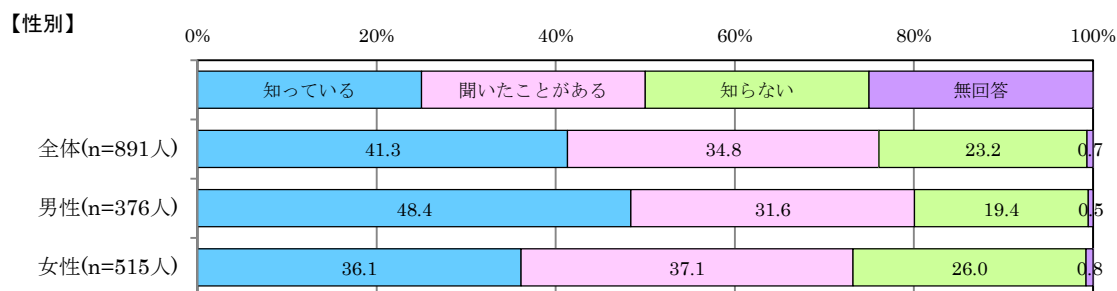
問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。
それぞれ1つずつお選びください。

- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答を合計すると、「男女雇用機会均等法」は約9割（93.6%）となり、高い回答割合となっている。次いで、「男女共同参画社会」も約8割（76.1%）と認知度が高い。「ジェンダー（社会的性別）」は約6割（55.0%）、「女子差別撤廃条約」が約5割（49.4%）、「長野市男女共同参画推進条例」（41.3%）と、「長野市男女共同参画センター」（37.4%）が約4割となっている。



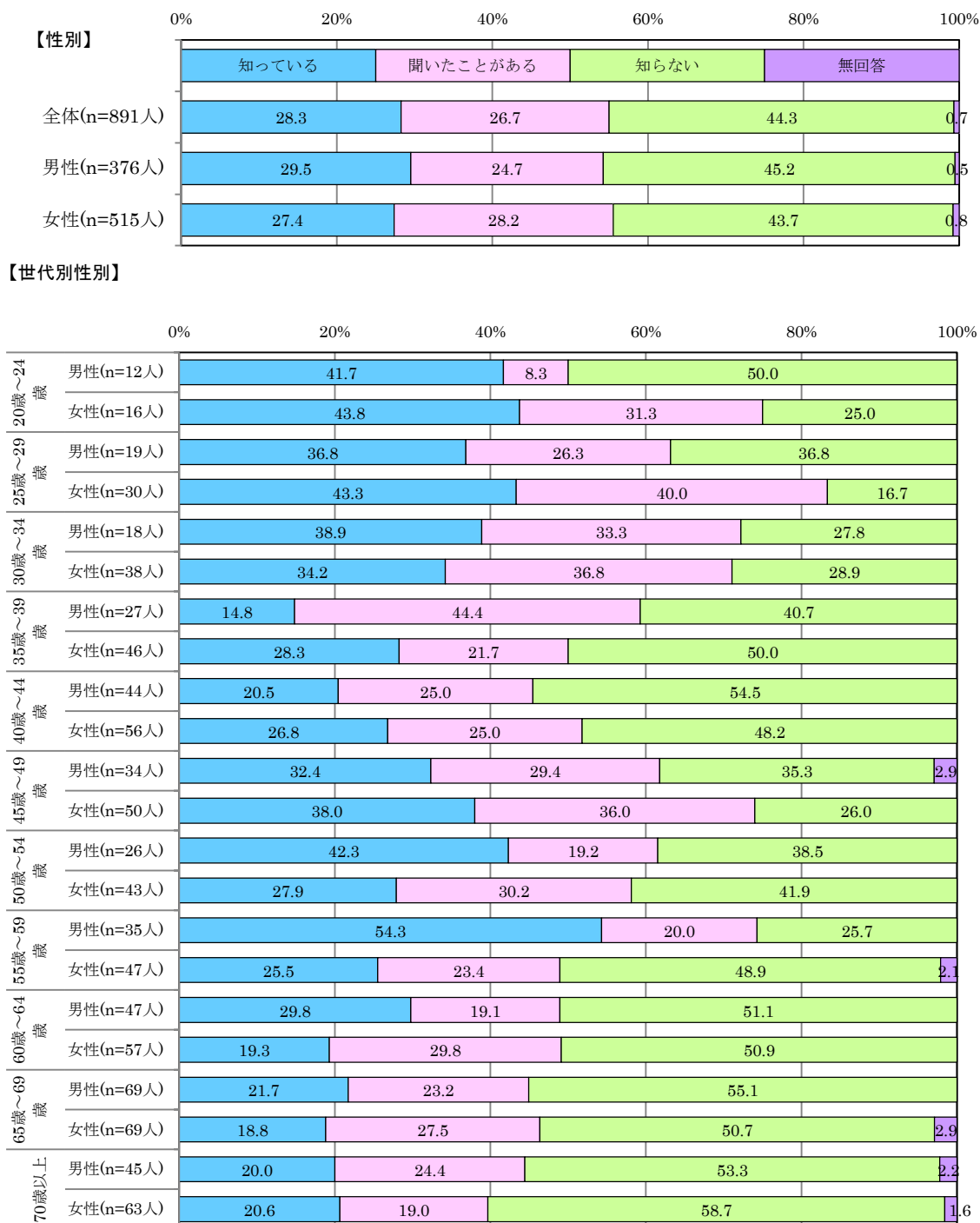
1 男女共同参画社会

- ・性別では、男女とも「知っている」及び「聞いたことがある」の回答の合計が、7割を超えている。
- ・世代別性別でみると、男性は35歳～39歳で、「知らない」という回答割合が最も高く、約5割（48.1%）となっている。一方、女性は35歳～39歳、40歳～44歳の世代で、「知らない」が約4割となっている。



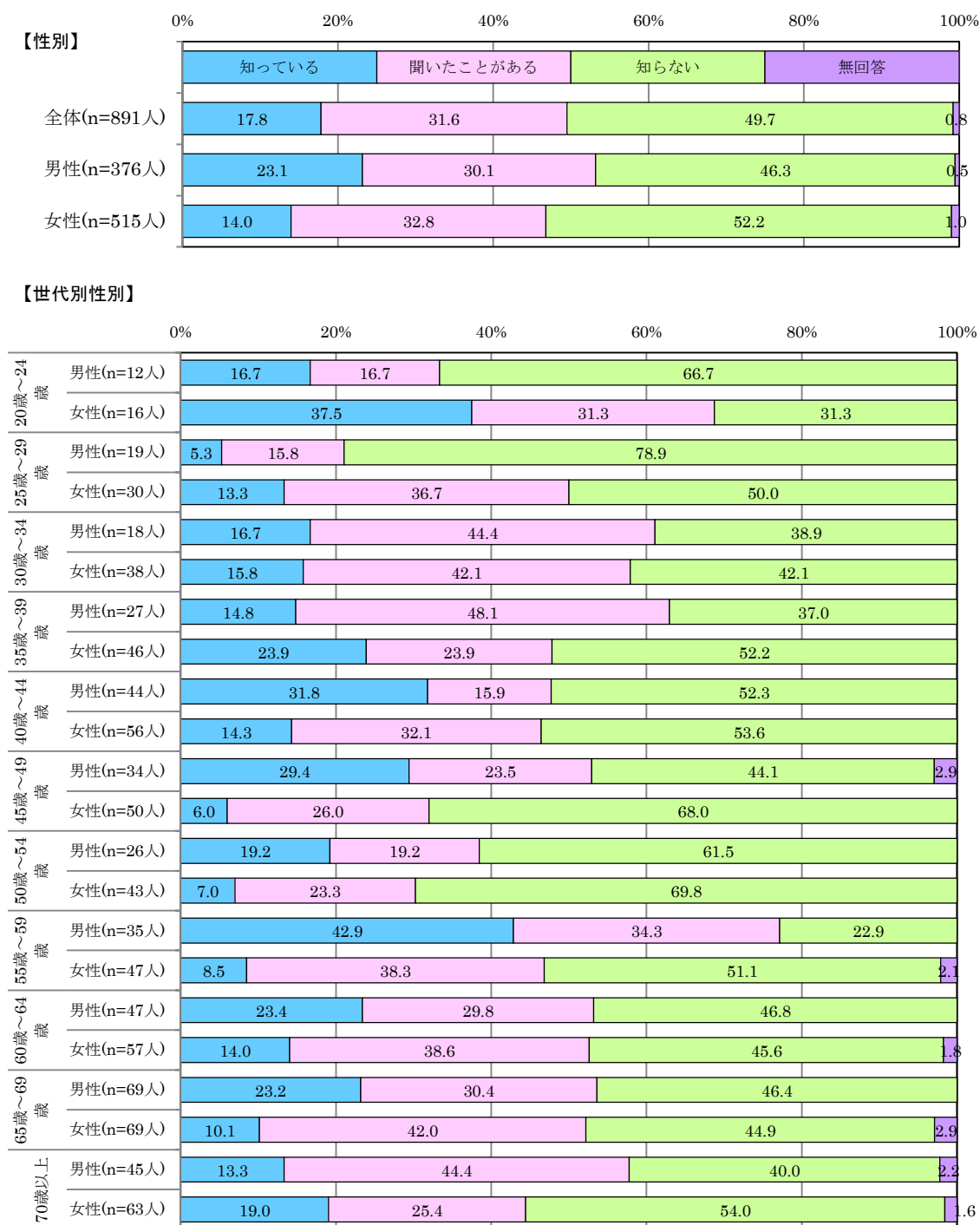
2 ジェンダー（社会的性別）

- ・性別でみると、「知らない」という回答が男女とも最も多い回答となり、男性が45.2%、女性が43.7%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計は、男性が54.2%、女性が55.6%となり、女性の方が男性よりやや回答割合が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性では55歳～59歳で「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計が74.3%となっている。女性では25歳～29歳で83.3%となっている。男女とも60歳代、70歳以上では、「知らない」が5割を超えている。



3 女子差別撤廃条約

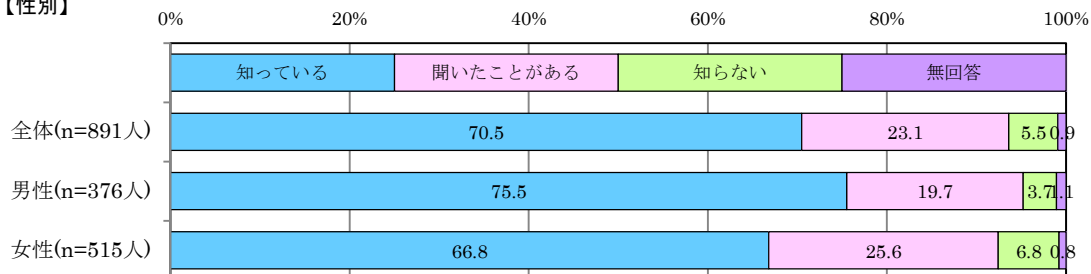
- ・性別でみると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、男性が46.3%、女性が52.2%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計は、男性が53.2%、女性が46.8%で、やや男性の方が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計は、男性では55歳～59歳で77.2%、女性では20歳～24歳で68.8%と最も多くなっている。



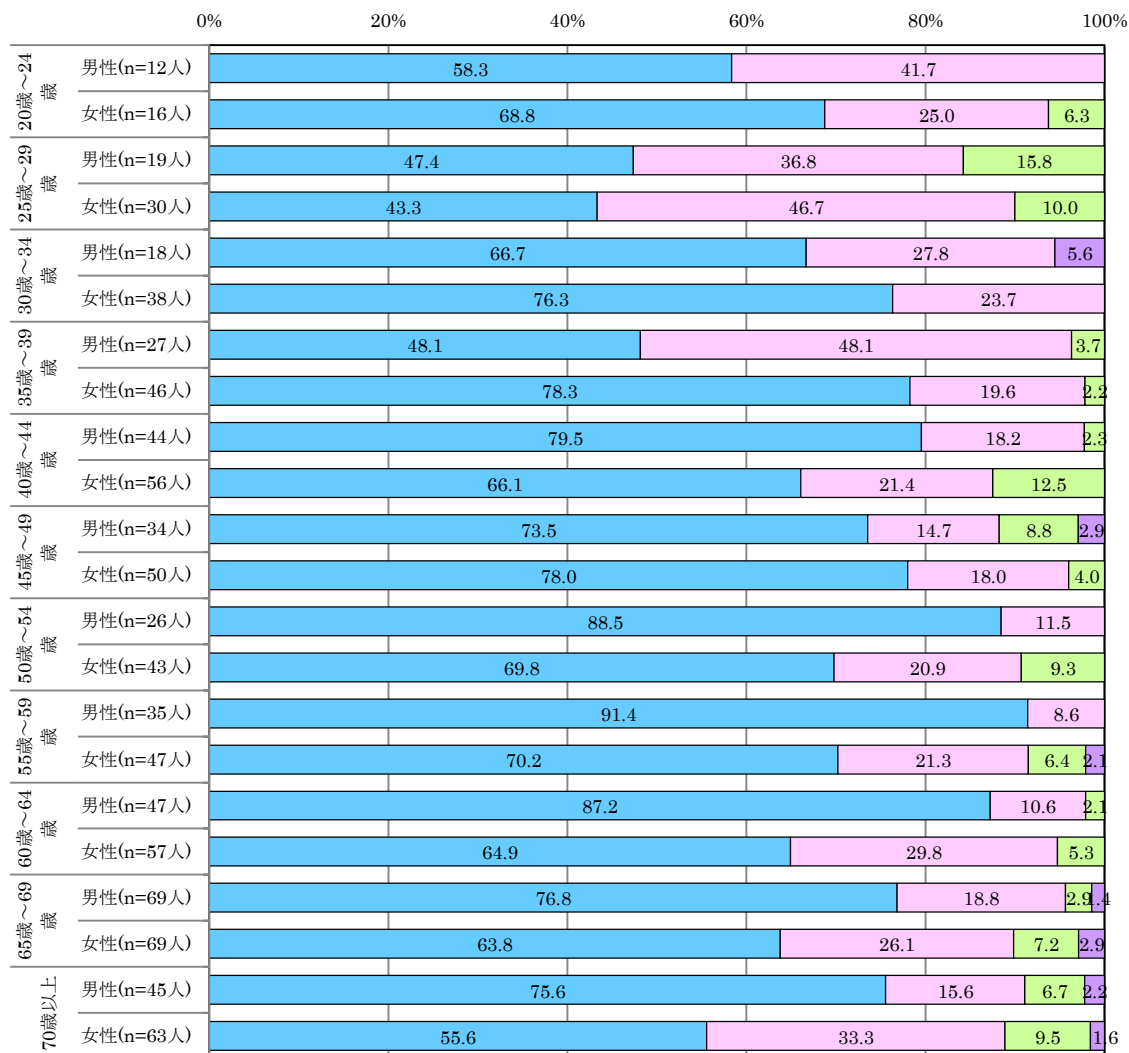
4 男女雇用機会均等法

- ・性別でみると、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計は、男性が95.2%、女性が92.4%で、どちらも9割を超えている。
- ・世代別性別でみると、男性では20歳～24歳と50歳代で、女性では30歳～34歳で、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計が100.0%になっている。

【性別】



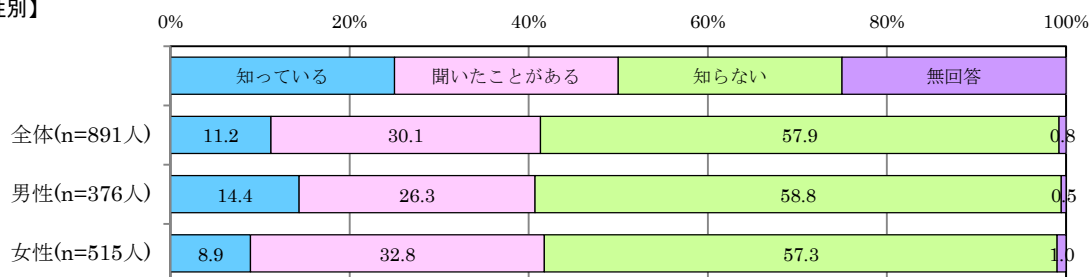
【世代別性別】



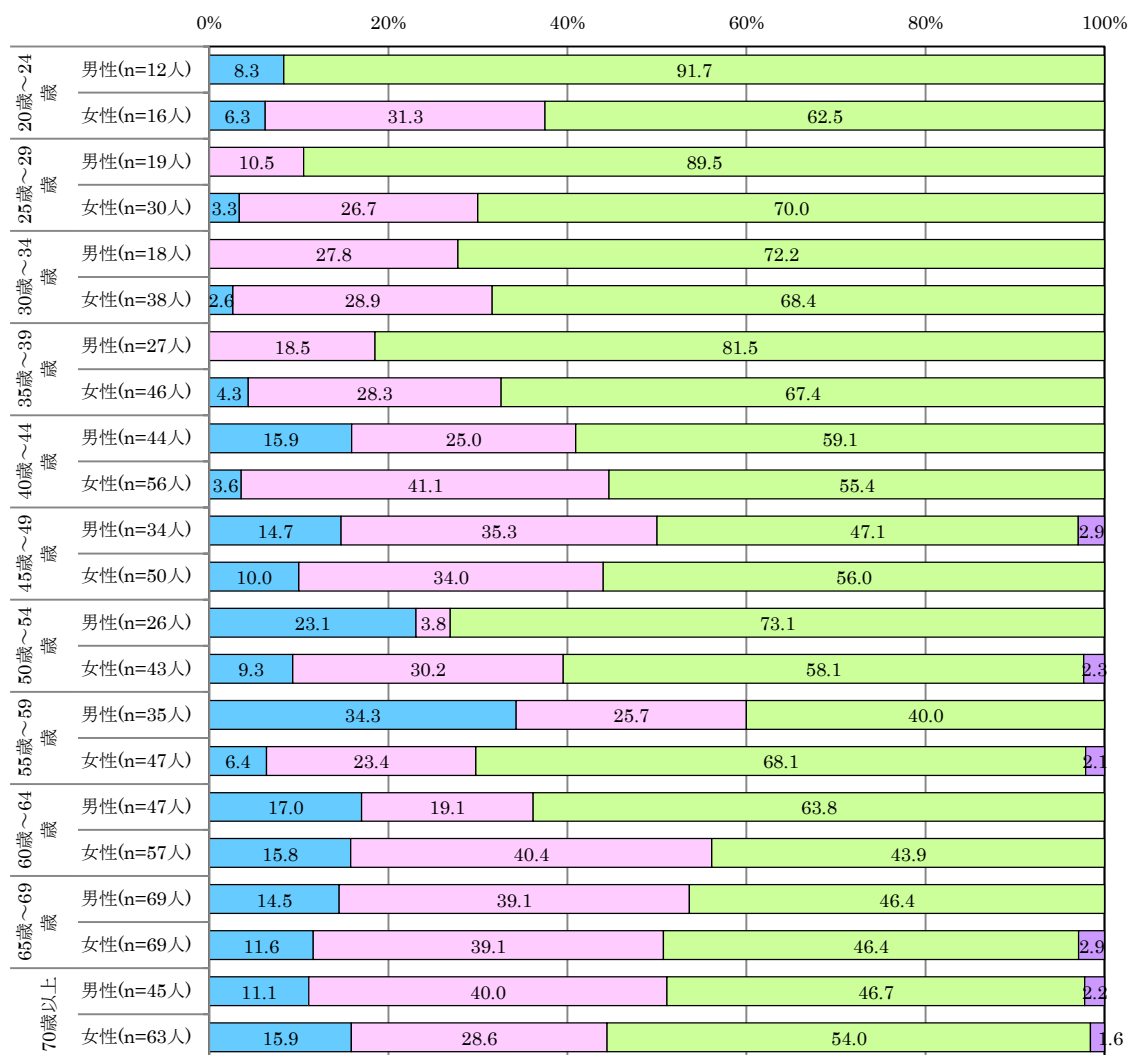
5 長野市男女共同参画推進条例

- ・性別でみると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、男性は58.8%、女性は57.3%と、男女ともに約6割となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計は、男性が40.7%、女性が41.7%となっており、若干女性の方が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性では、20歳～24歳で、「知らない」という回答割合は9割を超えている。55歳～59歳では、「知っている」という回答割合が最も高く、34.3%となっている。

【性別】

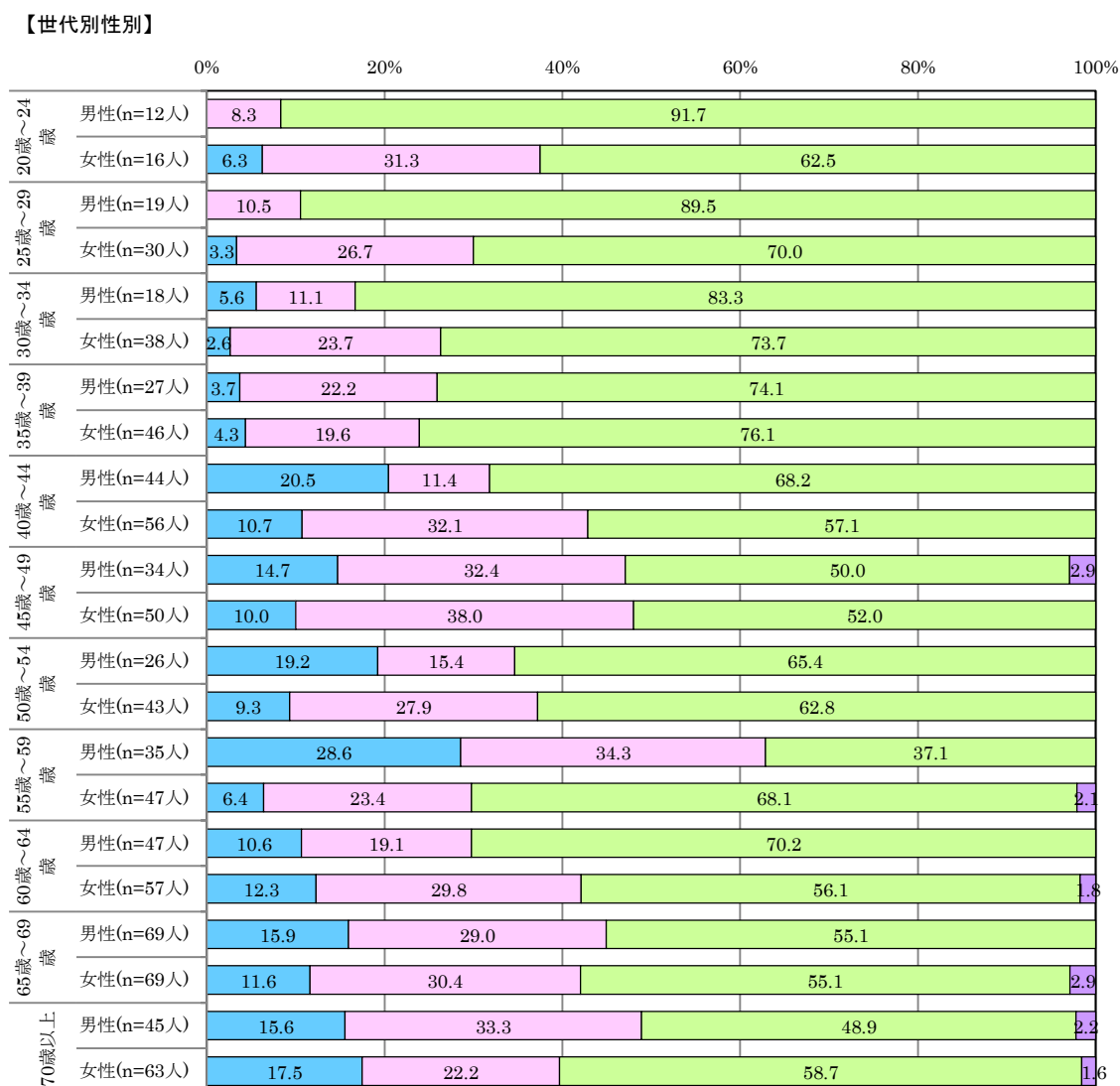
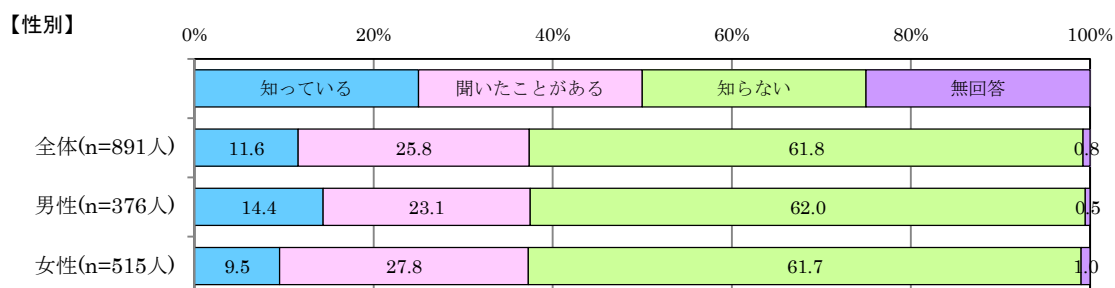


【世代別性別】



6 長野市男女共同参画センター

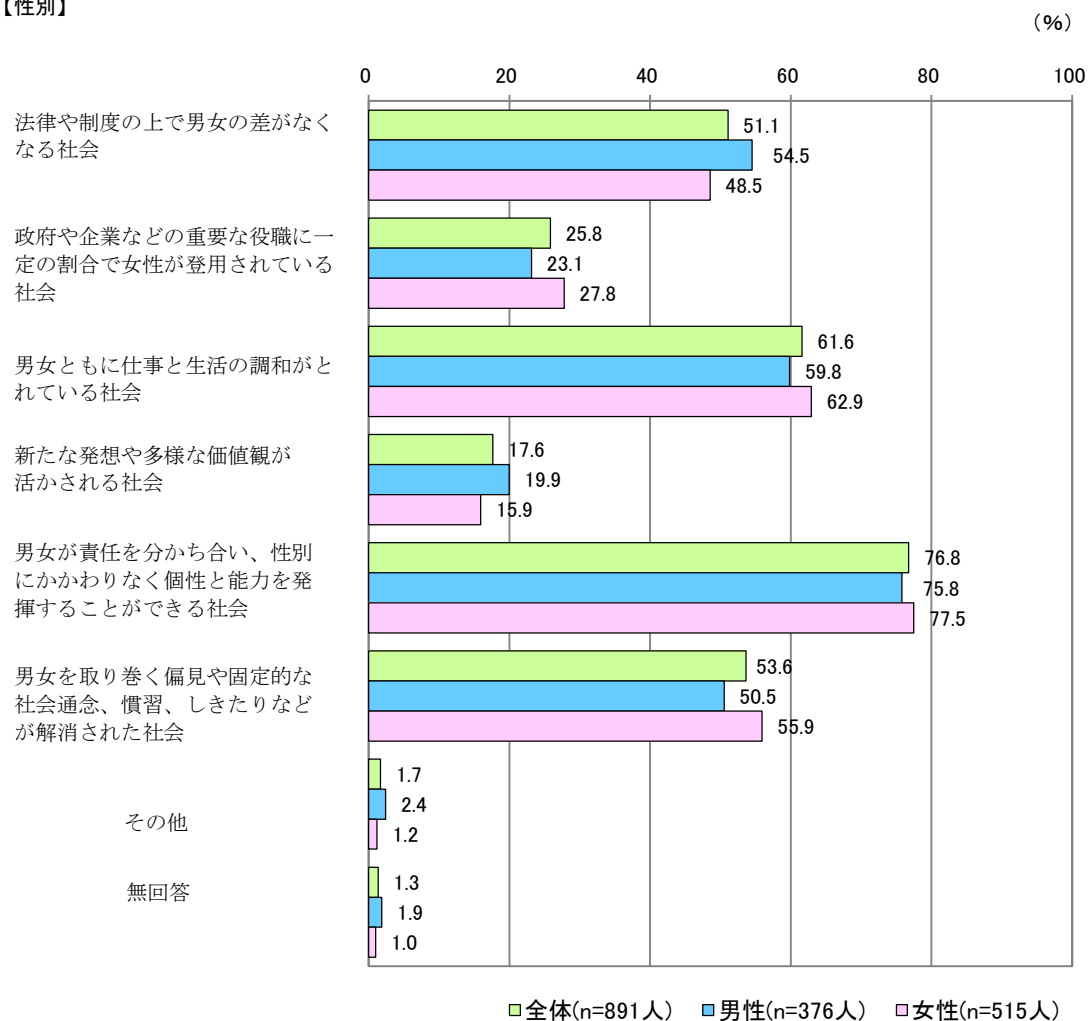
- ・性別でみると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、男性が62.0%、女性が61.7%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答の合計は、男性が37.5%、女性が37.3%と、ほぼ同じ割合になっている。
- ・世代別性別でみると、男性では、20歳代で、「知らない」が約9割の回答割合となっており、「知っている」という回答の割合が最も高いのは55歳～59歳となっている。



問3 あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。
お考えに近いものを3つまでお選びください。

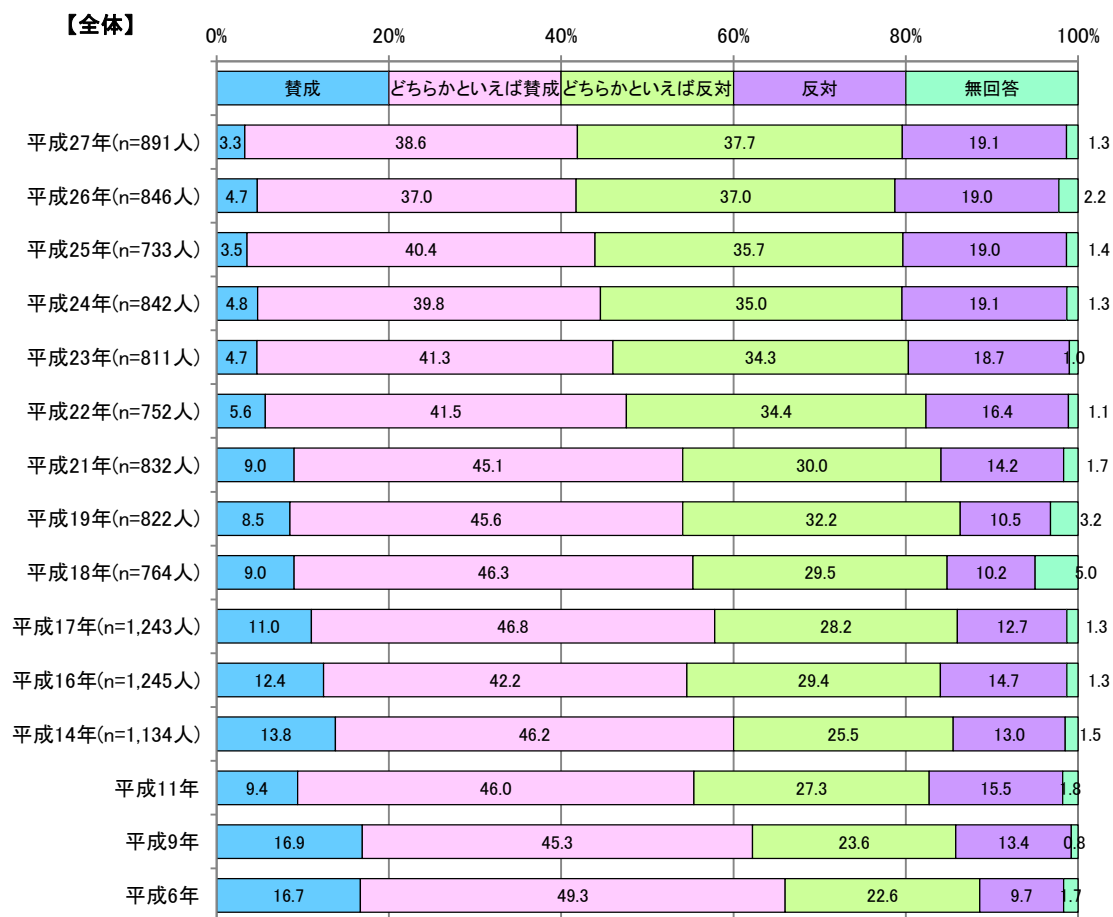
- ・全体では、「男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会」が約8割（76.8%）で最も多い回答となっている。次いで、「男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会」（61.6%）、「男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会」（53.6%）、「法律や制度の上で男女の差がなくなる社会」（51.1%）の順となっている。
- ・性別で見ると、「男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会」という回答は、男性が75.8%で、女性が77.5%となっている。

【性別】

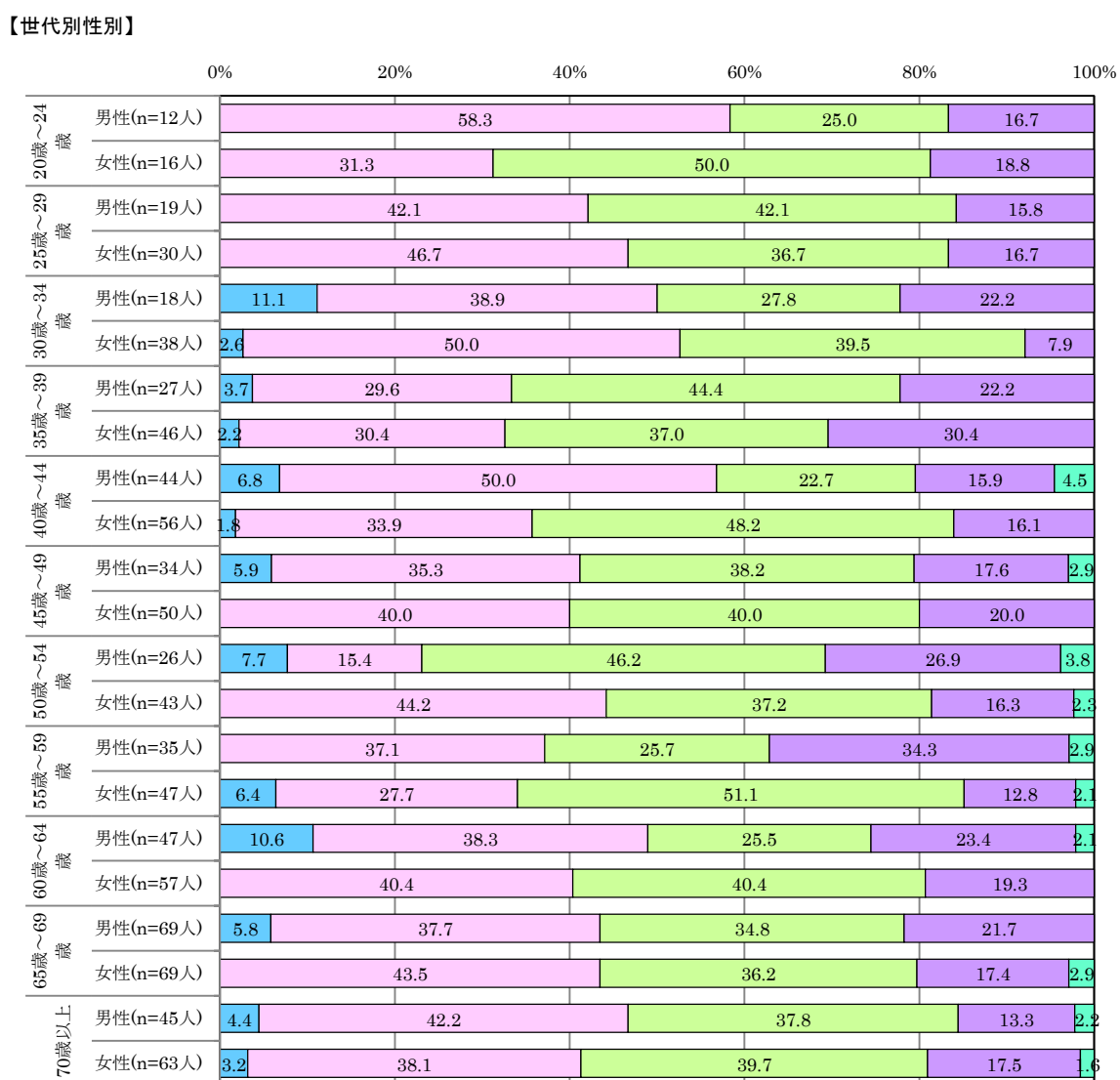
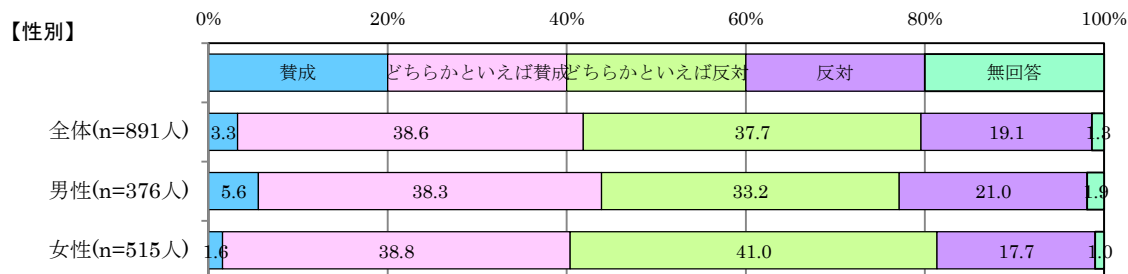


問4 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。次の中から1つお選びください。

- ・平成27年の調査結果は、「賛成」が3.3%「どちらかといえば賛成」が38.6%、「どちらかといえば反対」が37.7%、「反対」が19.1%となった。
- ・経年的にみると、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は年々減少傾向にある。平成27年は平成26年と比べて、「賛成」が1.4ポイント減り、「どちらかといえば賛成」が1.6ポイントの増加となった。「どちらかといえば反対」と「反対」の回答割合の合計は0.8ポイントの増加となった。



- ・性別でみると、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答の合計は、男性が54.2%、女性が58.7%となっている。男性より女性の方が、性別によって役割を固定する考え方に否定的な方が多くなっている。
- ・世代別性別でみると、「どちらかといえば反対」及び「反対」の回答の合計は、20歳～24歳の男性、30歳～34歳の男女、40歳～44歳、60歳～64歳の男性を除いて、5割を超えている。

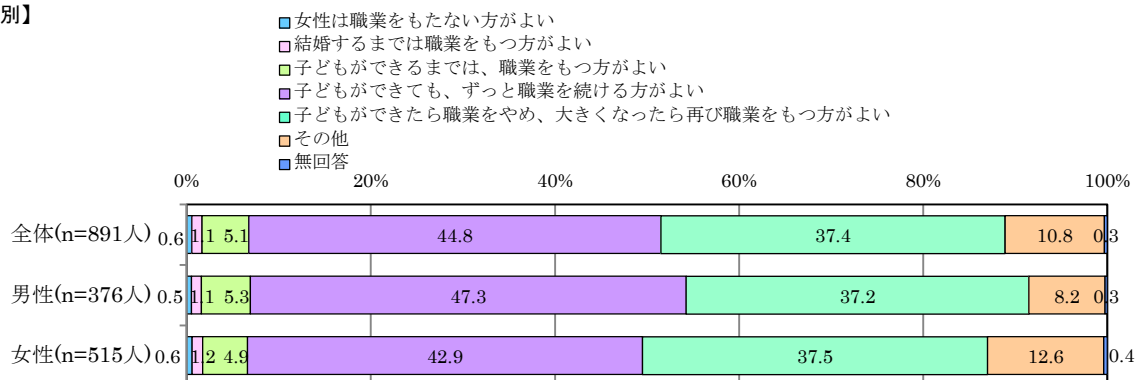


問5 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。

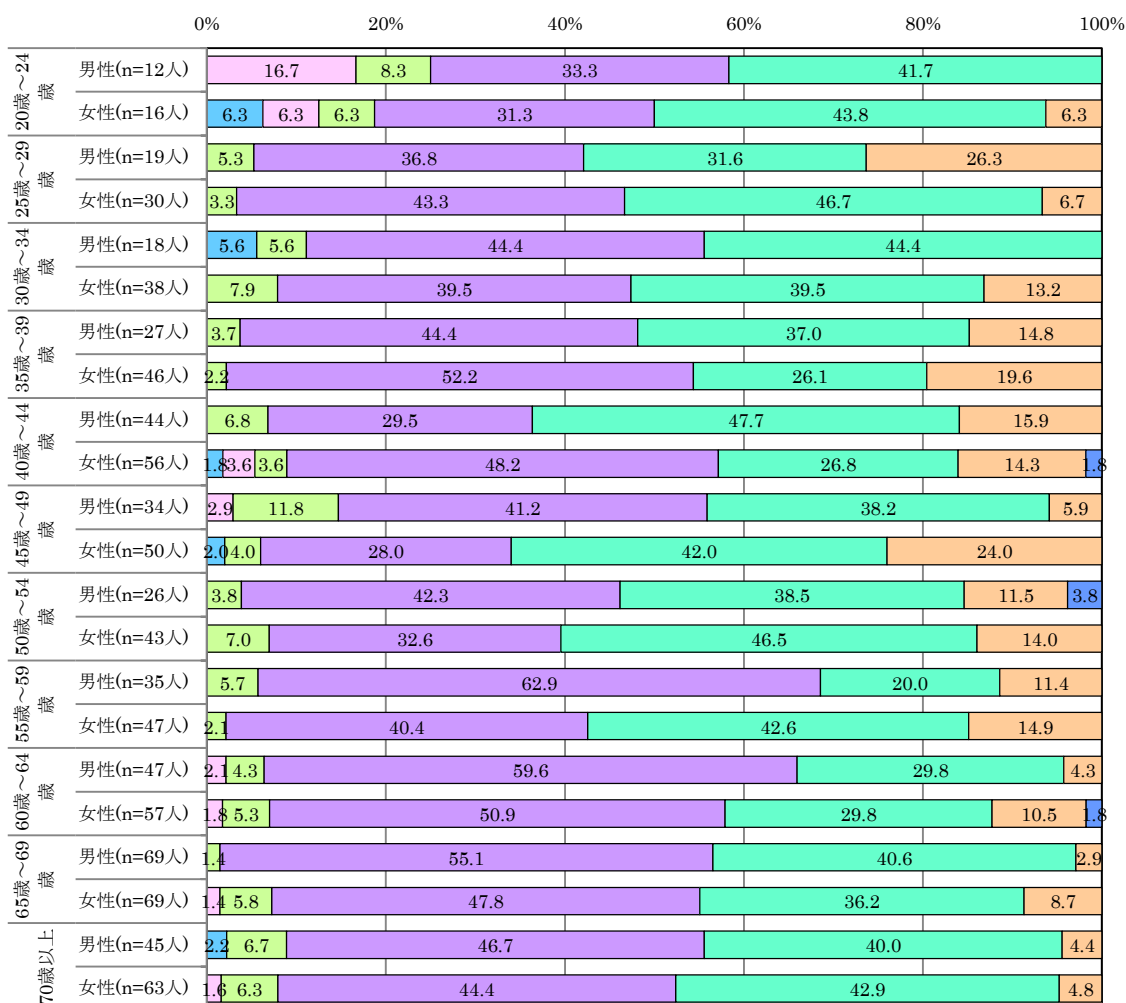
次の中から1つお選びください。

- ・性別で見ると、男性、女性ともに、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が最も多く、次いで、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」となっている。
- ・世代別性別で見ると、男性は55歳～59歳及び60歳～64歳の年代では、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が一番多くなっている。
- ・一方、女性は35歳～39歳、60歳～64歳で、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答の割合が5割を超えている。

【性別】



【世代別性別】



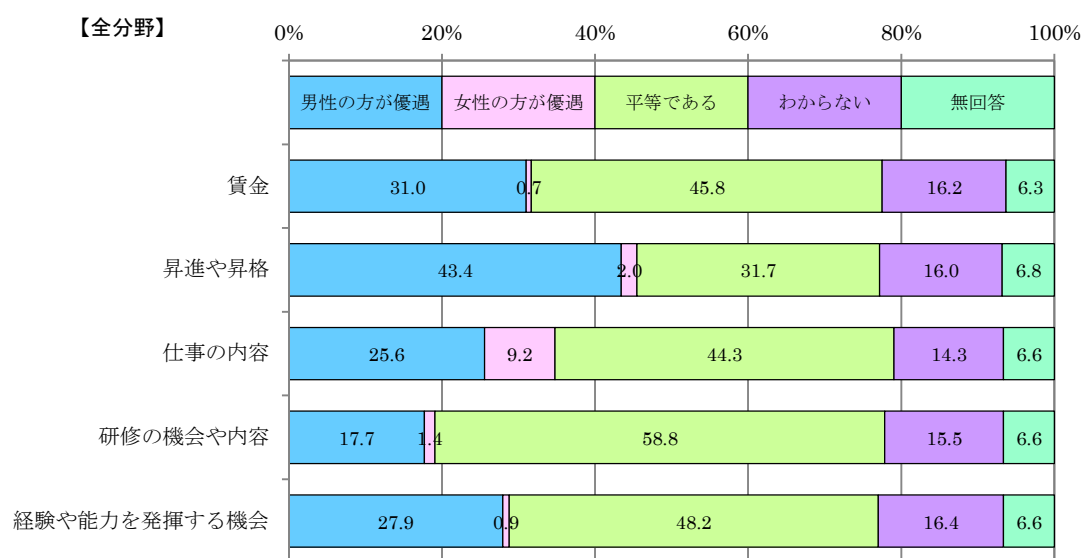
労働に関する問題

問6 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか（次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか）。

あてはまる番号を1つずつお選びください。

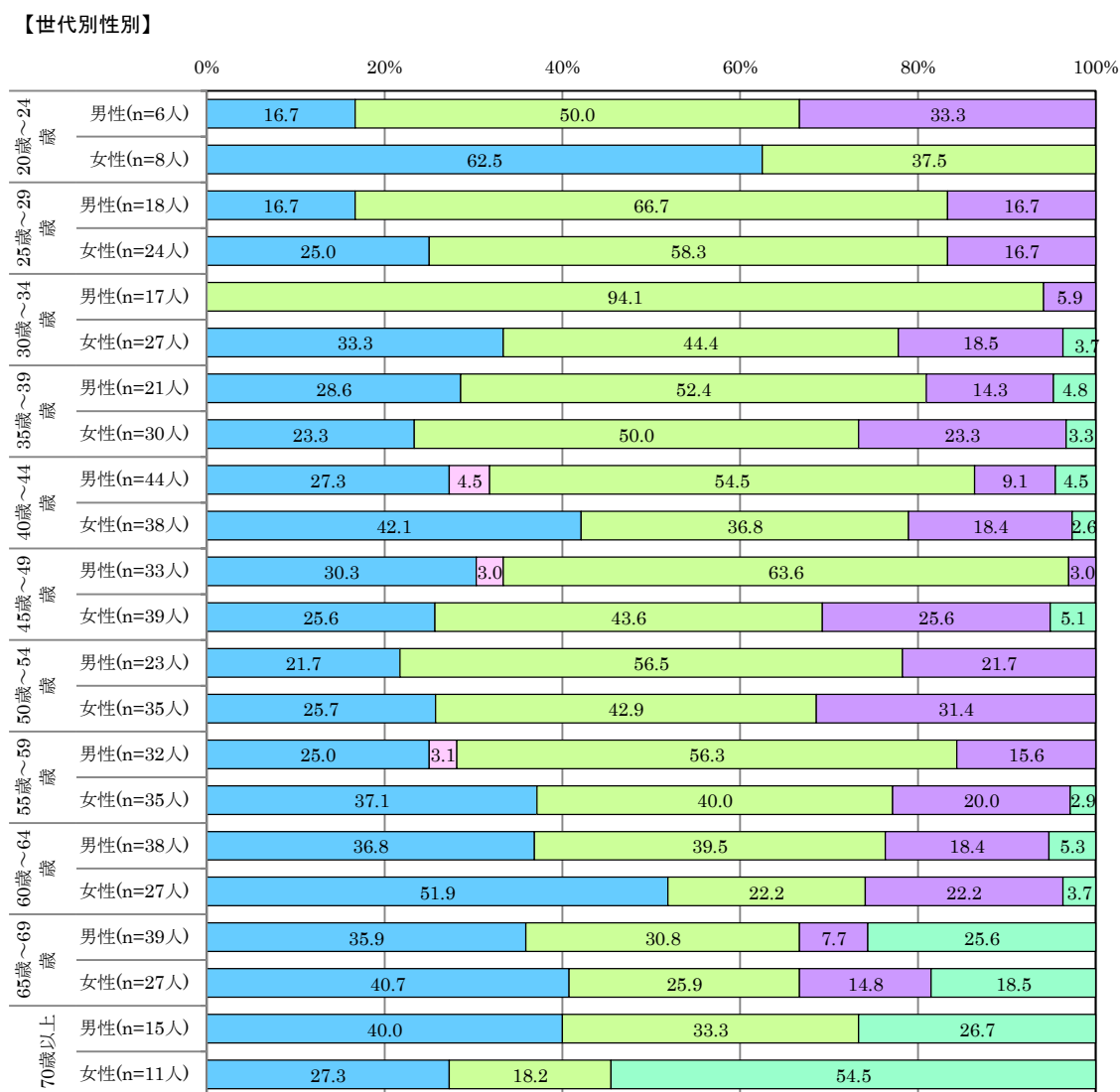
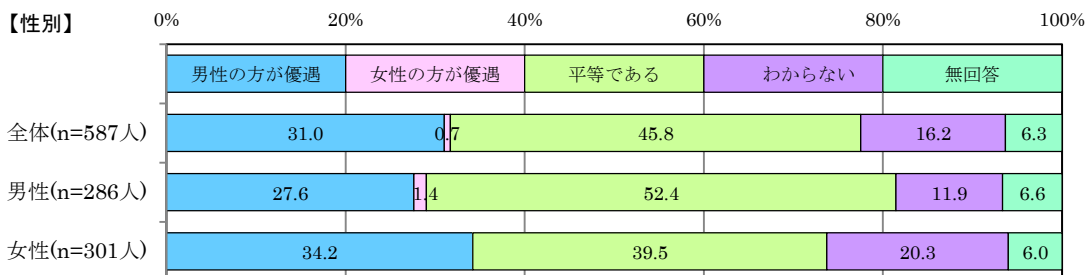
- ・「昇給や昇格」を除き、「平等である」という回答が最も多くなっている。
- ・「男性の方が優遇されている」という回答でみると、「昇進や昇格」が約4割（43.4%）で、最も多くなっている。次いで、「賃金」が約3割（31.0%）、「経験や能力を發揮する機会」（27.9%）、「仕事の内容」（25.6%）、「研修の機会や内容」（17.7%）の順に続いている。
- ・一方、「女性の方が優遇されている」という回答の割合は、「仕事の内容」が約1割（9.2%）となっている。それ以外の分野では、2%以下となっている。



(全体 n=587人)

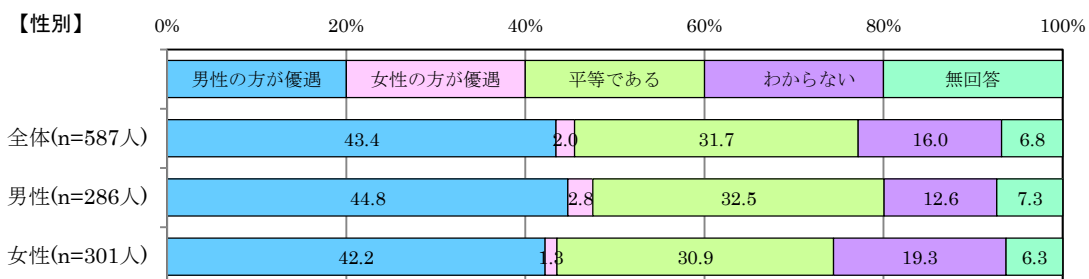
1 賃金

- ・性別でみると、男女ともに、「平等である」という回答が最も多く、男性は 52.4%で、女性は 39.5%となっている。
- ・世代別性別でみると、「平等である」という回答の割合は、30 歳～34 歳の男性で 9 割を超えている。
- ・「男性の方が優遇されている」という回答の割合は、20 歳～24 歳の女性で約 6 割（62.5%）と、ほかの年代に比べて高くなっている。

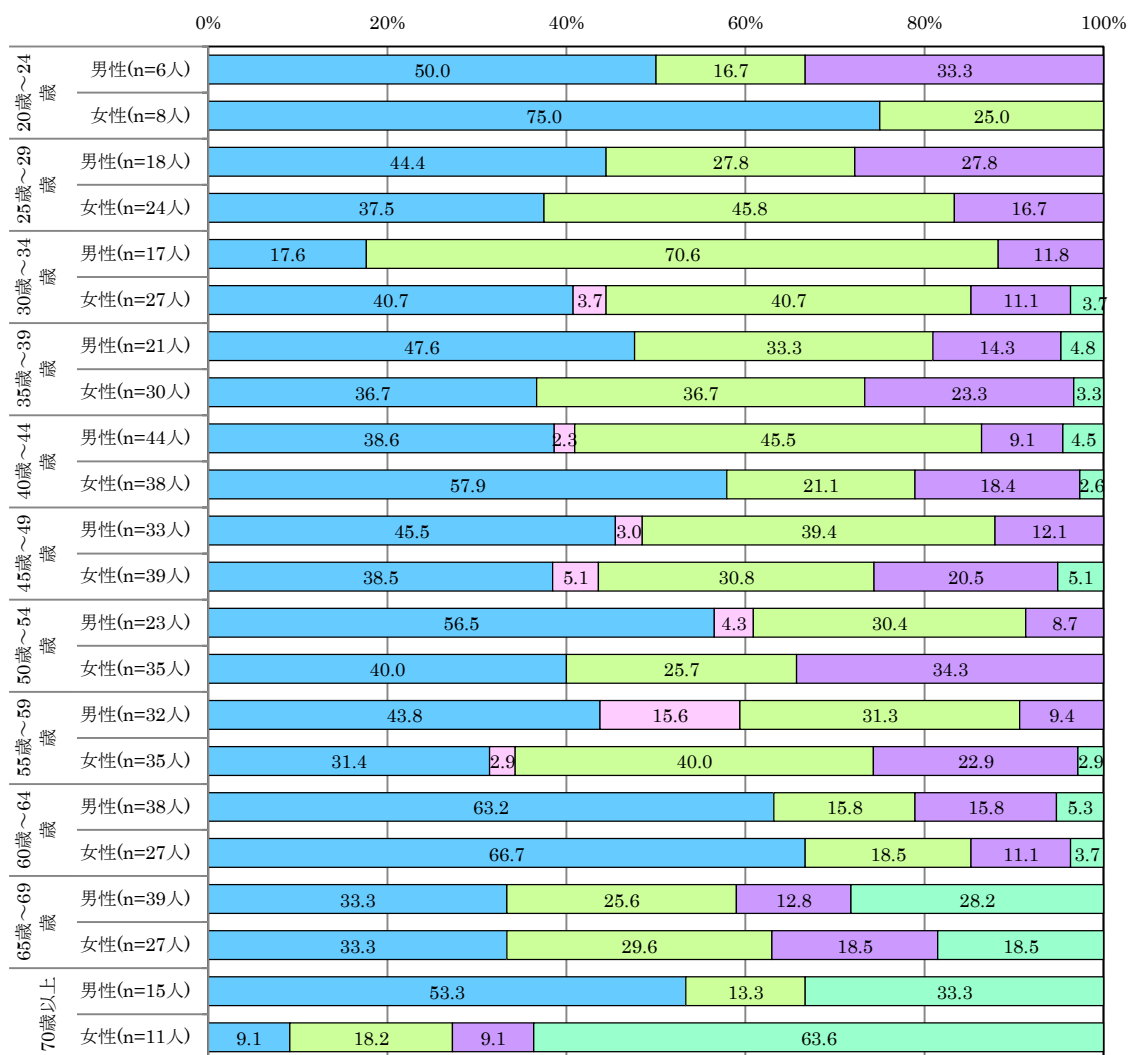


2 昇進や昇格

- 性別でみると、男女とも「男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、どちらも4割を超える回答割合となっている。
- 「平等である」という回答は、男性が32.5%、女性が30.9%となり、男性の方が女性より回答割合が高くなっている。

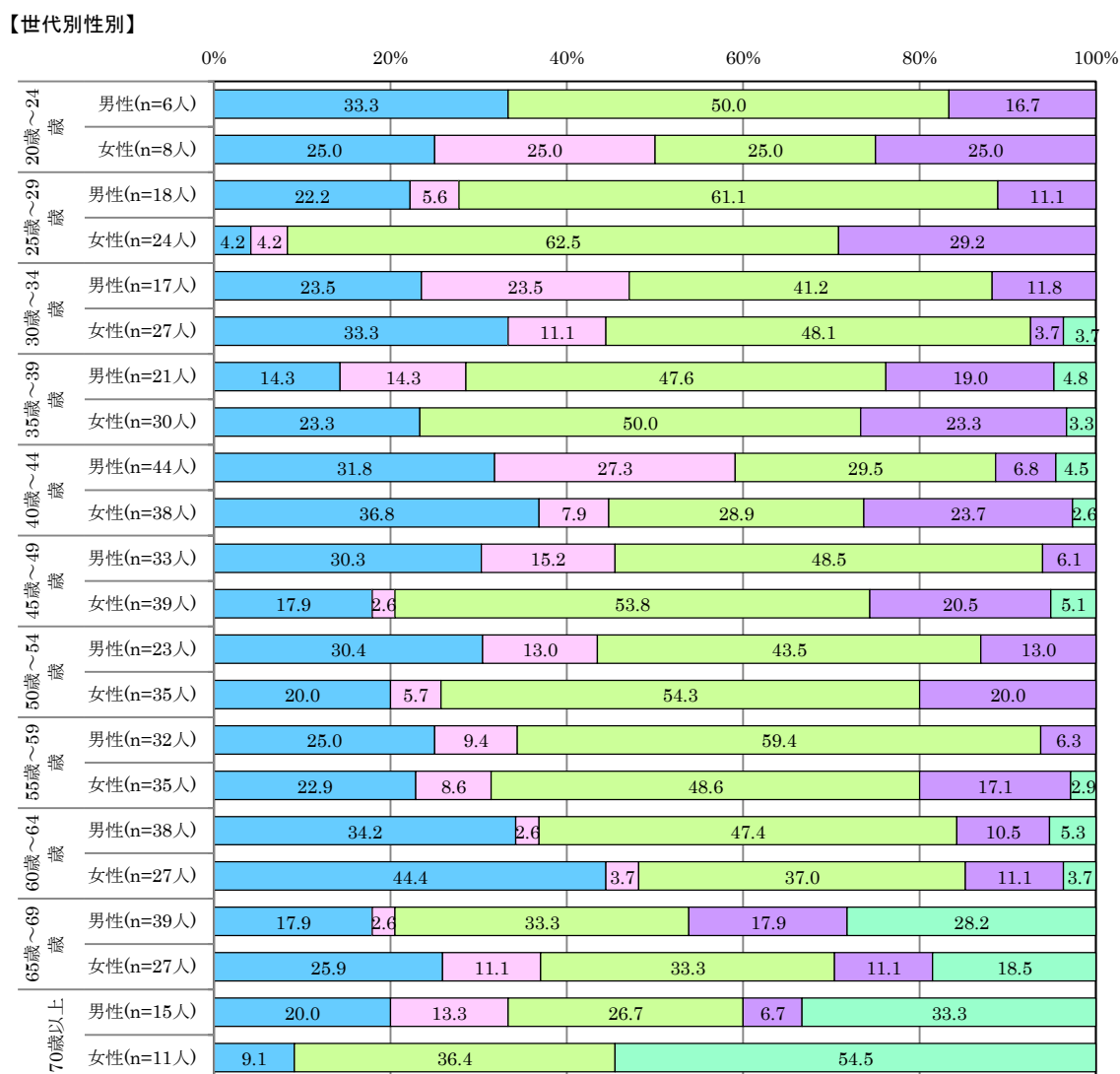
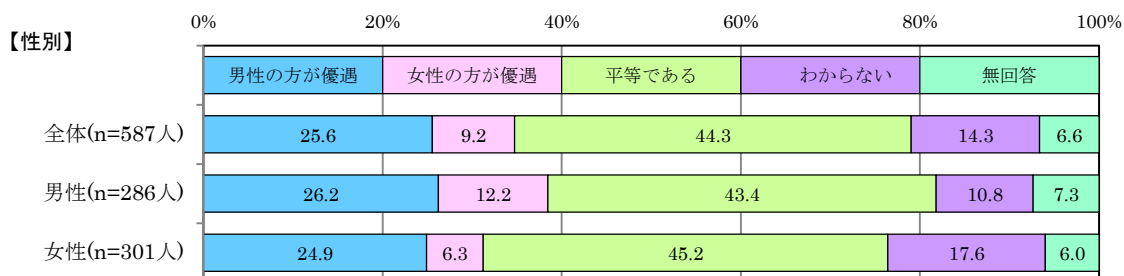


【世代別性別】



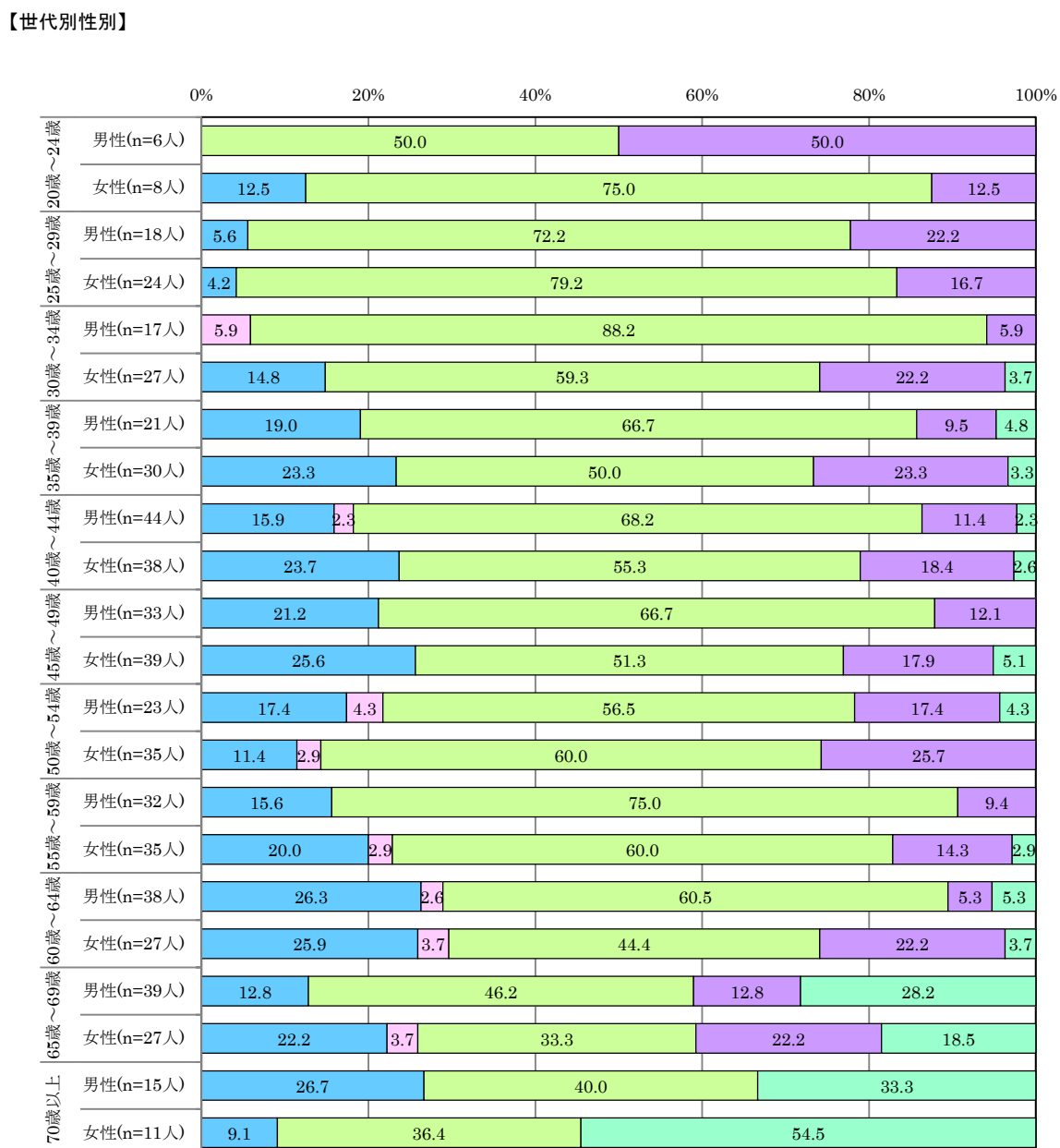
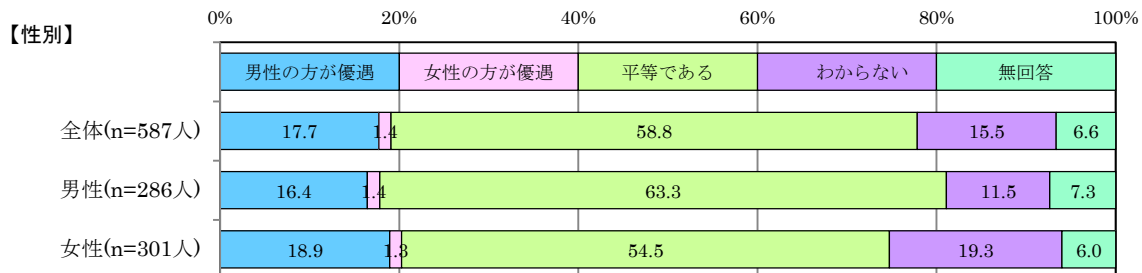
3 仕事の内容

- ・性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、男性が43.4%、女性が45.2%となっている。
- ・「女性の方が優遇されている」という回答は、男性が12.2%、女性が6.3%で、男性の回答割合が高く、男女間に意識の差がみられる。
- ・世代別性別では、女性の40歳～44歳、60歳～64歳においては、「男性の方が優遇されている」という回答が、「平等である」という回答を上回っている。



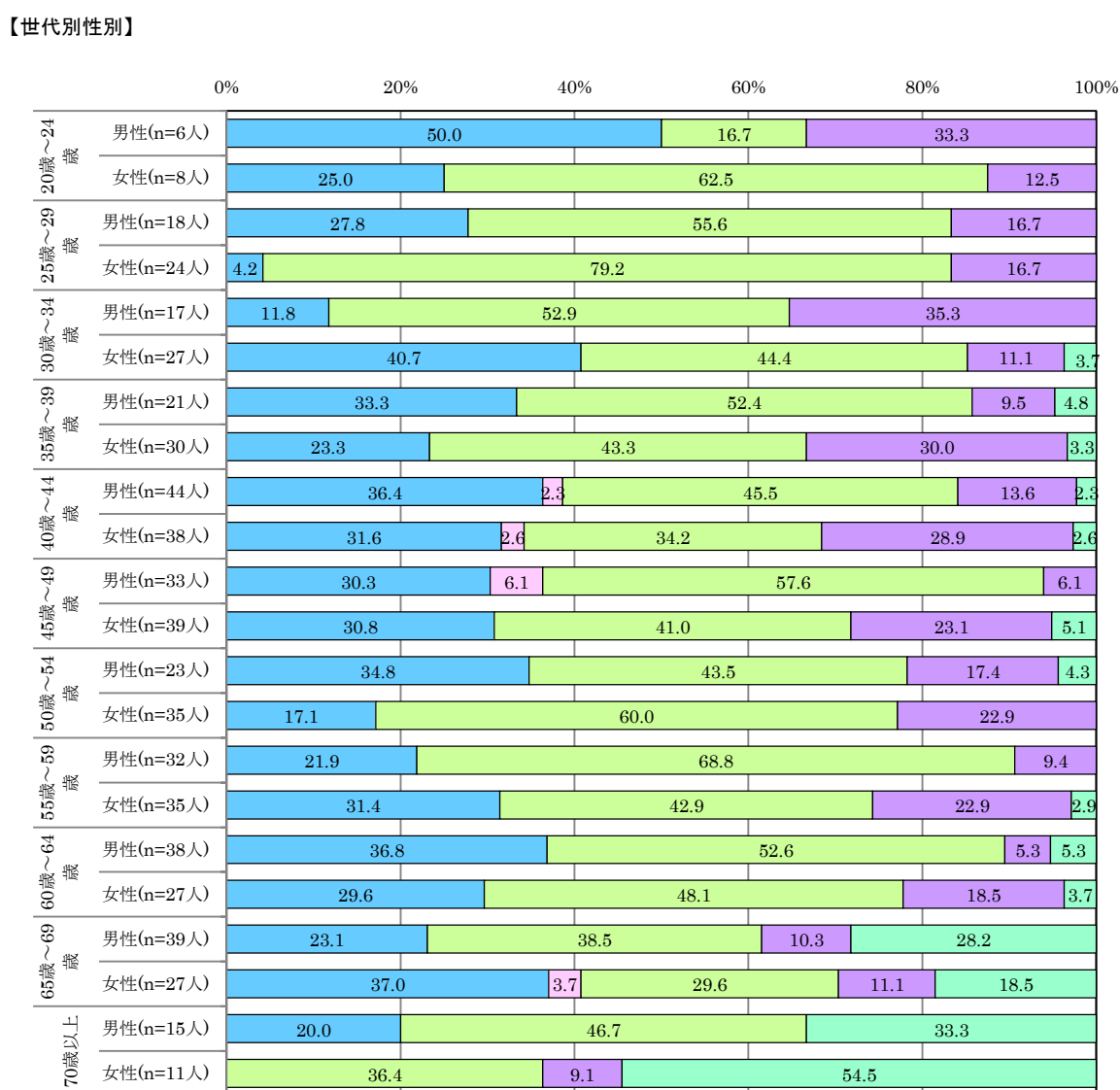
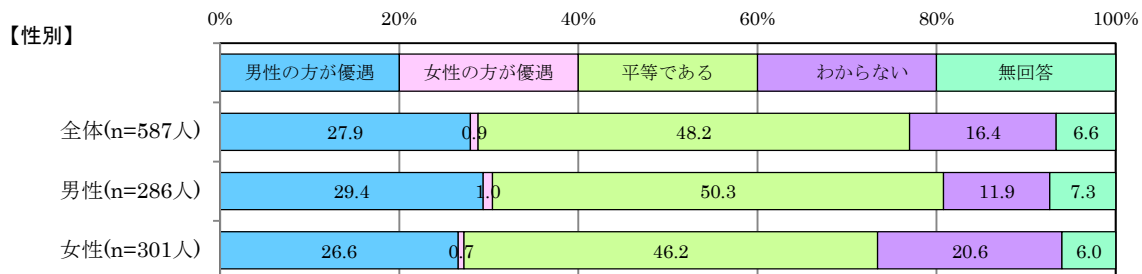
4 研修の機会や内容

- ・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が63.3%、女性が54.5%となっている。
- ・世代別性別でみると、70歳以上の女性以外は、いずれの世代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。
- ・20歳～24歳男性、65歳以上の男女で、「わからない」又は「無回答」という回答の割合が多い傾向がみられる。



5 経験や能力を発揮する機会

- ・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が50.3%、女性が46.2%となっている。
- ・世代別性別でみると、男性では20歳～24歳、女性では65歳～69歳を除いて、いずれの世代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。

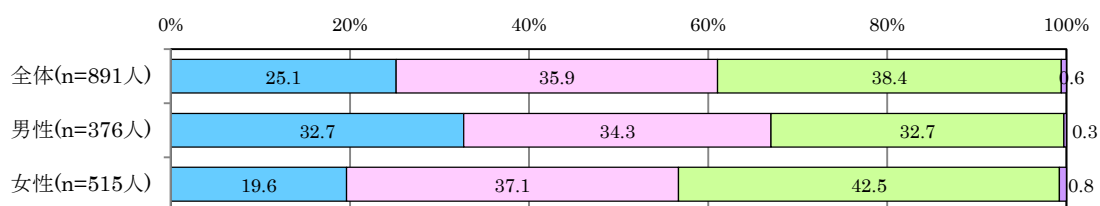


仕事と家庭生活の調和に関する問題

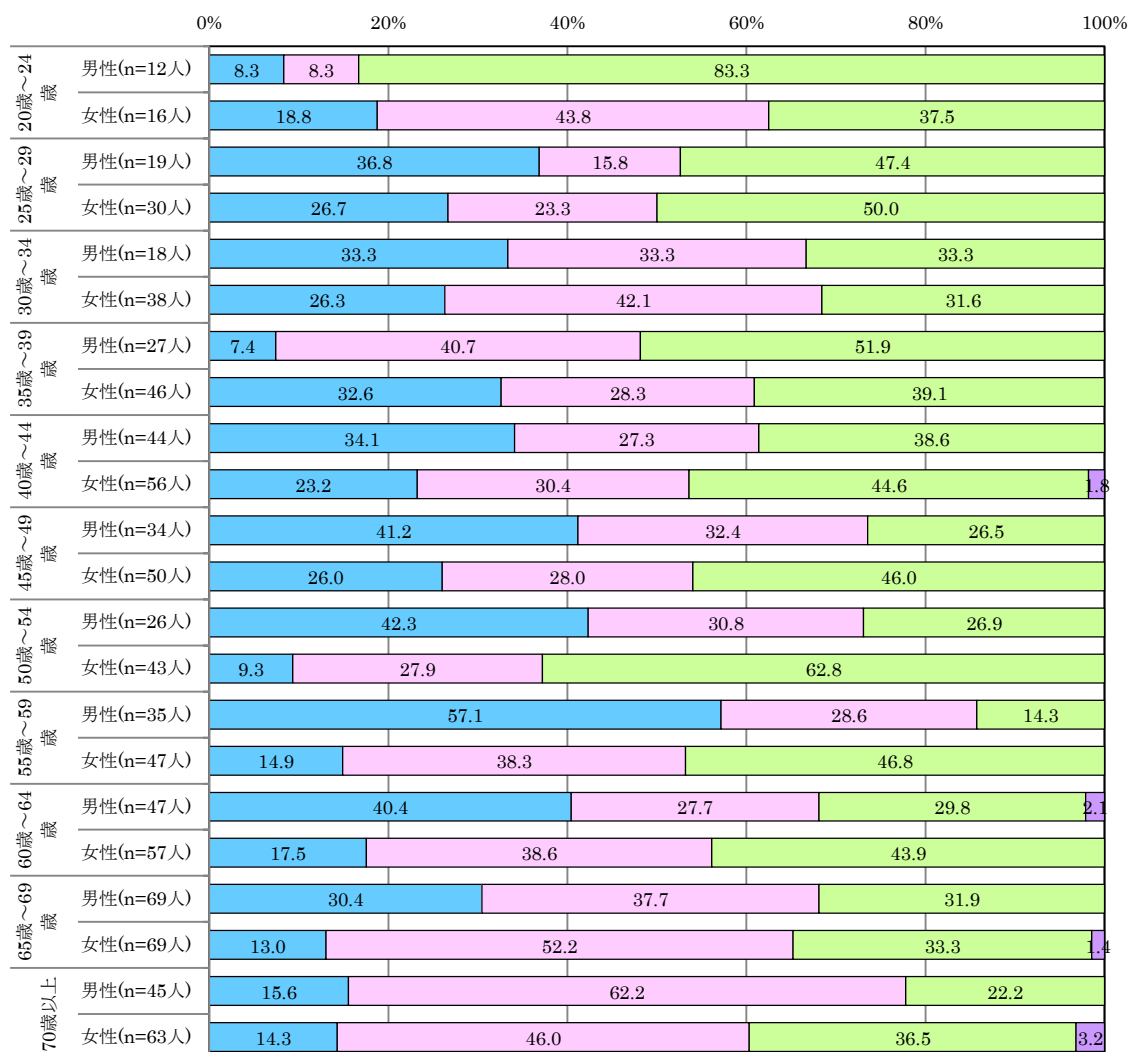
問7 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。次の中から1つお選びください。

- ・性別で見ると、男性では「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」という回答が最も多く、約3割（34.3%）であるのに対し、女性では「知らない」が約4割（42.5%）となっている。
- ・「言葉も内容も知っている」という回答は、男性が32.7%、女性が19.6%で、男性の方が女性より回答割合が高くなっている。
- ・世代別性別で見ると、男性では55歳～59歳、女性では35歳～39歳で、「言葉も内容も知っている」という回答割合が高くなっている。

【性別】 ■言葉も内容も知っている □言葉は聞いたことがあるが内容は知らない □知らない □無回答



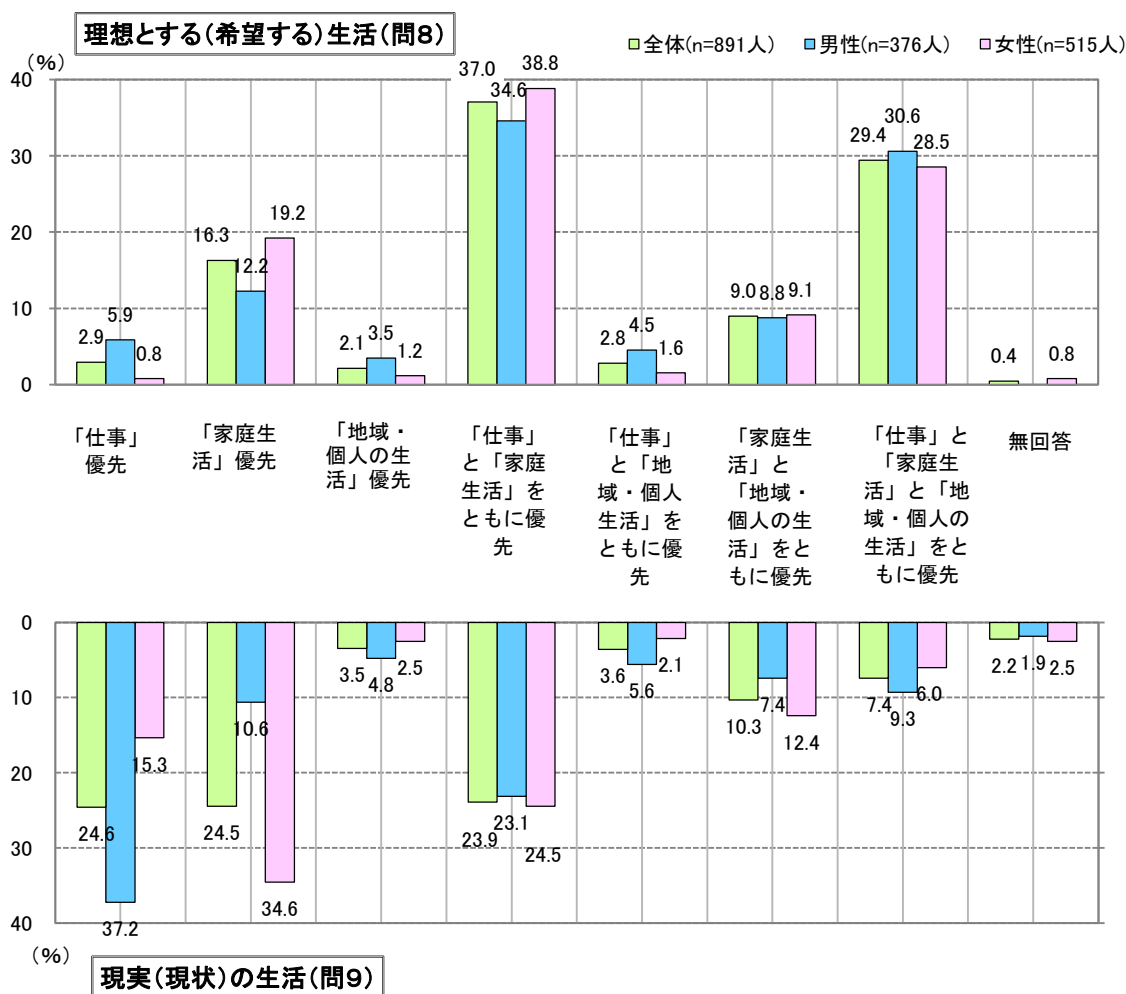
【世代別性別】



問8 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度について、あなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものを1つお選びください。

問9 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、あなたの現実（現状）の生活に最も近いものを1つお選びください。

- ・全体で見ると、問8の理想とする生活については「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」という回答が最も多く、約4割（37.0%）となっている。次に、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」（29.4%）、「『家庭生活』優先」（16.3%）の順に続いている。
- ・一方、問9の現実の生活では、「『仕事』優先」（24.6%）、「『家庭生活』優先」（24.5%）という回答がほぼ同率で最も多く、次いで、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（23.9%）となっている。
- ・理想の生活では1番目であった「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が、現実の生活では3番目となっている。また、理想の生活で2番目に多かった「『仕事』と『家庭生活』、『地域活動・個人の生活』をともに優先」という回答は、現実の生活では、5番目となっている。
- ・性別で見ると、理想の生活においては男女の回答に大きな差は見られず、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も多い回答となっている。しかし、現実の生活においては、男性は「『仕事』優先」、女性は「『家庭生活』優先」が最も多い回答となり、理想の生活と現実の生活に差があることがうかがえる。

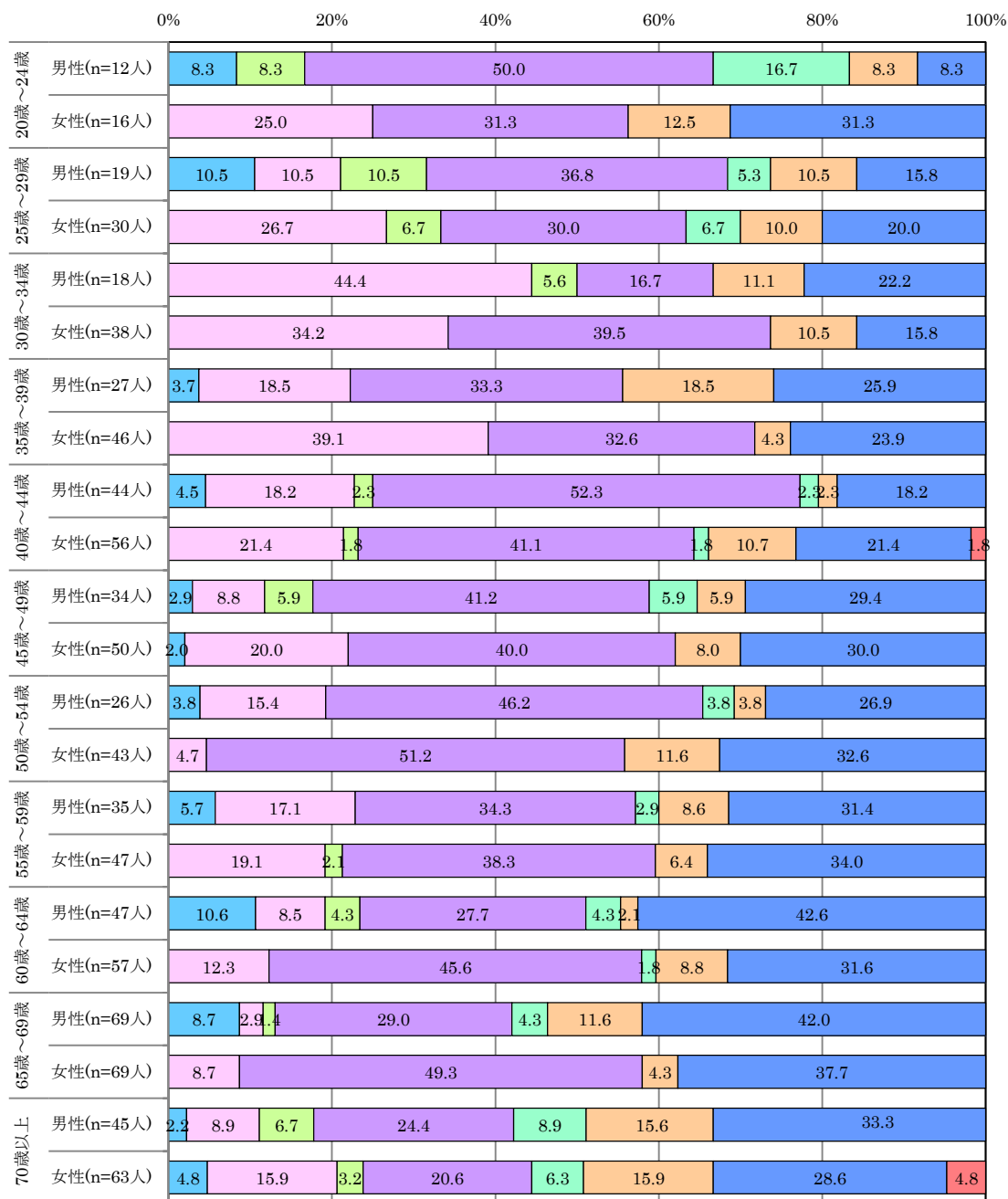


問8 理想とする（希望する）生活 世代別性別

- ・ 世代別性別でみると、男性では40歳～44歳、女性では50歳～54歳で『仕事』と『家庭生活』をともに優先」という回答の割合が5割を超えている。
- ・ 『家庭生活』優先」という回答は、30歳～34歳の男性で最も多い回答となっている。

【世代別性別】

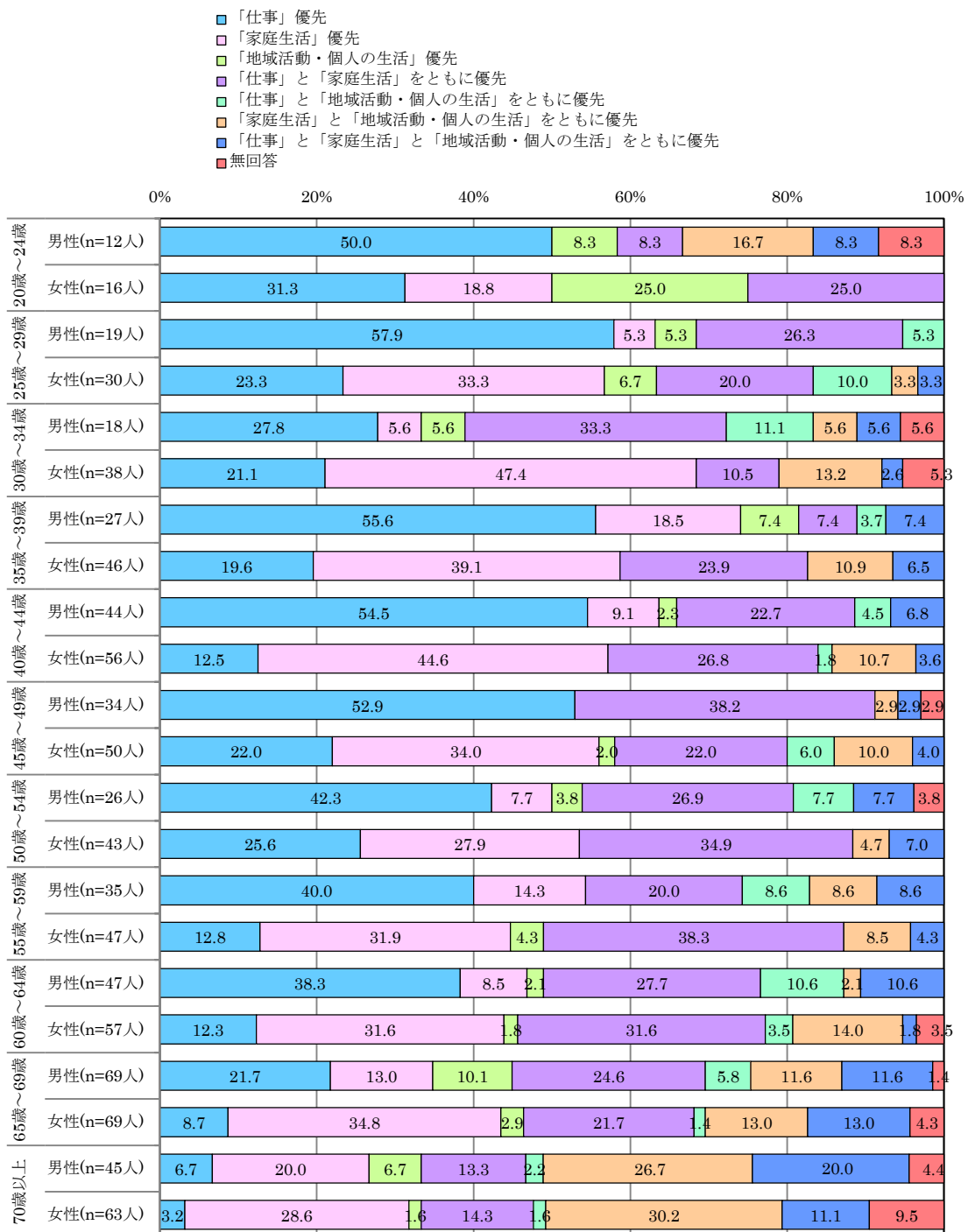
- 「仕事」優先
- 「家庭生活」優先
- 「地域活動・個人の生活」優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 無回答



問9 現実（現状）の生活 世代別性別

- ・世代別性別でみると、男性は、30歳～34歳、65歳～69歳、70歳以上を除く、いずれの年代でも「『仕事』優先」という回答が最も多くなっている。一方女性は、25歳～29歳、30歳代、40歳代で「『家庭生活』優先」という回答が最も多くなっており、50歳代では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が最も多い回答となっている。
- ・「『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」という回答は、70歳以上で増加している。

【世代別性別】



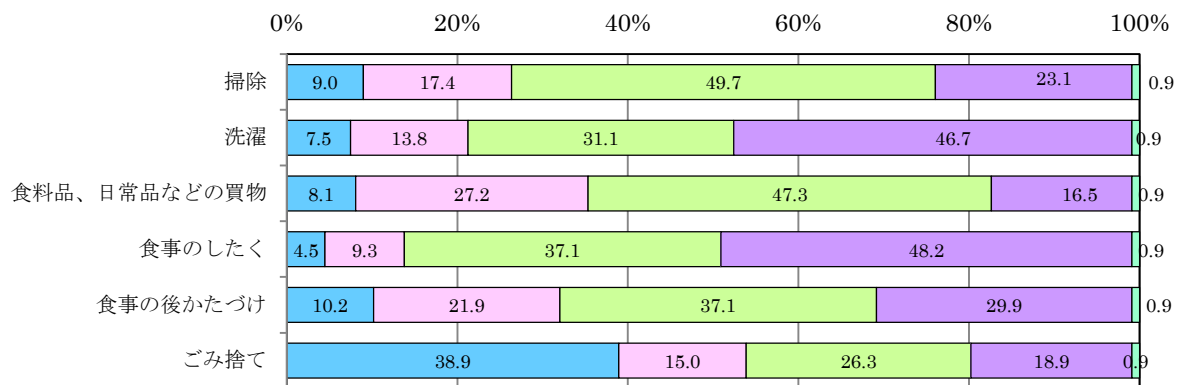
問 10 あなたは次にあげる家事をしていますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。
 (※集計対象は世帯構成で、「単身世帯」、「その他」、「無回答」を除く 806 人とする)

- ・全分野では、男性は、「主に自分がしている」という回答は、「ゴミ捨て」が最も多く、約4割(38.9%)となっている。次いで、「食事の後かたづけ」(10.2%)、「掃除」(9.0%)と続いている。
- ・女性は、「主に自分がしている」という回答は、「食事のしたく」が最も多く、約8割(78.2%)となっている。次いで、「洗濯」(77.3%)、「掃除」(72.5%)となっている。

【性別】

男性

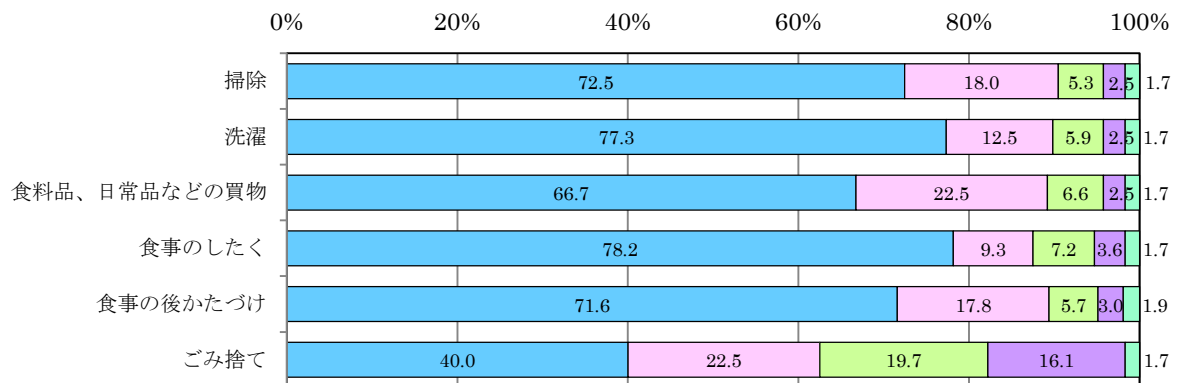
■主に自分がしている ■自分と家族が同じ程度している ■自分は手伝い程度している
 ■していない ■無回答



男性(n=334人)

女性

■主に自分がしている ■自分と家族が同じ程度している ■自分は手伝い程度している
 ■していない ■無回答

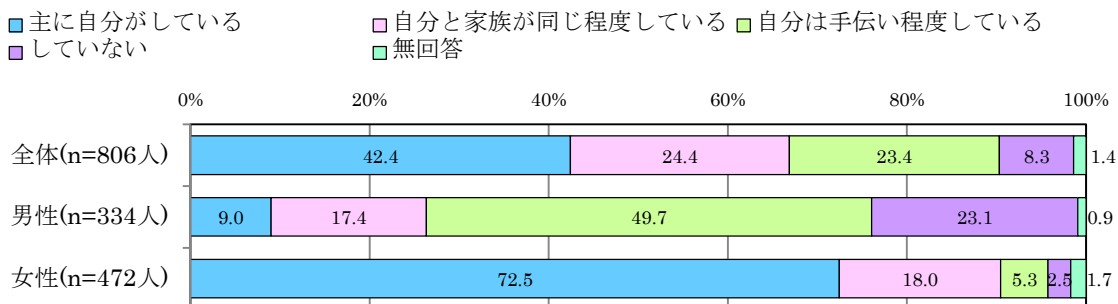


女性(n=472人)

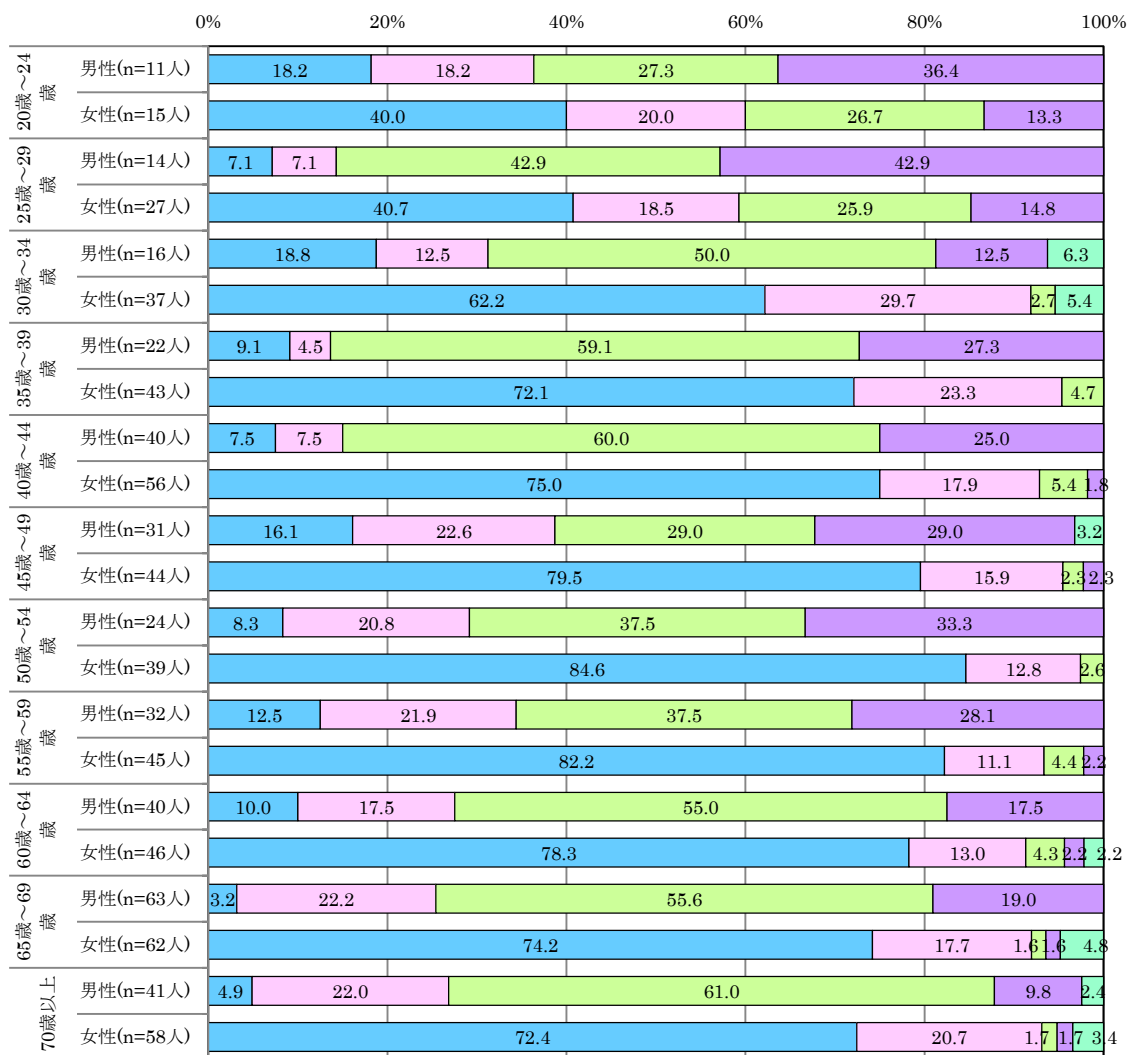
1 掃除

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(72.5%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(49.7%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、「していない」という回答が最も多いのは、25歳～29歳の男性 42.9%となっている。

【性別】

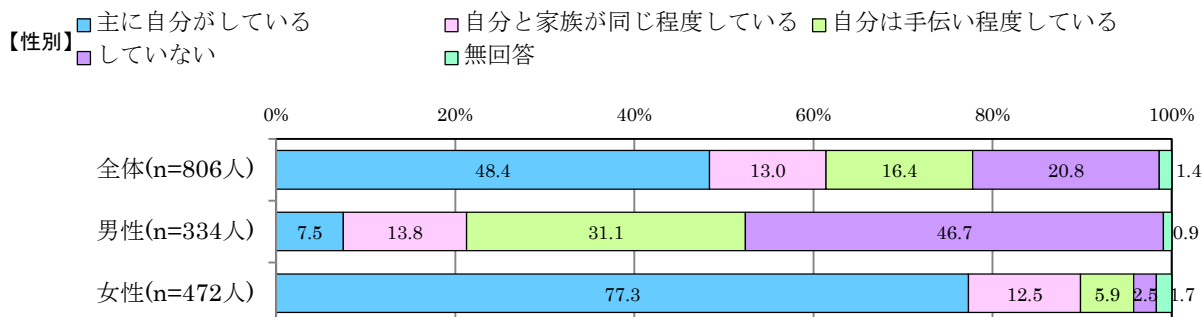


【世代別性別】

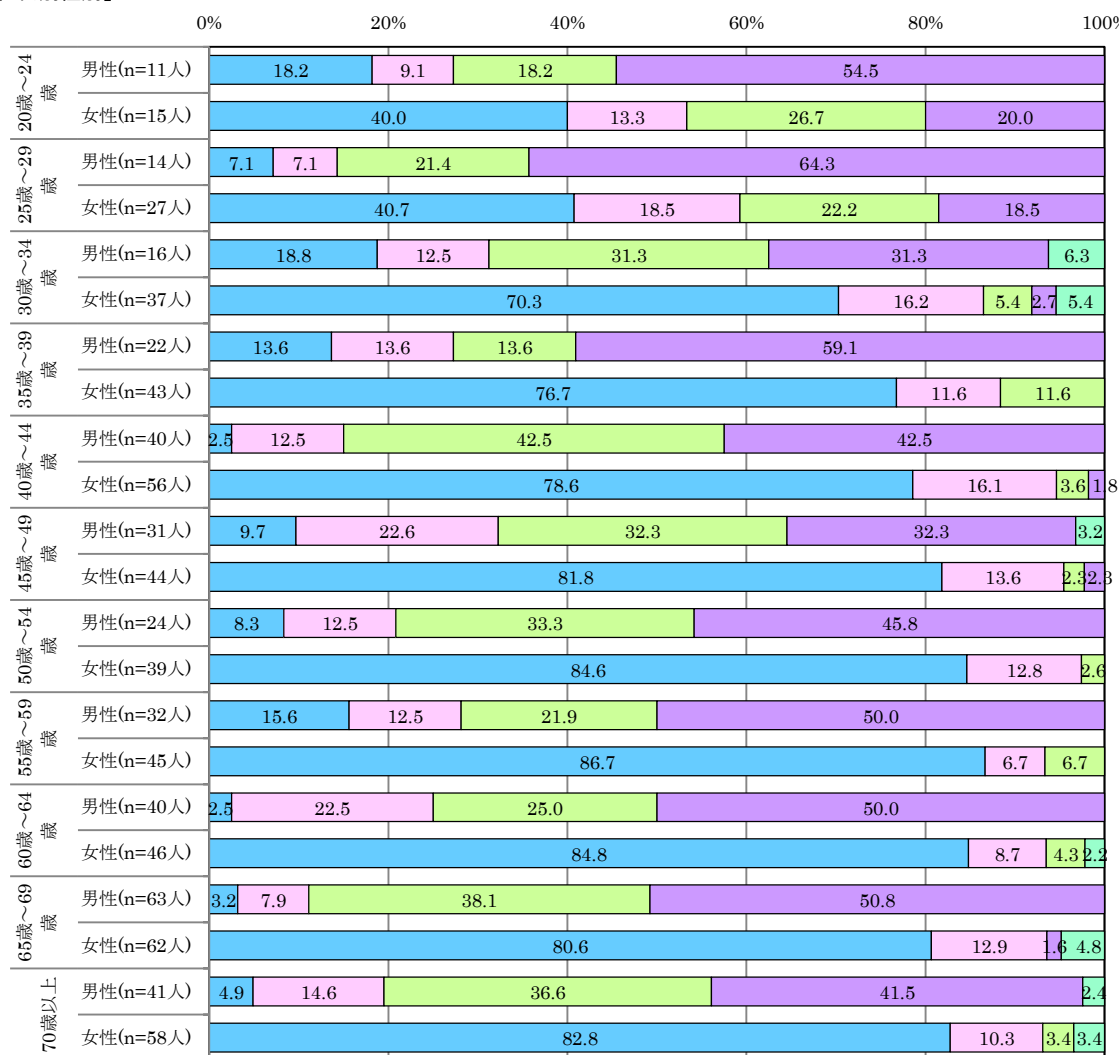


2 洗濯

- ・性別で見ると、女性は「主に自分がしている」(77.3%)という回答が最も多く、男性は「していない」(46.7%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別で見ると、25歳～29歳、35歳～39歳の男性では、「していない」という回答割合が約6割となっている。

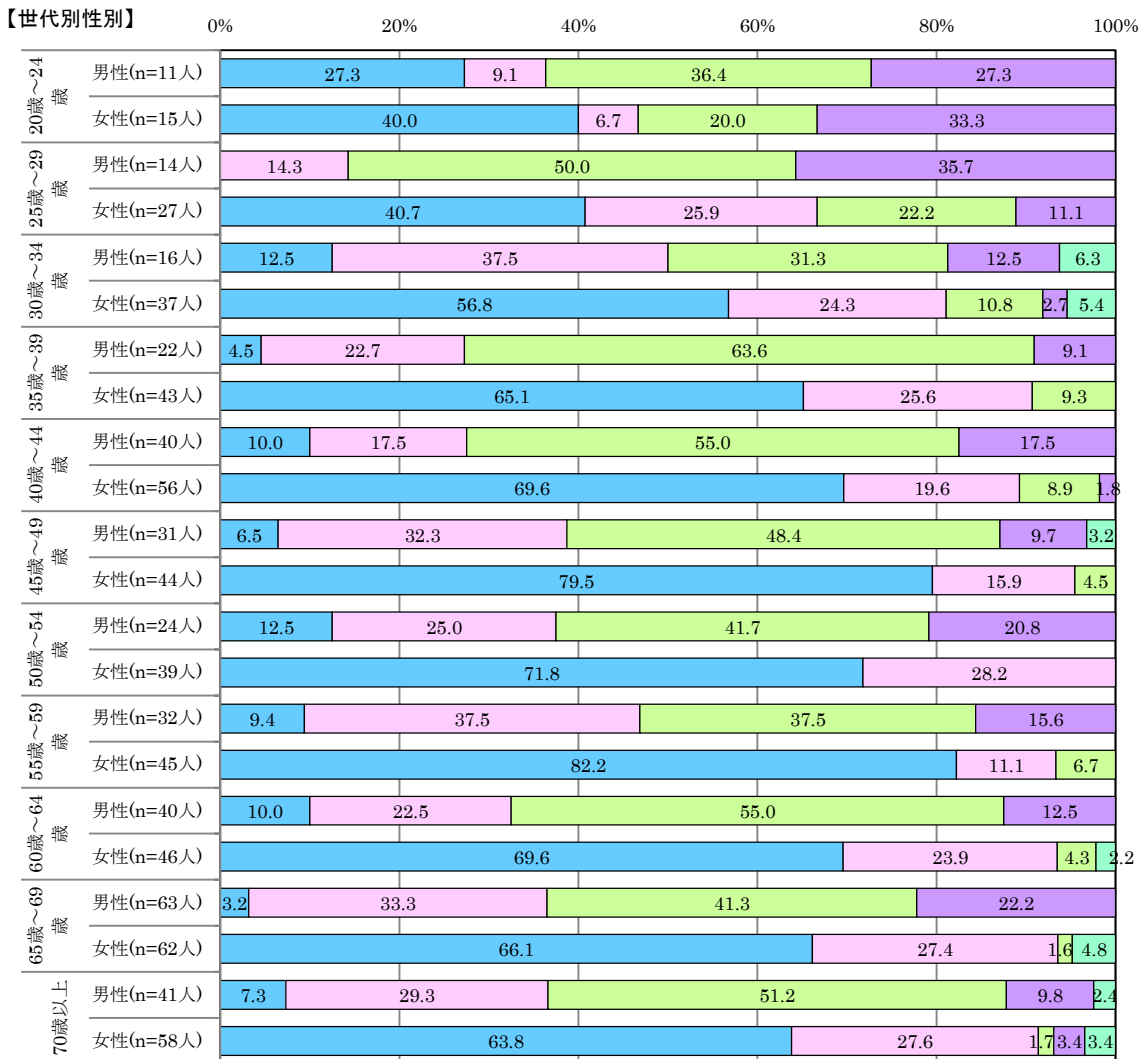
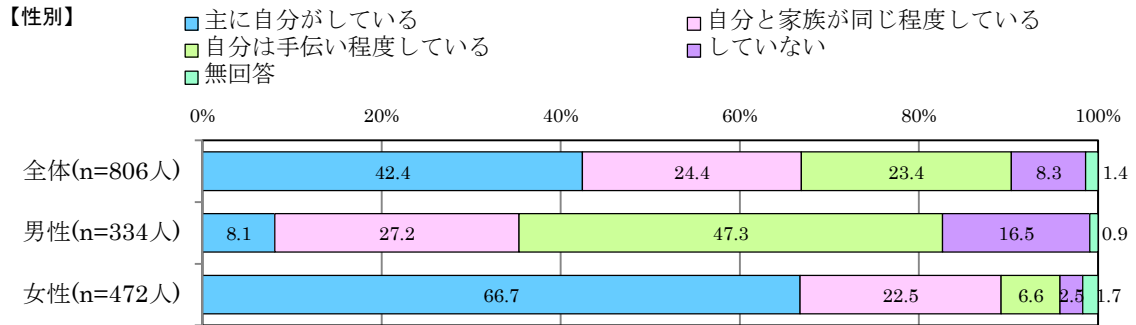


【世代別性別】



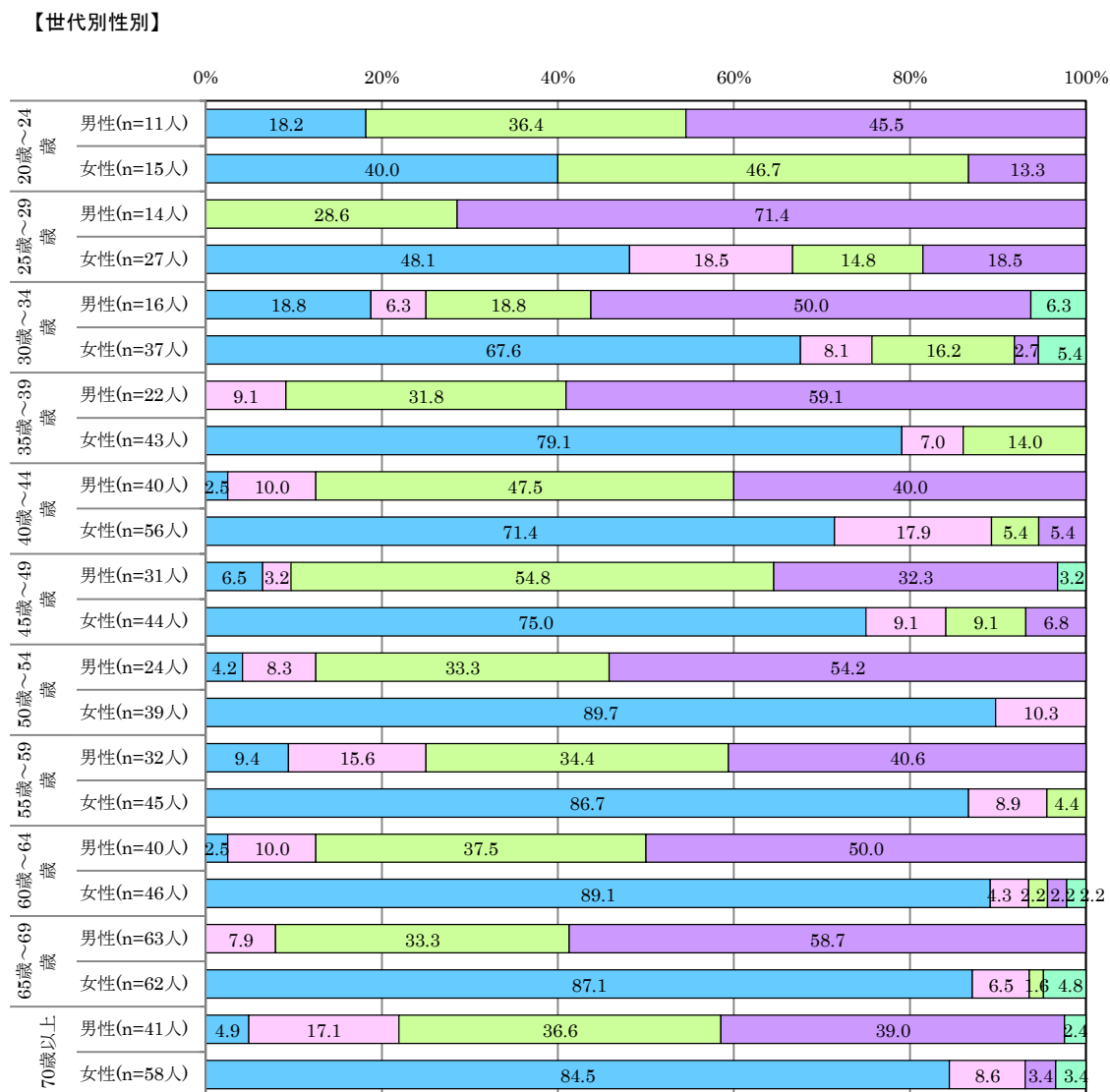
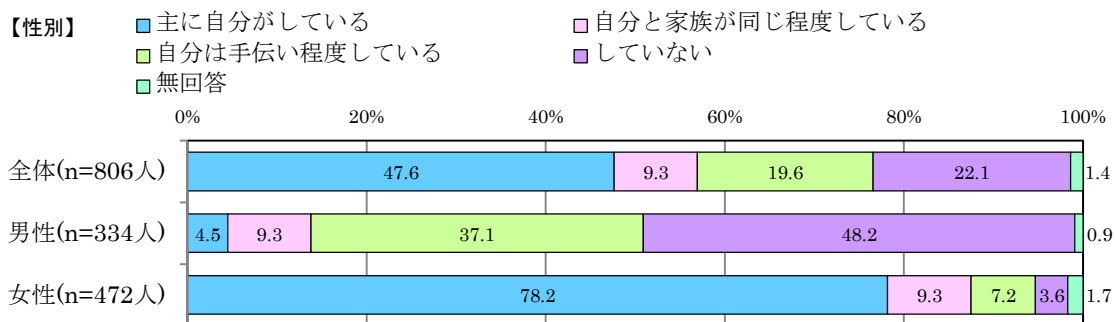
3 食料品、日用品などの買物

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(66.7%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(47.3%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性は30歳～34歳、55歳～59歳を除いた全ての年代で、「自分は手伝い程度している」という回答が最も多くなっている。一方、女性は「主に自分がしている」という回答が、20歳代では約4割、30歳代以降の年代では約6～8割となっている。



4 食事のしたく

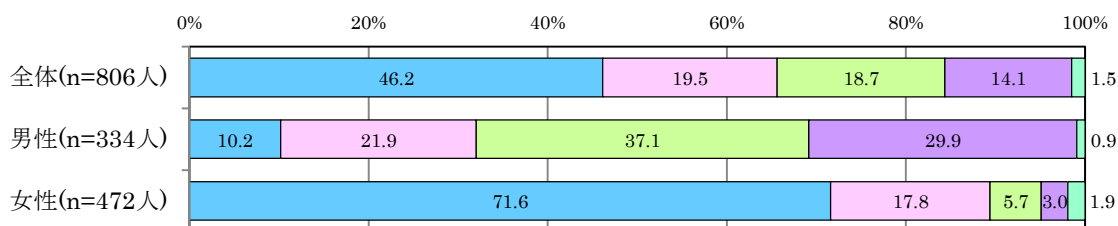
- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(78.2%)という回答が最も多く、男性は「していない」(48.2%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性は、40歳代を除いては、「していない」という回答がいずれの年代でも最も多く、約4～7割という回答割合になっている。



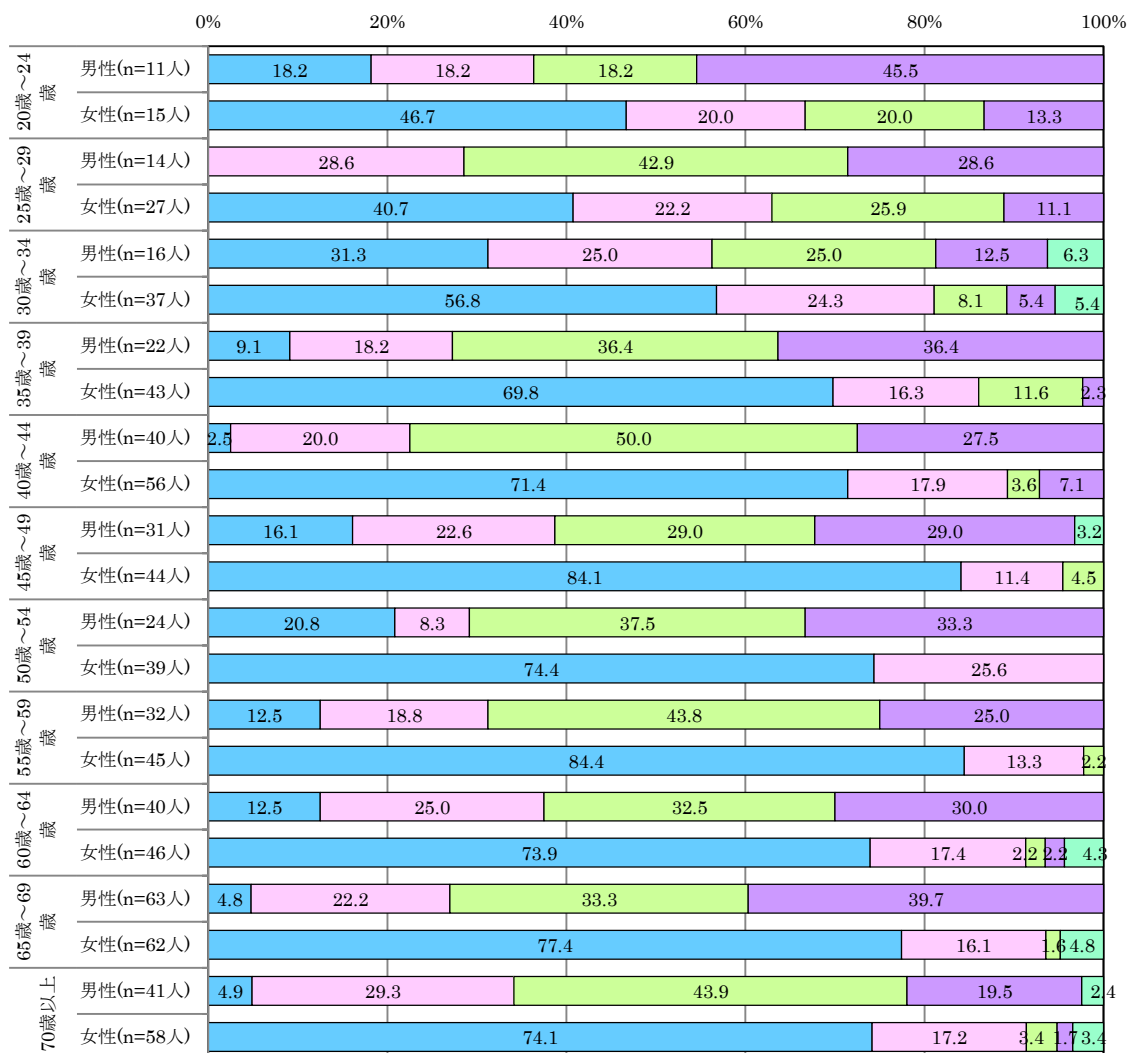
5 食事の後かたづけ

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(71.6%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(37.1%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性の中では、30歳～34歳で「主に自分がしている」という回答が最も多く、3割(31.3%)を超えている。

【性別】



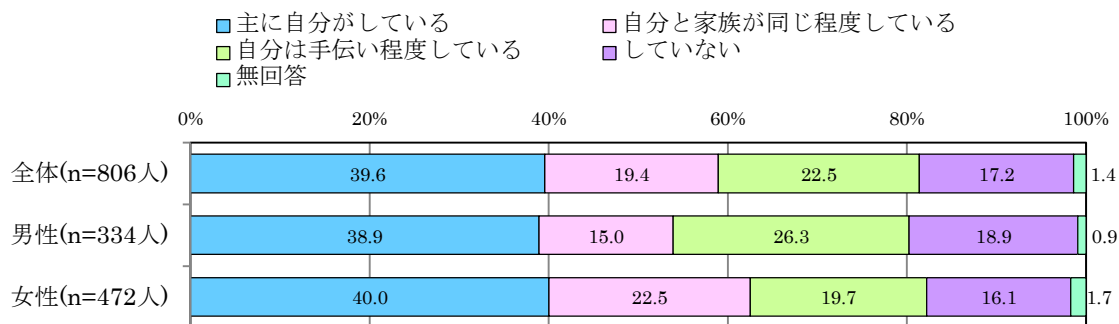
【世代別性別】



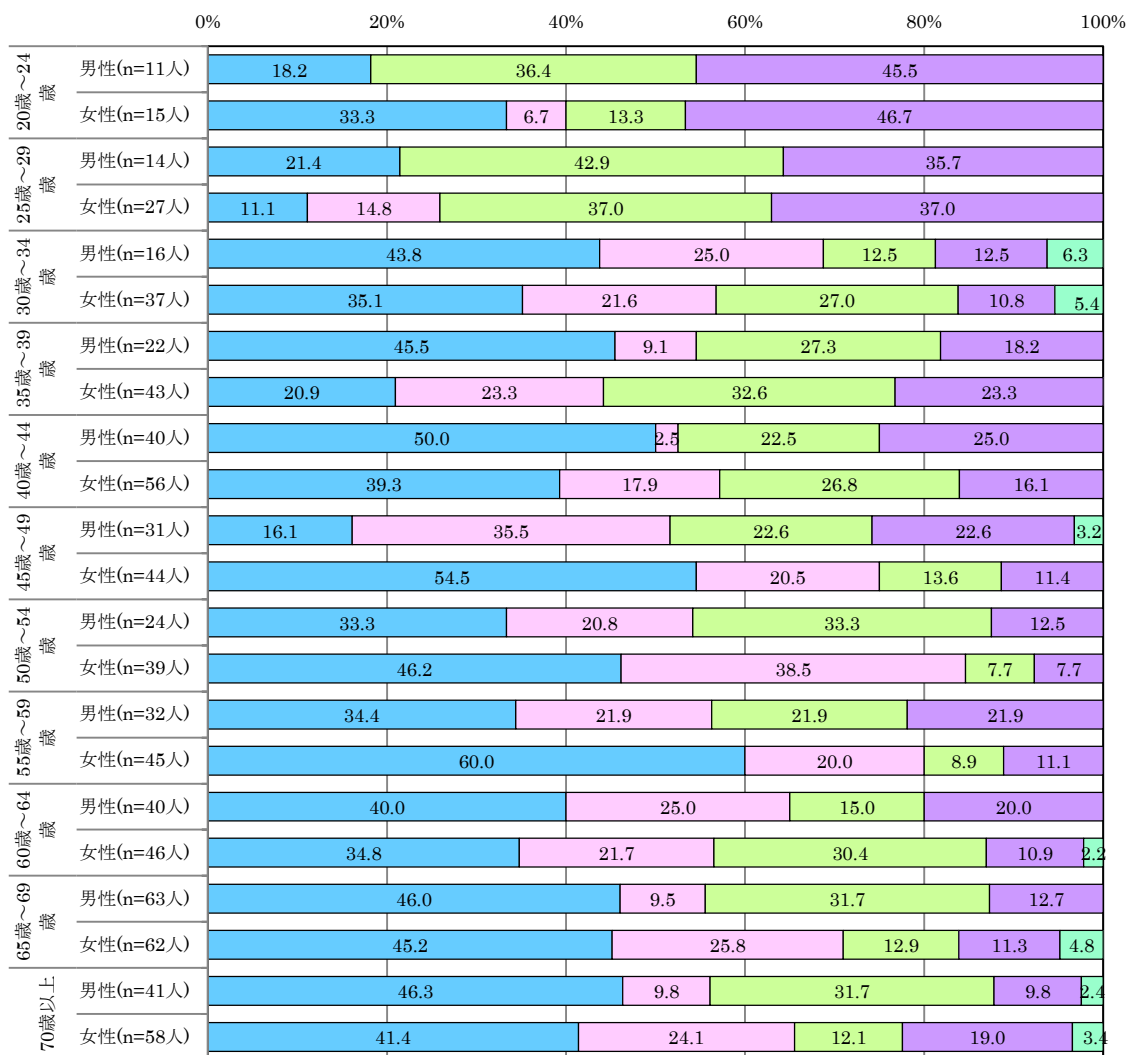
6 ごみ捨て

- 性別でみると、男女ともに「主に自分がしている」という回答が最も多く、女性は40.0%、男性は38.9%となっている。
- 世代別性別でみると、20歳～24歳、45歳～49歳、50歳代を除いては、「主に自分がしている」という回答が女性よりも男性の方が多くなっている。

【性別】

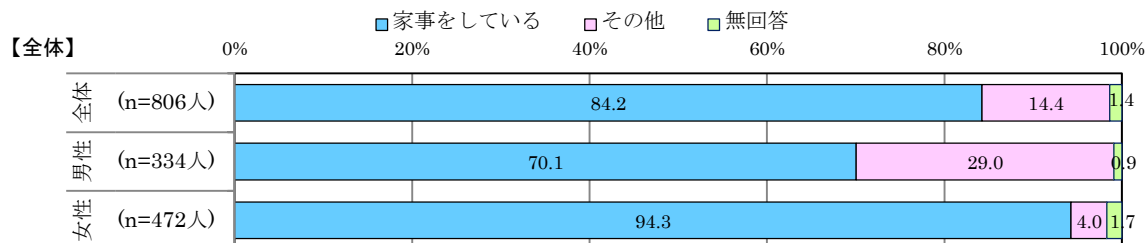


【世代別性別】

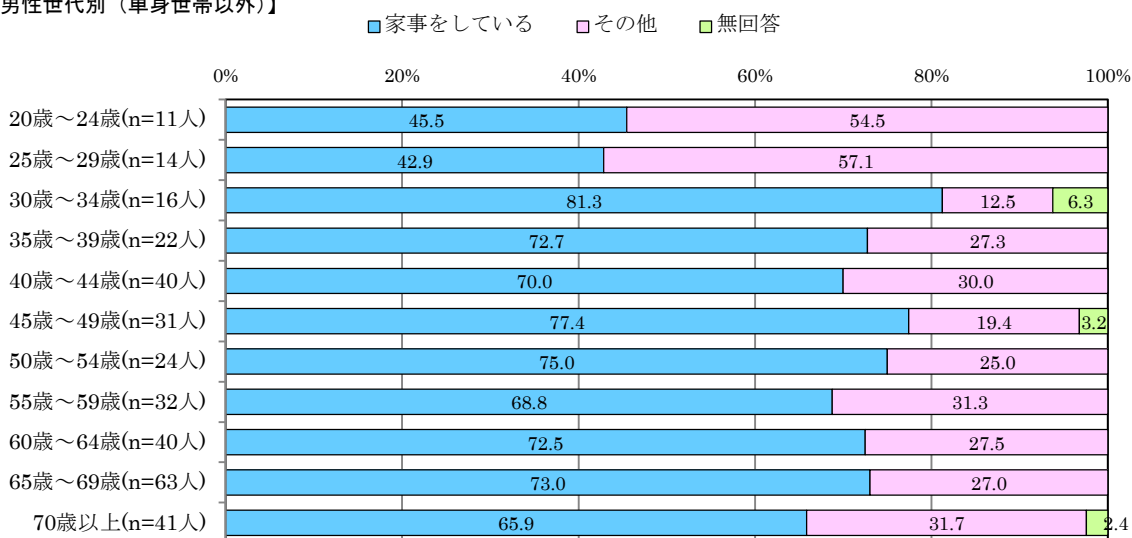


<家事への参画度>

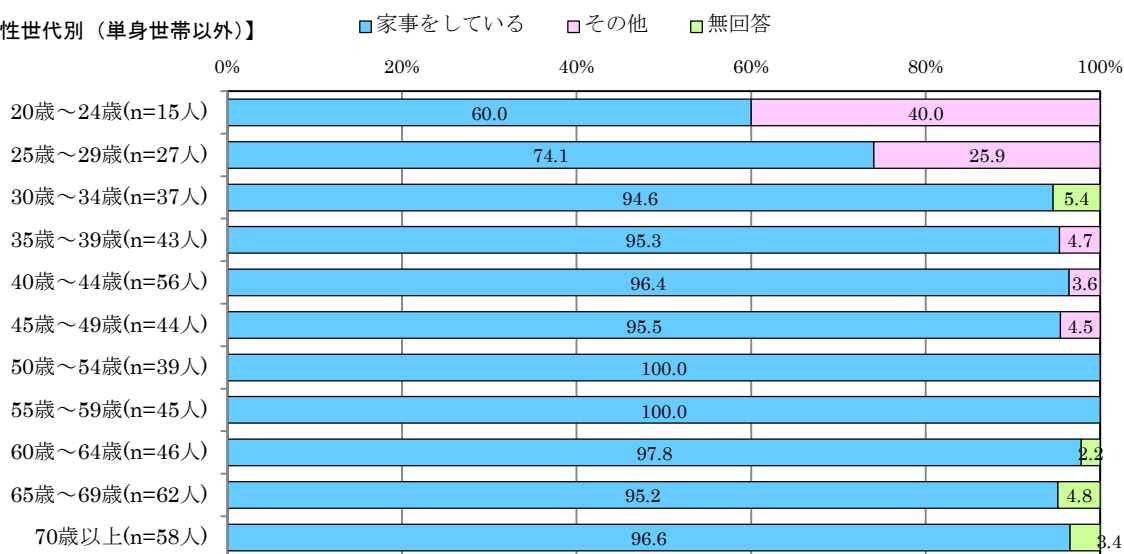
- ・問 10 の 1～6 の家事について、いずれか1つでも「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」と回答した方を「家事をしている」とすると、全体の 84.2%がいずれかの「家事をしている」となっている。
- ・性別でみると、男性では 70.1%、女性は 94.3%の方が「家事をしている」となっており、男性は女性よりも「家事をしている」の回答割合が約 2 割低くなっている。



【男性世代別（単身世帯以外）】



【女性世代別（単身世帯以外）】

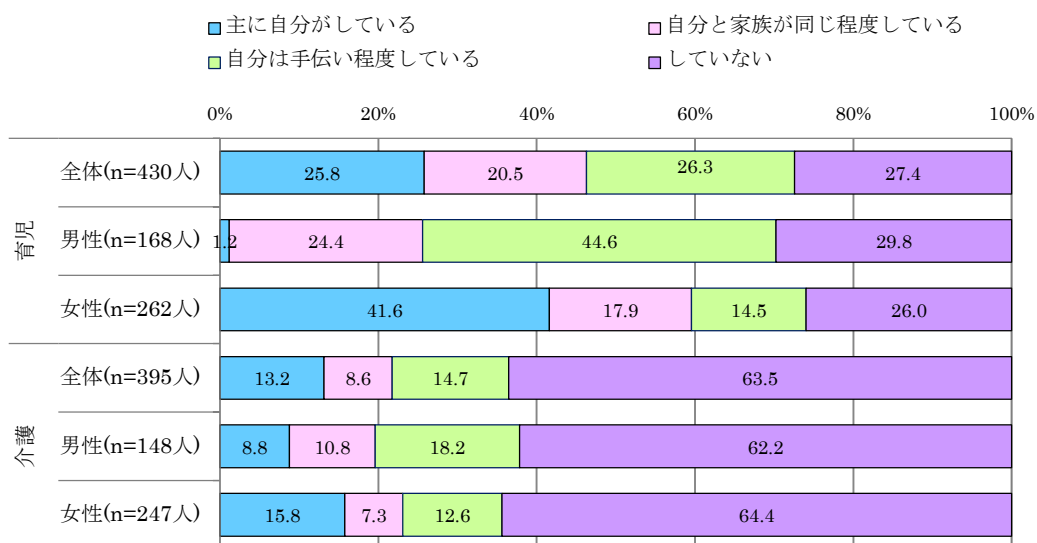


問 11 身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

あなたは育児または介護をどの程度していますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・育児では、「主に自分がしている」という女性の回答割合が約4割（41.6%）で、男性の回答割合1.2%と比べ大きな差がある。
- ・介護では、男女とも「主に自分がしている」と「自分と家族が同じ程度している」の回答割合の合計が、約2割となり、育児に比べ性別による差は大きくない。
（※無回答は、育児、介護の必要な家族がいない方として集計している）。

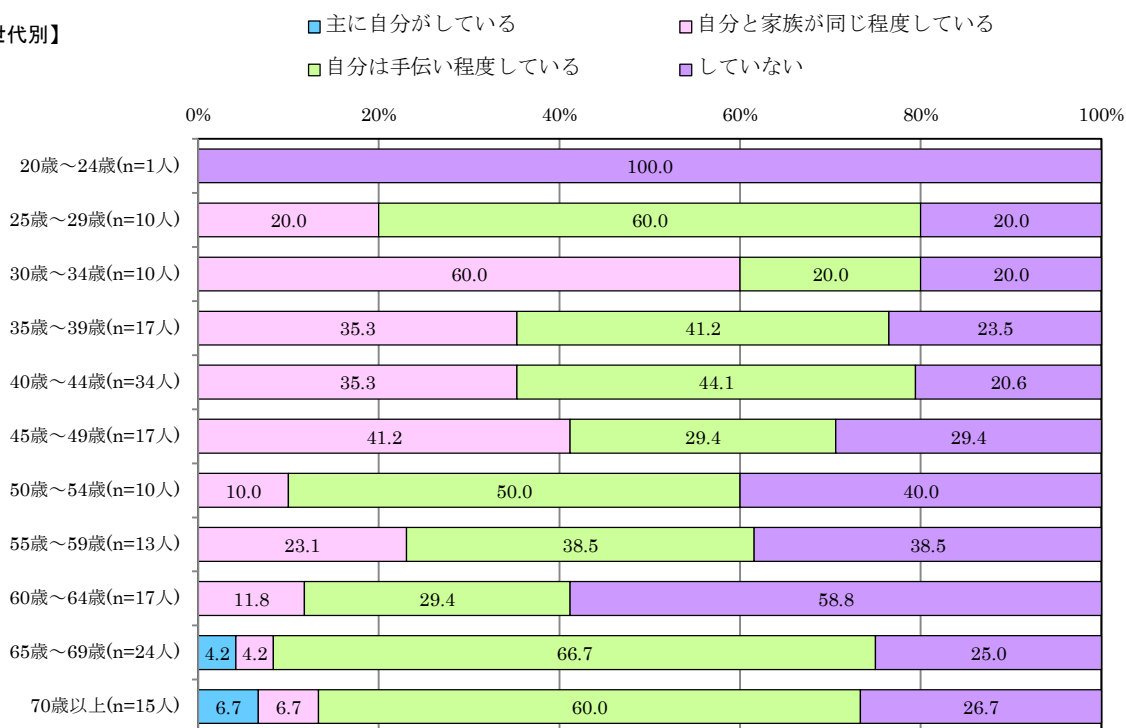
【全分野】



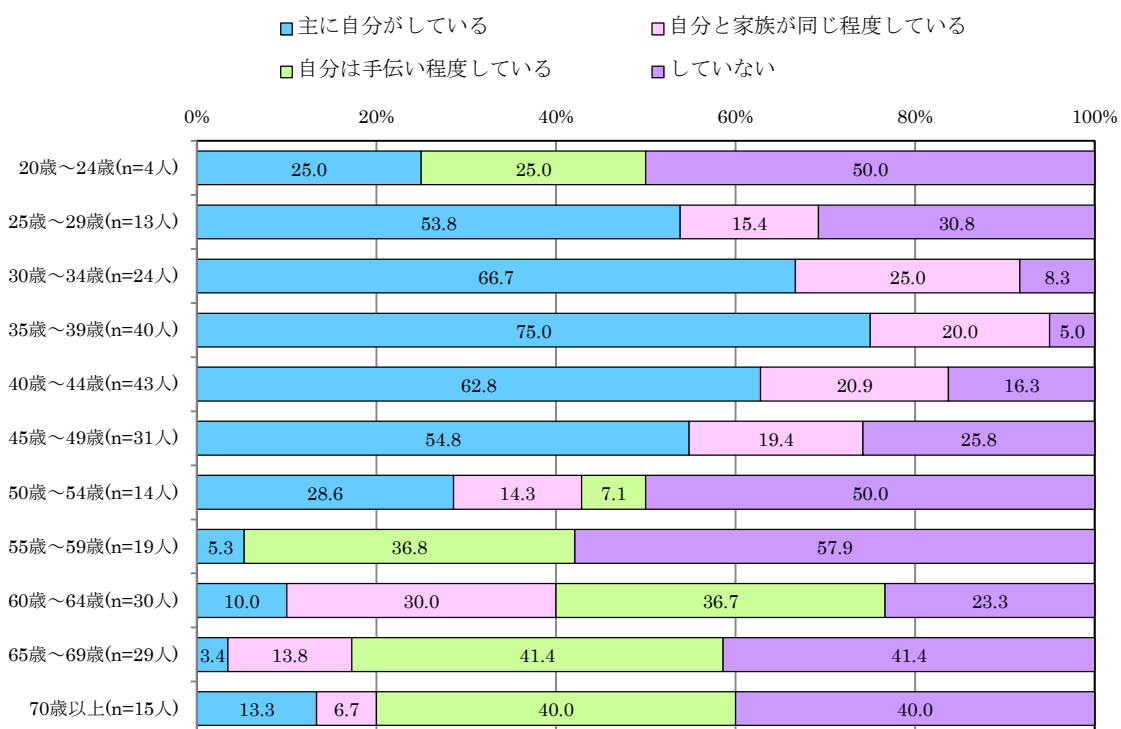
1 育児（お孫さんを含む）

- ・男性では30歳代、40歳代では、「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」という回答割合の合計が約4割～6割となっている。他の年代では、約1割～2割となっている。20歳から64歳の男性では、「主に自分がしている」という回答はなく、65歳以上では若干いる結果となっている。
- ・一方、女性では「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」と回答した女性が、20歳～24歳と50歳以上を除いた年代で、約7割から9割となっている。

【男性世代別】



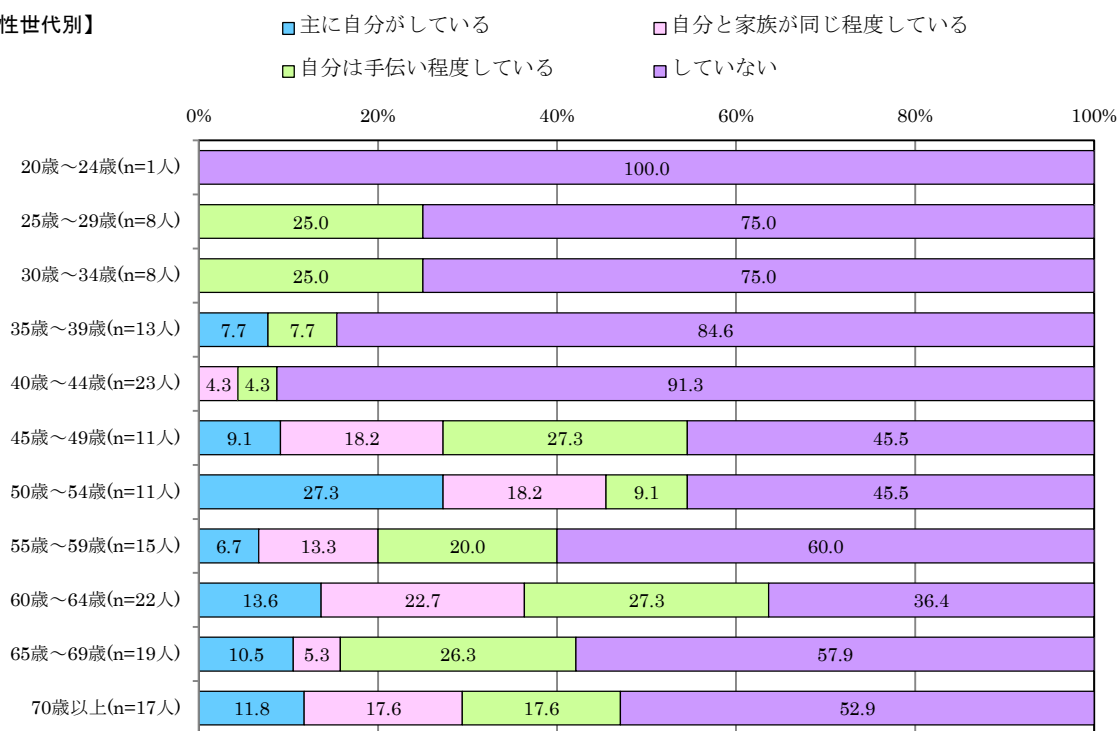
【女性世代別】



2 介護

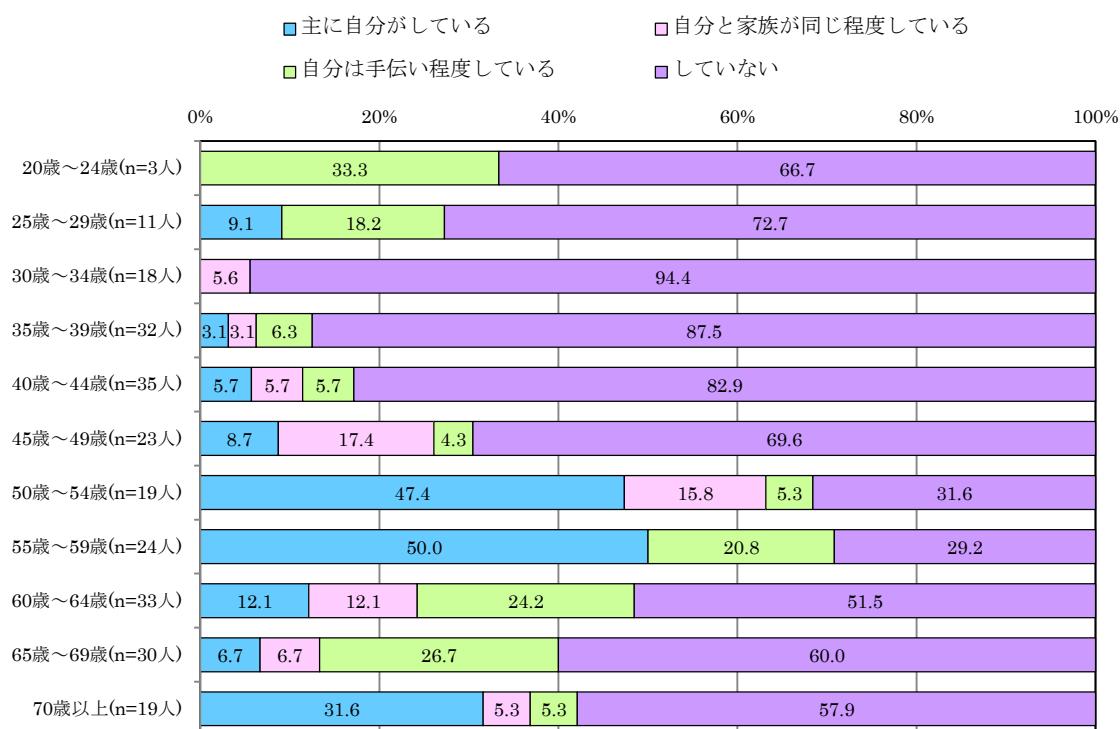
- ・45歳を超える年代から男女とも介護に関わる人の割合が多くなっており、「主に自分がしている」という回答割合が男性に比べ女性の方が多くなっている。

【男性世代別】



男性 (n=148人)

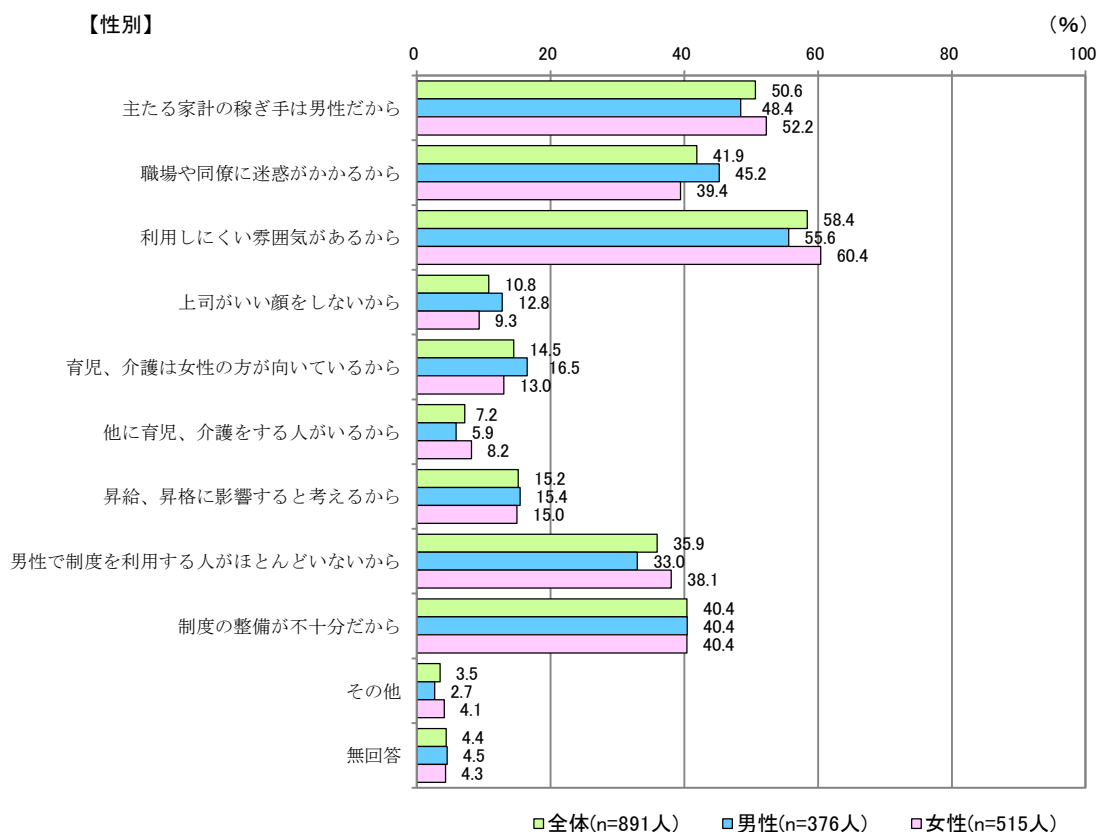
【女性世代別】



女性 (n=247人)

問 12 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。主な理由を次の中から3つまでお選びください。

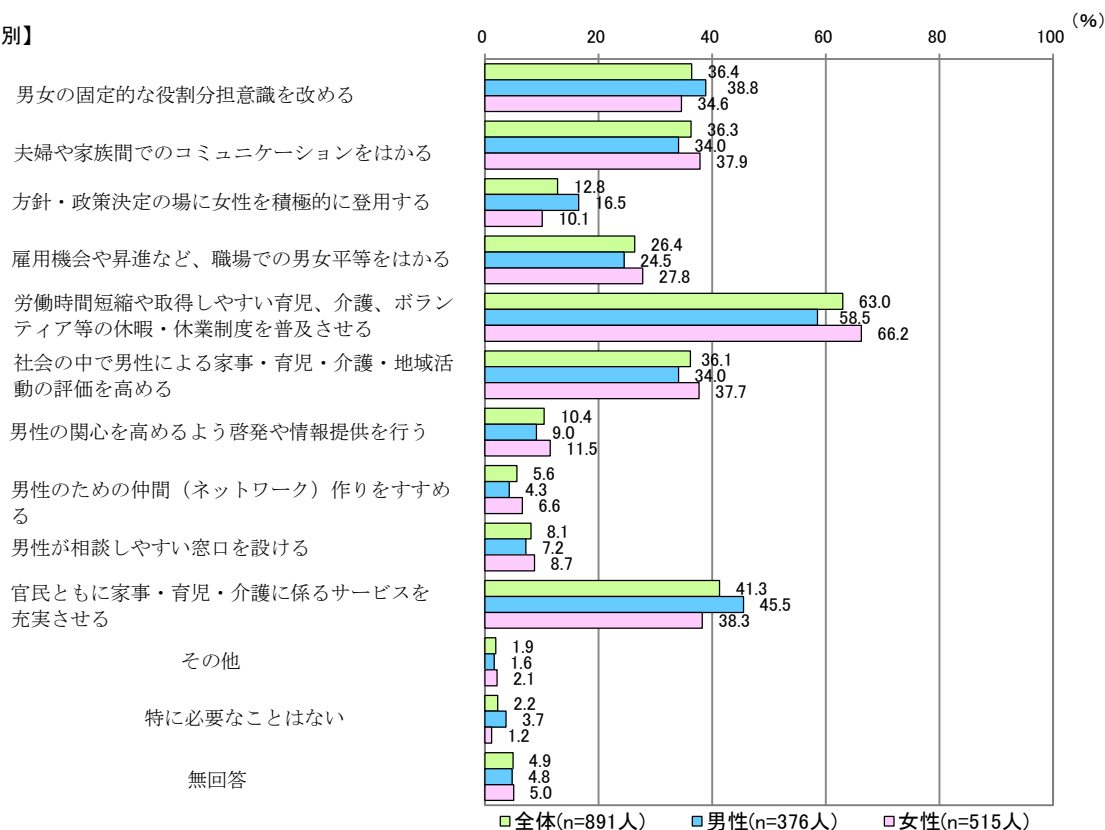
- 全体でみると、最も回答割合が多いのは、「利用しにくい雰囲気があるから」(58.4%)で、約6割となっている。次いで、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(50.6%)、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(41.9%)、「制度の整備が不十分だから」(40.4%)、「男性で制度を利用する人がほとんどいないから」(35.9%)の順となっている。
- 性別でみると、男性では、「利用しにくい雰囲気があるから」(55.6%)と「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(48.4%)という回答が多くなっている。次に、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(45.2%)となっている。
- 女性では、男性同様「利用しにくい雰囲気があるから」(60.4%)が最も多くなっている。次いで、2番目に「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(52.2%)、3番目に「職場や同僚に迷惑がかかるから」(39.4%)の順となる。



問 13 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

- ・全体では、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(63.0%)が最も多く、約6割となっている。次に、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(41.3%)、「男女の固定的な役割分担意識を改める」(36.4%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(36.3%)、「社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」(36.1%)の順で続いている。
- ・性別で見ると、男性は、「労働時間短縮や男女ともに取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(58.5%)が最も多く、約6割となっている。次いで、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(45.5%)、「男女の固定的な役割分担意識を改める」(38.8%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(34.0%)、「社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」(34.0%)の順となる。
- ・女性も、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(66.2%)という回答が最も多い。次に、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(38.3%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(37.9%)、「社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」(37.7%)の順となっている。

【性別】

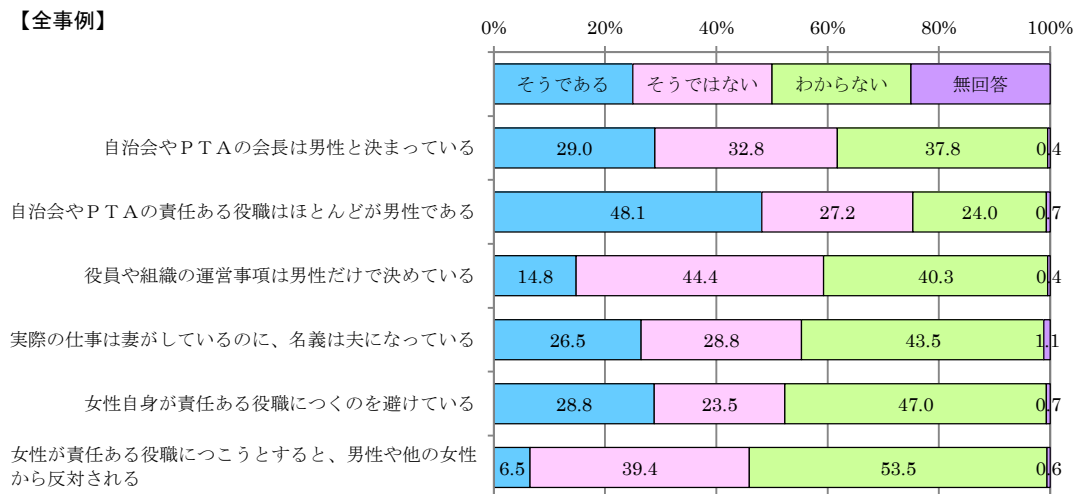


地域社会に関する問題

問 14 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・「そうである」という回答でみると、「自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である」が最も多く、約5割（48.1%）となっている。次に、「自治会やPTAの会長は男性と決まっている」（29.0%）、「女性自身が責任ある役職につくのを避けている」（28.8%）と続いている。
- ・一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は男性だけで決めている」（44.4%）が最も多く、約4割となっている。次いで、「女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される」（39.4%）、「自治会やPTAの会長は男性と決まっている」（32.8%）と続いている。

【全事例】

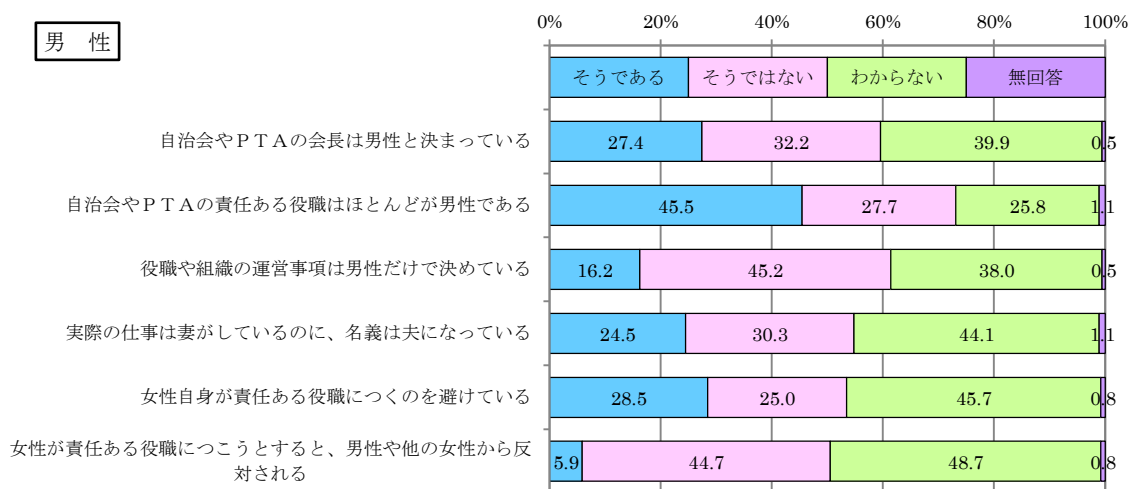


全体 (n=891 人)

- ・性別でみると、男女ともいずれの事例においても同じような傾向になっており、男女による大きな差異はみられない。

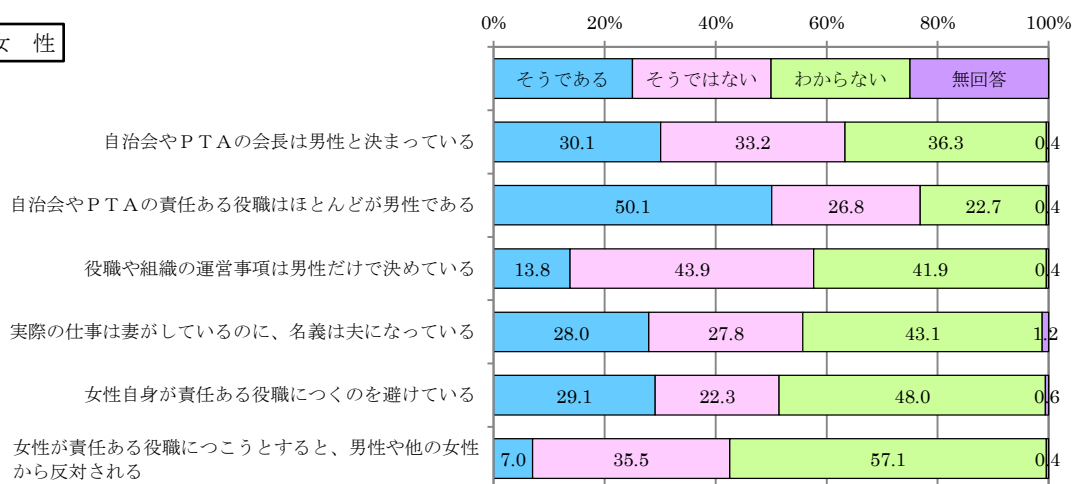
【性別】

男性



男性 (n=376 人)

女性

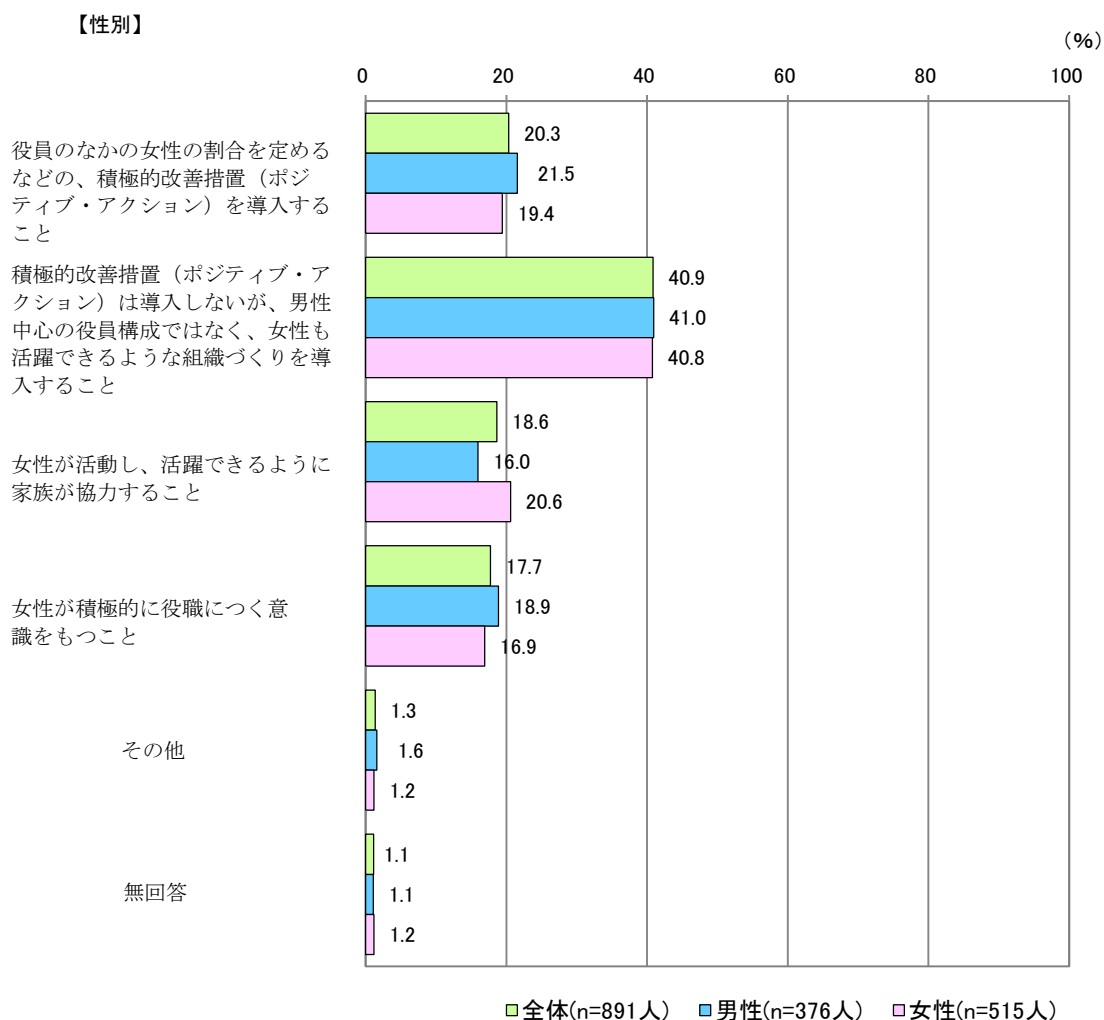


女性 (n=515 人)

問 15 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。

あなたは、どうすればそれが可能だと思いますか。次の中から1つお選びください。

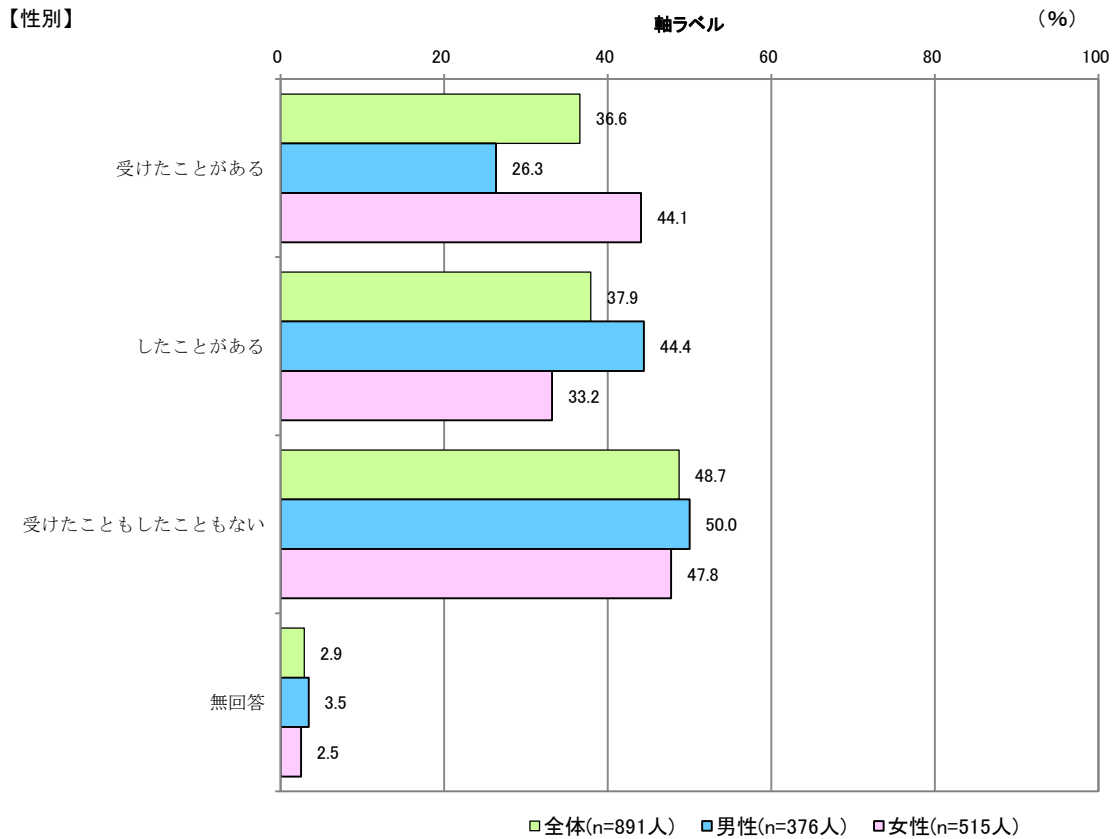
- ・全体でみると、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も多く、4割（40.9%）を超えている。次に、「役員の中かの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」（20.3%）、「女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること」（18.6%）と続いている。
- ・性別でみると、男女どちらも「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」という回答が最も多く、4割を超えている。次に、男性は、「役員の中かの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」が続き、一方女性は、「女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること」が2番目となる。



男女の人権に関する問題

問 16 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV（ドメスティック・バイオレンス）として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

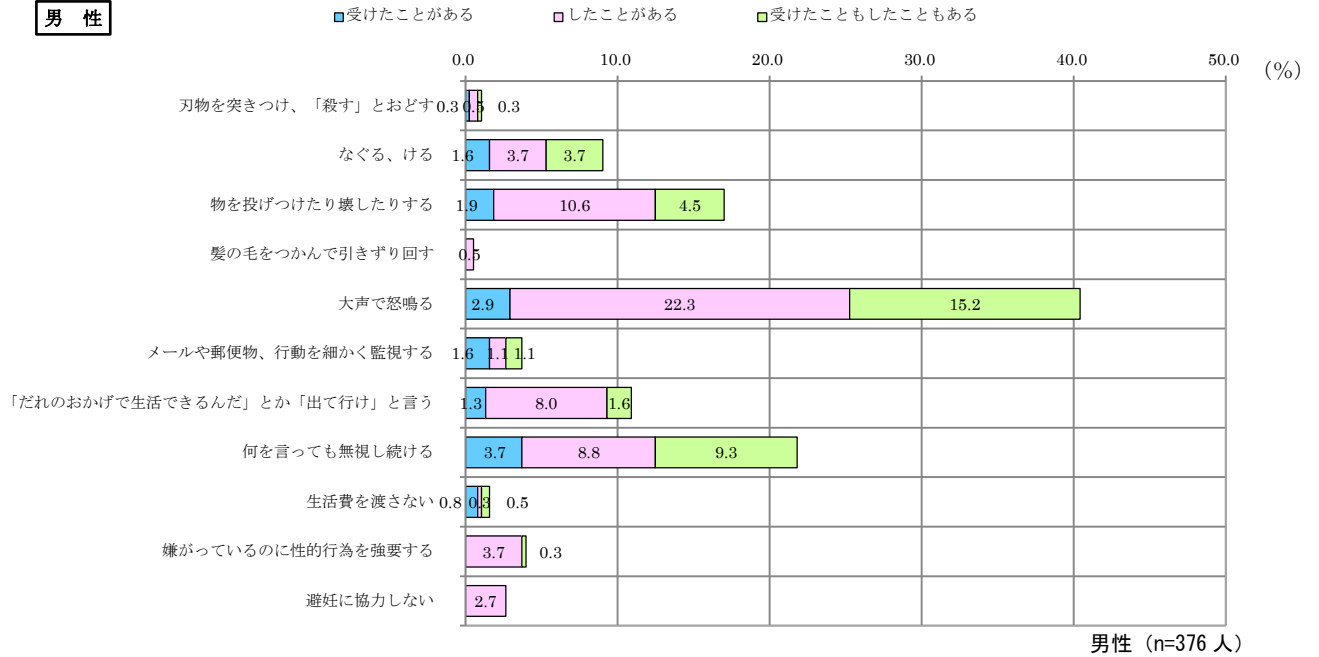
- ・性別では、男性で「したことがある」（44.4%）なのに対し、女性では「受けたことがある」（44.1%）となっている。



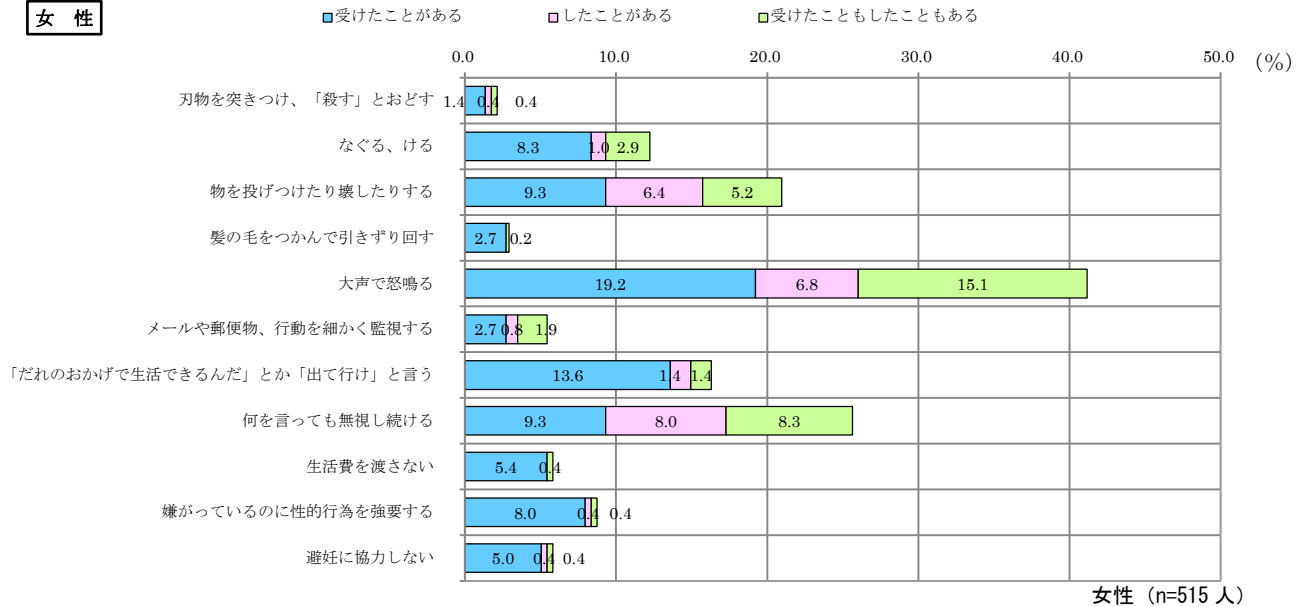
- ・性別で見ると、「受けたこともしたこともない」という回答がどの行為においても大多数となっている。
- ・「受けたことがある」という回答については女性が多く、反対に「したことがある」という回答については、男性の回答が多くなっている。「大声で怒鳴る」、「何を言っても無視し続ける」については、回答の傾向が、男性、女性ともほぼ同じとなっている。

【性別】

男性



女性



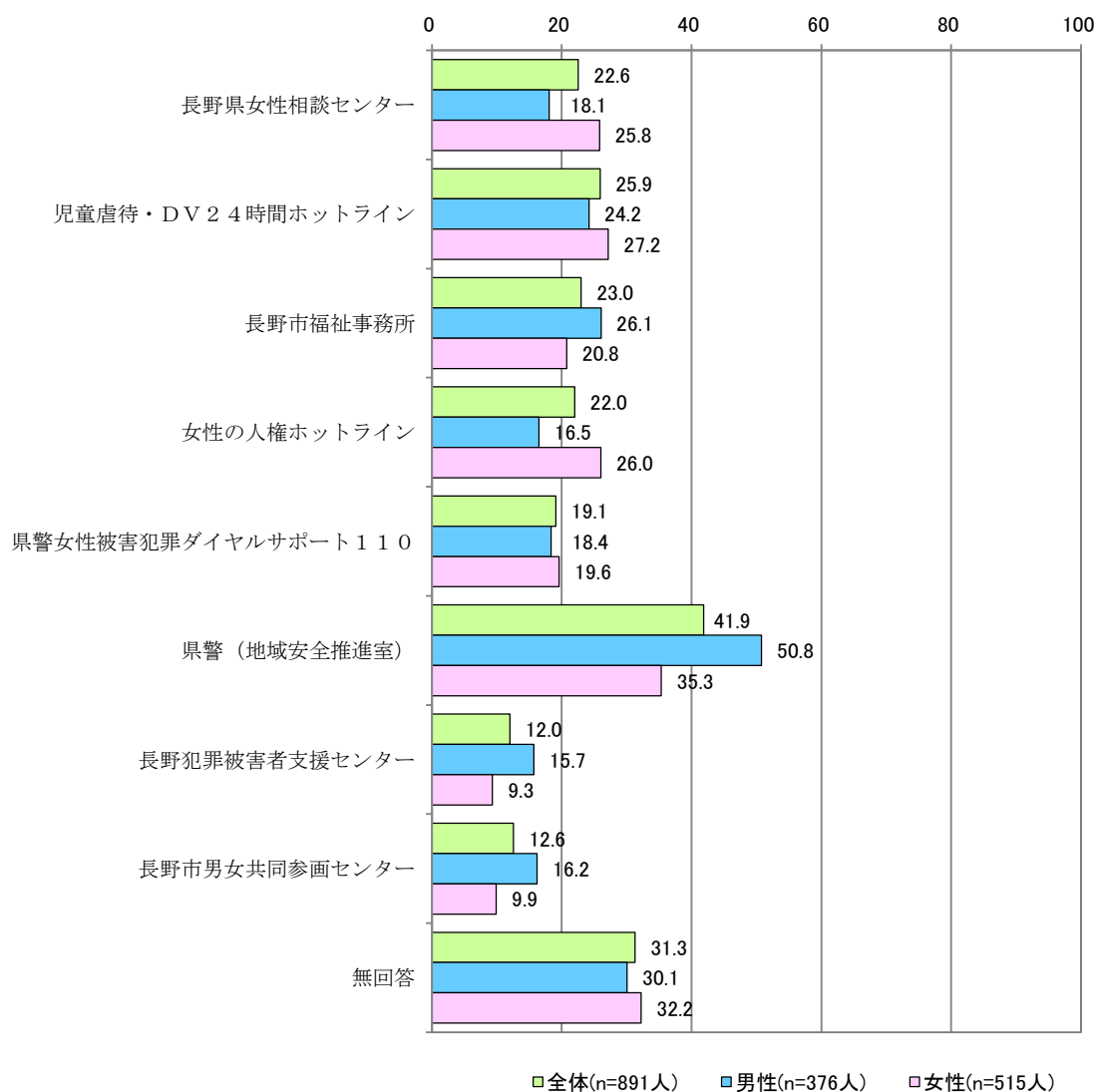
※無回答は男性で 3.2%~4.0%、女性で 1.4%~2.5%で、残りの回答は「受けたこともしたこともない」

問 17 あなたはDV（ドメスティック・バイオレンス）にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口すべてをお選びください。

- ・全体でみると、最も回答が多かったのは「県警（地域安全推進室）」（41.9%）で、4割を超えている。次いで、「児童虐待・DV 24時間ホットライン」（25.9%）、「長野市福祉事務所」（23.0%）、「長野県女性相談センター」（22.6%）、「女性の人権ホットライン」（22.0%）と続いている。
- ・性別でみると、男性においては、「県警（地域安全推進室）」（50.8%）が約5割で最も多くなっている。次に、「長野市福祉事務所」（26.1%）、「児童虐待・DV 24時間ホットライン」（24.2%）の順となる。
- ・一方、女性においては、「県警（地域安全推進室）」（35.3%）と「児童虐待・DV 24時間ホットライン」（27.2%）と続いている。女性の3番目に多い回答は、「女性の人権ホットライン」（26.0%）となっており、男性の回答とは認知度に差がある。

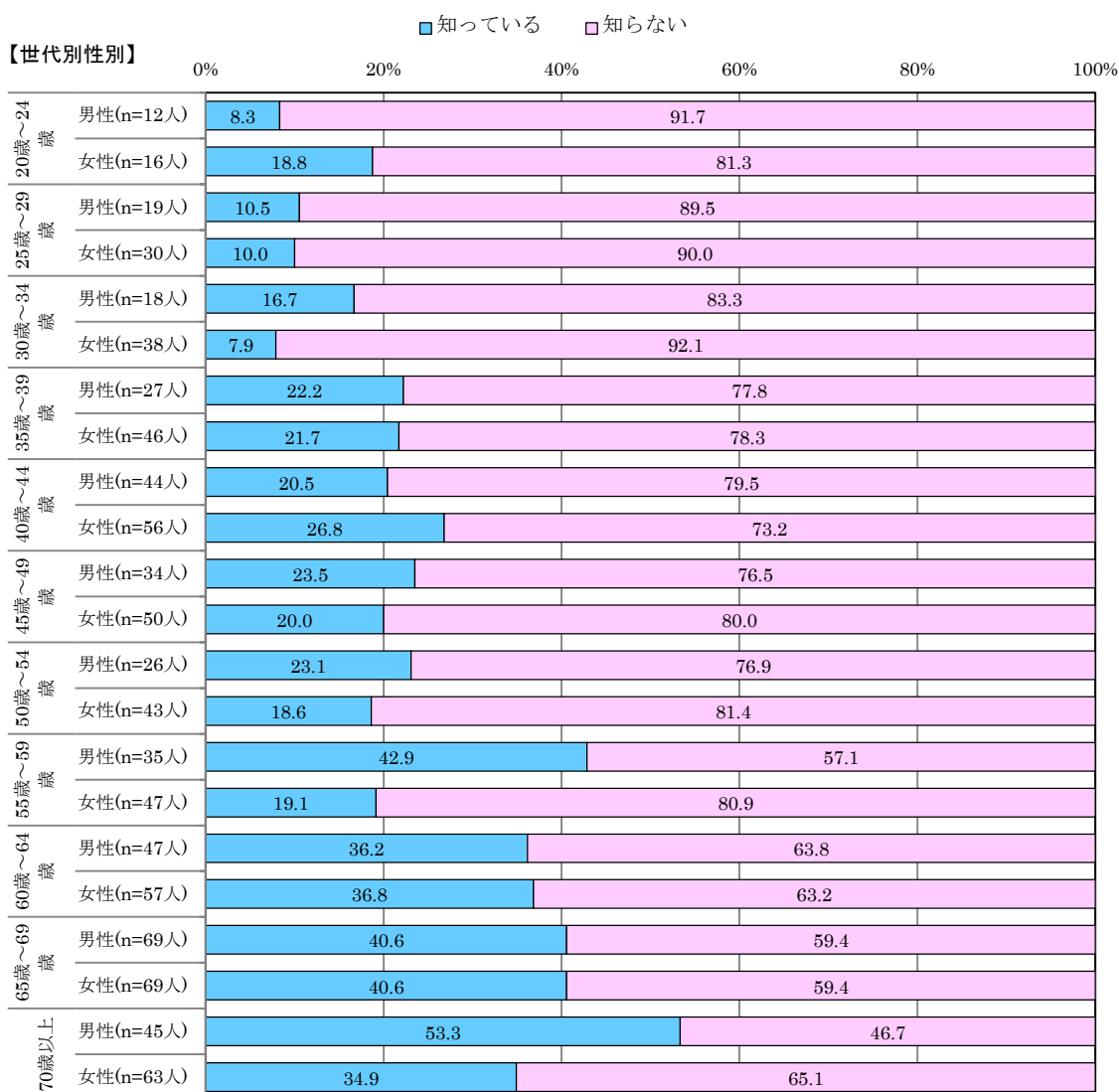
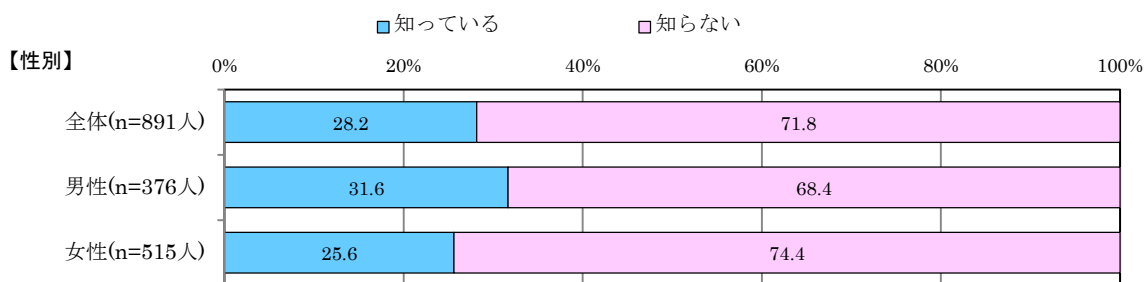
【性別】

(%)



<DV被害に対する市の対応窓口の認知度>

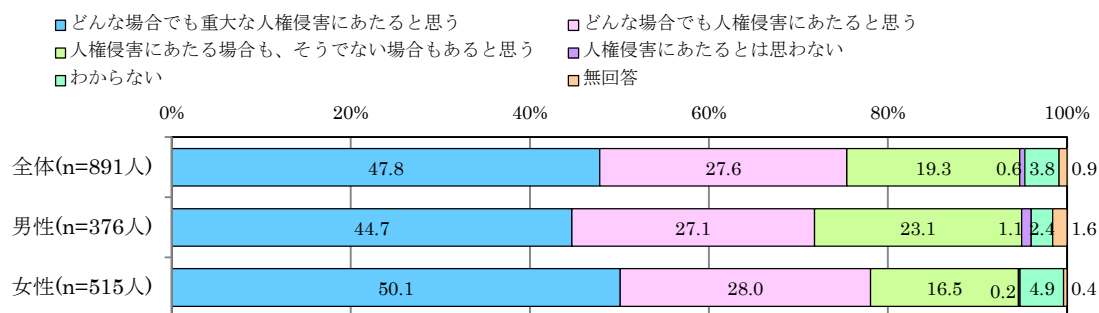
- ・問 17 において、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」回答割合は、約 3 割（28.2%）となっている。
- ・性別でみると、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」回答割合は、「男性」の方が「女性」よりやや高くなっている。
- ・世代別性別でみると、男性では、55 歳～59 歳、70 歳以上の年代において認知度が 4 割を超えている。一方、女性は 60 歳以上で認知度が高くなっている。20 歳代、30 歳～34 歳はやや低くなっているが、そこから年齢が高くなるにつれ徐々に認知度も上がっていく傾向があるといえる。



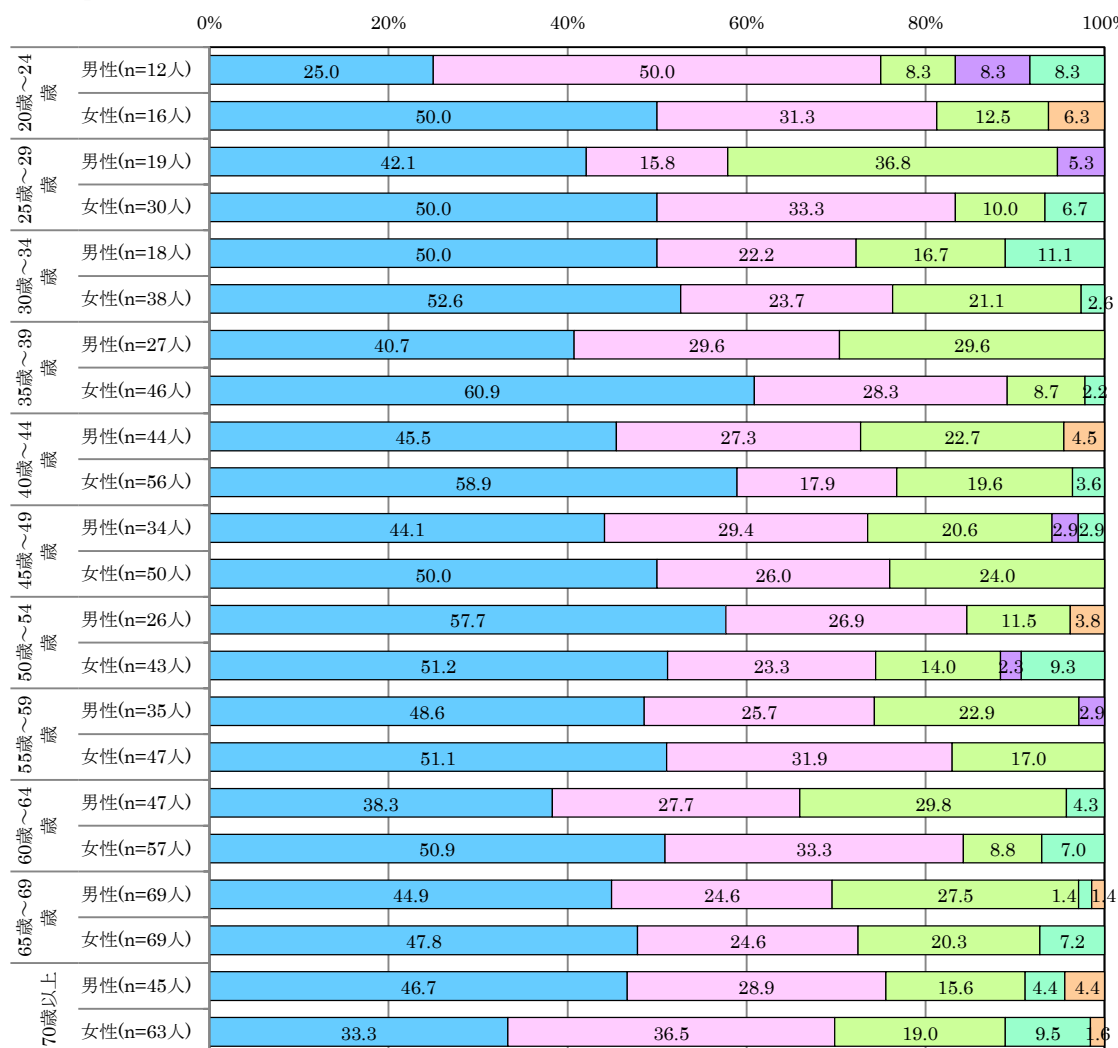
問 18 DV（ドメスティック・バイオレンス）についてあなたの考えにもっとも近いのは
どれですか。次の中から1つお選びください。

- ・全体でみると、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたる」（47.8%）が最も多い回答となっており、約5割となる。次いで、「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」（27.6%）、「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」（19.3%）と続いている。
- ・性別でみると、男女とも最も多い回答が、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたる」という回答で、「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」が2番目に多い回答になっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳、35歳～39歳、60歳代の男性で、「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」という回答が多くなっている。

【性別】



【世代別性別】

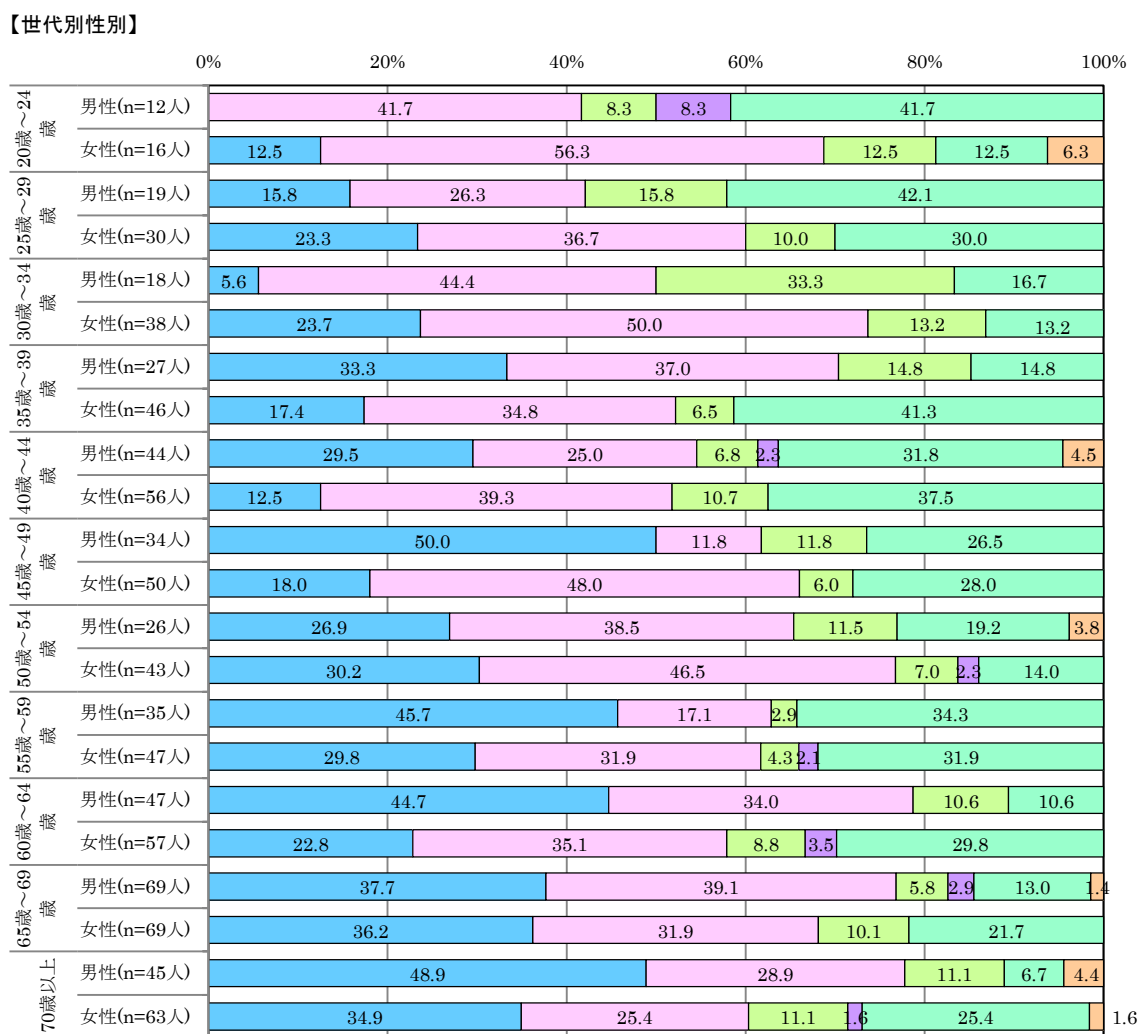
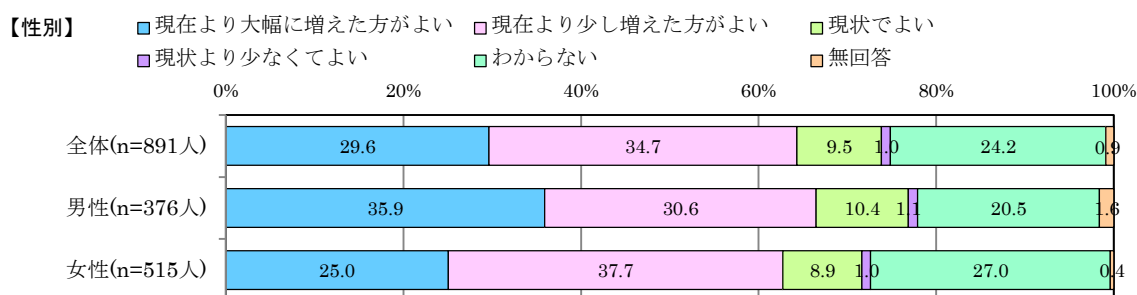


男女共同参画施策に関する問題

問 19 平成 27 年 4 月 1 日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数(割合)は、6 人(15.4%)、平成 27 年 7 月 1 日現在の住民自治協議会における女性役員の数(割合)は 425 人(16.4%)となっています。

このことについて、あなたのお考えに最も近いものを 1 つお選びください。

- ・全体でみると、「現在より大幅に増えた方がよい」(29.6%)及び「現在より少し増えた方がよい」(34.7%)という回答割合の合計は、6 割(64.3%)を超えている。
- ・性別では、「現在より大幅に増えた方がよい」及び「現在より少し増えた方がよい」という回答割合の合計は男性 66.5%、女性 62.7%で、男性の方がやや多い。
- ・世代別性別でみると、50 歳～54 歳の女性、60 歳以上の男性で、「現在より大幅に増えた方がよい」及び「現在より少し増えた方がよい」という回答割合の合計が約 8 割となっている。

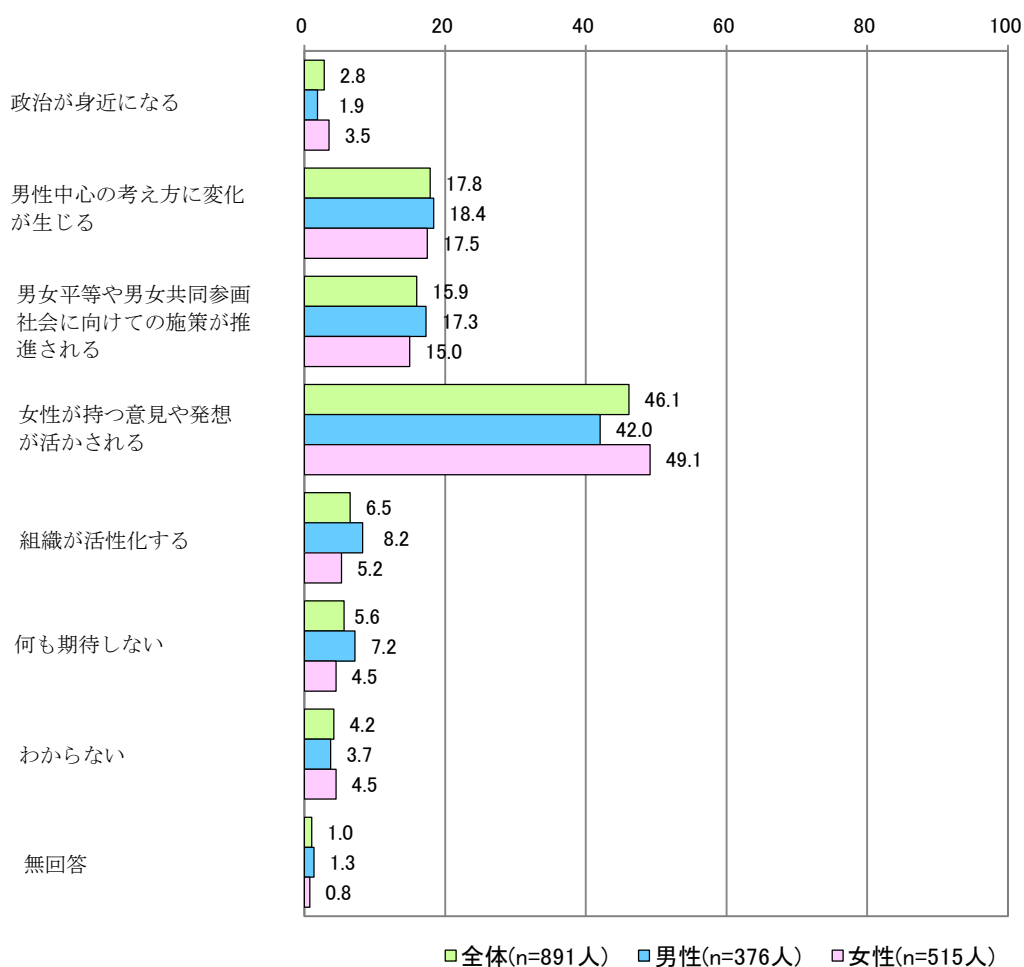


問 20 あなたは、政策決定の場に女性が増えることで何を期待しますか。
次の中から、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

- ・全体でみると、「女性が持つ意見や発想が活かされる」(46.1%)が最も多く、約5割となっている。次いで、「男性中心の考え方に変化が生じる」(17.8%)、「男女平等や男女共同参画社会に向けての施策が推進される」(15.9%)と続いている。
- ・性別でみると、男女による大きな差は見られないが、「政治が身近になる」、「女性が持つ意見や発想が活かされる」という回答では、女性の回答割合が、男性よりもやや高くなっている。

【性別】

(%)

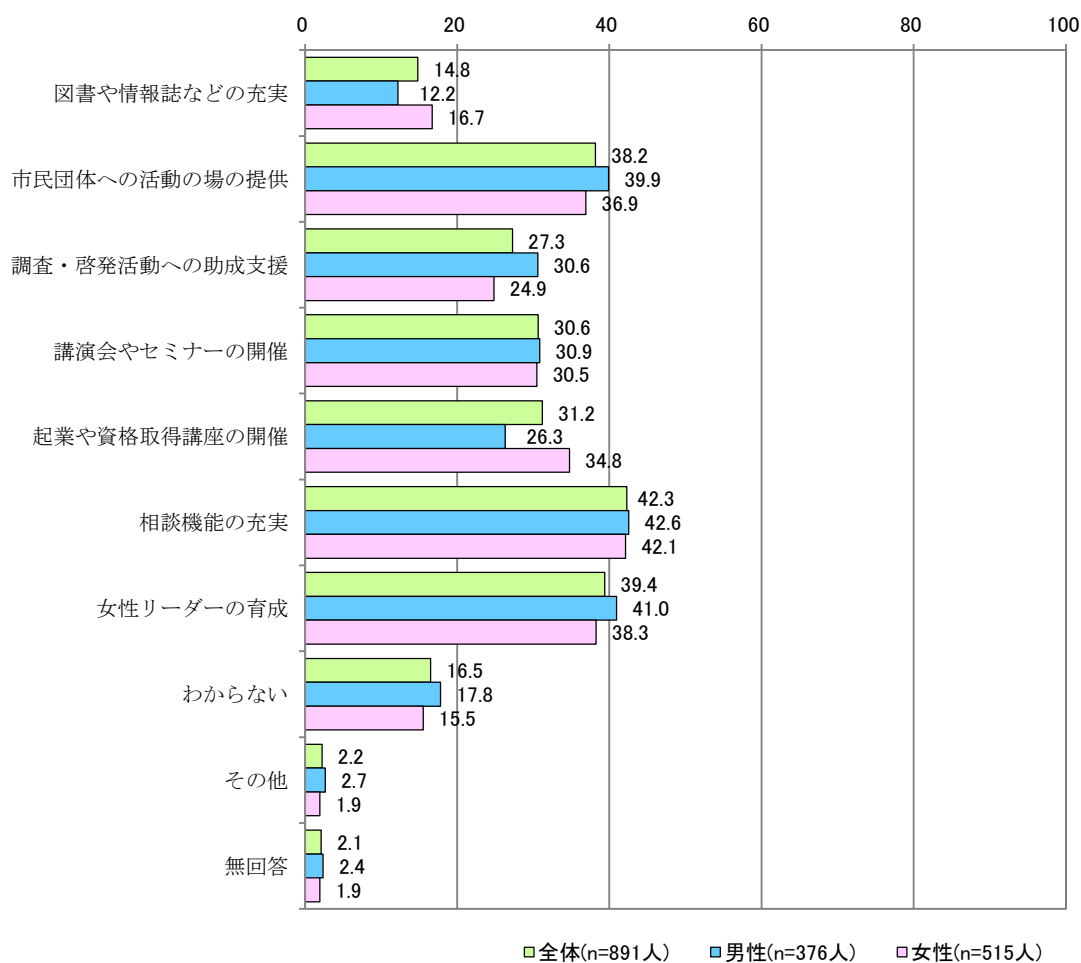


問 21 男女共同参画社会を実現するための拠点施設（長野市男女共同参画センター）の役割としてあなたは何を望みますか。次の中から、3つまでお選びください。

- ・全体でみると、「相談機能の充実」（42.3%）が最も多い回答となっている。次いで、「女性リーダーの育成」（39.4%）、「市民団体への活動の場の提供」（38.2%）の順で続いている。
- ・性別でみると、男性は「相談機能の充実」（42.6%）、「女性リーダーの育成」（41.0%）、「市民団体への活動の場の提供」（39.9%）の順となっている。
- ・また、女性も、「相談機能の充実」（42.1%）、「女性リーダーの育成」（38.3%）、「市民団体への活動の場の提供」（36.9%）の順となっている。「起業や資格取得講座の開催」、「図書や情報誌などの充実」については、男性より女性の回答が多くなっている。

(%)

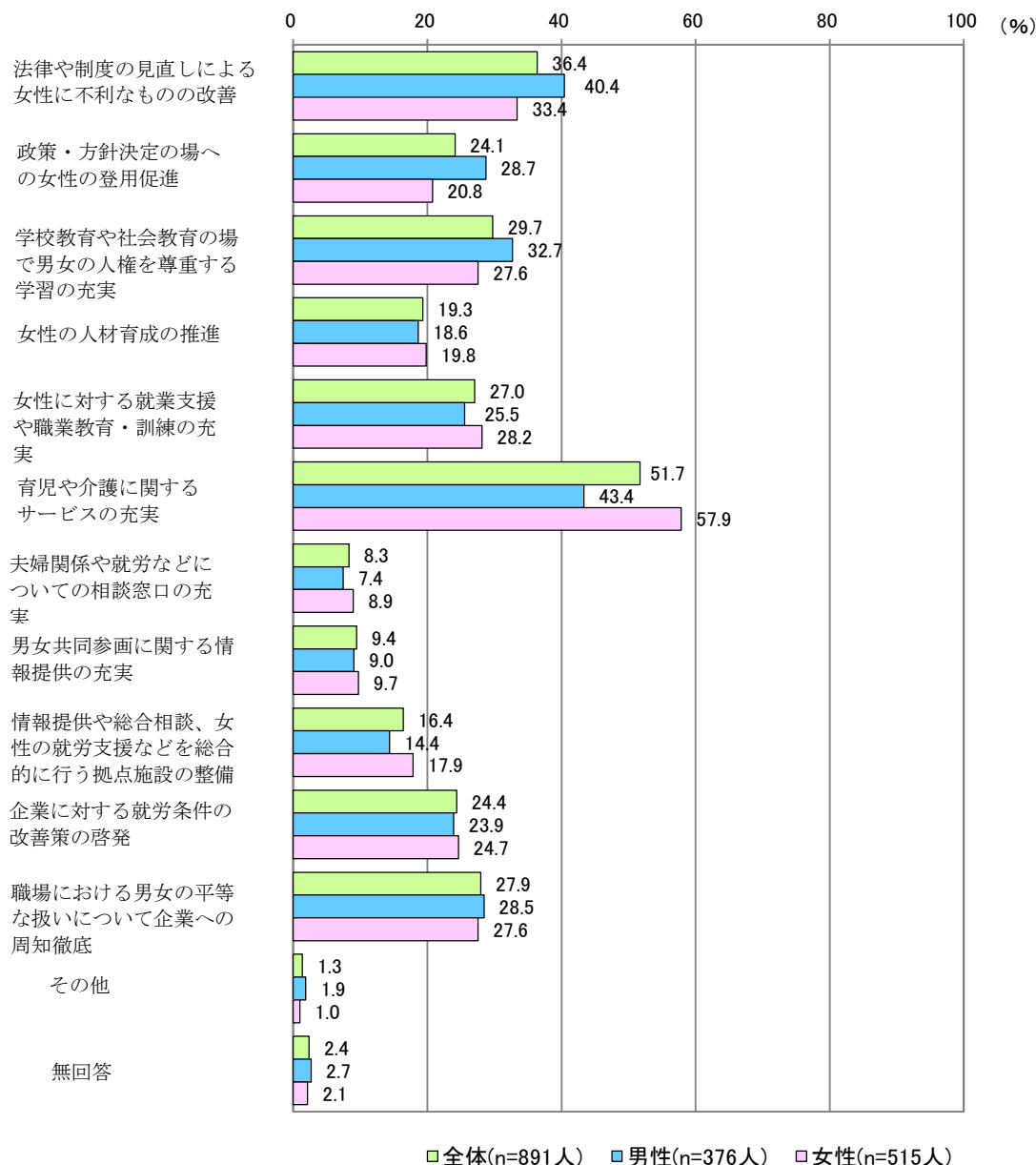
【性別】



問22 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。特に重要だと思うものを3つまでお選びください。

- ・全体でみると、「育児や介護に関するサービスの充実」(51.7%)が最も多く、約5割となっている。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」(36.4%)、「学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実」(29.7%)の順が続いている。
- ・性別でみると、男性では、「育児や介護に関するサービスの充実」(43.4%)が最も多い回答となる。次いで、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」(40.4%)、「学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実」(32.7%)となる。
- ・一方、女性も、「育児や介護に関するサービスの充実」(57.9%)という回答が最も多くなっており、男性よりも回答割合が高くなっている。次に、「法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善」(33.4%)、「女性に対する就業支援や職業教育・訓練の充実」(28.2%)の順となる。

【性別】



資 料

単純集計

「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」

アンケート回答数

送付数	回答数	回収率
2,000	891	44.6%

あなた自身のことについておたずねします。

A あなたの性別を教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①男性	376	42.2%
②女性	515	57.8%
合計	891	100.0%

B あなたの年齢について教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①20歳～24歳	28	3.1%
②25歳～29歳	49	5.5%
③30歳～34歳	56	6.3%
④35歳～39歳	73	8.2%
⑤40歳～44歳	100	11.2%
⑥45歳～49歳	84	9.4%
⑦50歳～54歳	69	7.7%
⑧55歳～59歳	82	9.2%
⑨60歳～64歳	104	11.7%
⑩65歳～69歳	138	15.5%
⑪70歳以上	108	12.1%
合計	891	100.0%

C あなたの職業を教えてください。

選択肢	回答数	回収率
①農林漁業の自営業主・家族従業者	25	2.8%
②農林漁業以外の自営業主・家族従業者	33	3.7%
③自由業(開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など)	18	2.0%
④会社役員・経営者	38	4.3%
⑤正社員・正職員などの正規雇用者	257	28.8%
⑥パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	216	24.2%
⑦家事専業者	143	16.0%
⑧学生	12	1.3%
⑨無職	136	15.3%
⑩その他	12	1.3%
無回答	1	0.1%
合計	891	100.0%

D あなたのご家族の構成(世帯構成)について教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①単身世帯(含単身赴任)	70	7.9%
②一世代世帯(夫婦のみ)	227	25.5%
③二世帯世帯(親と子)	461	51.7%
④三世帯世帯(親と子と孫)	118	13.2%
⑤その他	13	1.5%
	2	0.2%
合計	891	100.0%

E あなたは現在、結婚していますか。

選択肢	回答数	回答割合
①結婚している	690	77.4%
②結婚していない	122	13.7%
③結婚していないがパートナーがいる	14	1.6%
④配偶者と離・死別した	65	7.3%
合計	891	100.0%

F Eで「1 結婚している」「3 結婚していないがパートナーがいる」と答えた方のみお答えください。
あなたの配偶者又はパートナーの職業を教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①農林漁業の自営業主・家族従業者	21	3.0%
②農林漁業以外の自営業主・家族従業者	27	3.8%
③自由業(開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など)	13	1.8%
④会社役員・経営者	52	7.4%
⑤正社員・正職員などの正規雇用者	231	32.8%
⑥パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	142	20.2%
⑦家事専業者	60	8.5%
⑧学生	2	0.3%
⑨無職	141	20.0%
⑩その他	5	0.7%
無回答	10	1.4%
合計	704	100.0%

G あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

選択肢	回答数	回答割合
①いる	686	77.0%
②いない	198	22.2%
無回答	7	0.8%
合計	891	100.0%

一般的なことでおたずねします。

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。
それぞれ1つずつお選びください。

1 家庭では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	306	34.3%
②女性が優位	117	13.1%
③平等である	393	44.1%
④わからない	67	7.5%
無回答	8	0.9%
合計	891	100.0%

2 学校教育の場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	112	12.6%
②女性が優位	40	4.5%
③平等である	487	54.7%
④わからない	242	27.2%
無回答	10	1.1%
合計	891	100.0%

3 地域社会では

選択肢	回答数	回答割合
-----	-----	------

①男性が優位	537	60.3%
②女性が優位	26	2.9%
③平等である	187	21.0%
④わからない	135	15.2%
無回答	6	0.7%
合計	891	100.0%

4 職場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	493	55.3%
②女性が優位	29	3.3%
③平等である	234	26.3%
④わからない	121	13.6%
無回答	14	1.6%
合計	891	100.0%

5 法律や制度の上では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	311	34.9%
②女性が優位	24	2.7%
③平等である	354	39.7%
④わからない	196	22.0%
無回答	6	0.7%
合計	891	100.0%

6 慣習・しきたりでは

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	684	76.8%
②女性が優位	22	2.5%
③平等である	79	8.9%
④わからない	99	11.1%
無回答	7	0.8%
合計	891	100.0%

7 政治の場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	672	75.4%
②女性が優位	6	0.7%
③平等である	122	13.7%
④わからない	85	9.5%
無回答	6	0.7%
合計	891	100.0%

8 社会全体では

選択肢	回答数	回答割合
①男性が優位	647	72.6%
②女性が優位	14	1.6%
③平等である	107	12.0%
④わからない	116	13.0%
無回答	7	0.8%
合計	891	100.0%

問2 次の言葉やことごとらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。
それぞれ1つずつお選びください。

1 男女共同参画社会

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	368	41.3%
②聞いたことがある	310	34.8%
③知らない	207	23.2%
無回答	6	0.7%
合計	891	100.0%

2 ジェンダー(社会的性別)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	252	28.3%
②聞いたことがある	238	26.7%
③知らない	395	44.3%
無回答	6	0.7%
合計	891	100.0%

3 女子差別撤廃条約

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	159	17.8%
②聞いたことがある	282	31.6%
③知らない	443	49.7%
無回答	7	0.8%
合計	891	100.0%

4 男女雇用機会均等法

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	628	70.5%
②聞いたことがある	206	23.1%
③知らない	49	5.5%
無回答	8	0.9%
合計	891	100.0%

5 長野市男女共同参画推進条例

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	100	11.2%
②聞いたことがある	268	30.1%
③知らない	516	57.9%
無回答	7	0.8%
合計	891	100.0%

6 長野市男女共同参画センター

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	103	11.6%
②聞いたことがある	230	25.8%
③知らない	551	61.8%
無回答	7	0.8%
合計	891	100.0%

問3 あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。
お考えに近いものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①法律や制度の上で男女の差がなくなる社会	455	51.1%

②政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性が登用されている社会	230	25.8%
③男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会	549	61.6%
④新たな発想や多様な価値観が活かされる社会	157	17.6%
⑤男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮することができる社会	684	76.8%
⑥男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会	478	53.6%
⑦その他	15	1.7%
無回答	12	1.3%
対象数	891	-

問4 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。
次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①賛成	29	3.3%
②どちらかといえば賛成	344	38.6%
③どちらかといえば反対	336	37.7%
④反対	170	19.1%
無回答	12	1.3%
合計	891	100.0%

問5 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうかお考えですか。
次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①女性は職業をもたない方がよい	5	0.6%
②結婚するまでは職業をもつ方がよい	10	1.1%
③子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	45	5.1%
④子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	399	44.8%
⑤子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	333	37.4%
⑥その他	96	10.8%
無回答	3	0.3%
合計	891	100.0%

「労働」に関することでおたずねします。

問6 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか(次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか)。

あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 賃金

選択肢	回答数	回答割合
男性の方が優遇されている	182	31.0%
女性の方が優遇されている	4	0.7%
平等である	269	45.8%
わからない	95	16.2%
無回答	37	6.3%
合計	587	100.0%

2 昇進や昇格

選択肢	回答数	回答割合
男性の方が優遇されている	255	43.4%
女性の方が優遇されている	12	2.0%
平等である	186	31.7%

わからない	94	16.0%
無回答	40	6.8%
合計	587	100.0%

3 仕事の内容

選択肢	回答数	回答割合
男性の方が優遇されている	150	25.6%
女性の方が優遇されている	54	9.2%
平等である	260	44.3%
わからない	84	14.3%
無回答	39	6.6%
合計	587	100.0%

4 研修の機会や内容

選択肢	回答数	回答割合
男性の方が優遇されている	104	17.7%
女性の方が優遇されている	8	1.4%
平等である	345	58.8%
わからない	91	15.5%
無回答	39	6.6%
合計	587	100.0%

5 経験や能力を発揮する機会

選択肢	回答数	回答割合
男性の方が優遇されている	164	27.9%
女性の方が優遇されている	5	0.9%
平等である	283	48.2%
わからない	96	16.4%
無回答	39	6.6%
合計	587	100.0%

「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」に関することでおたずねします。

問7 あなたは、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」という言葉をご存知ですか。
次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①言葉も内容も知っている	224	25.1%
②言葉は聞いたことがあるが内容は知らない	320	35.9%
③知らない	342	38.4%
無回答	5	0.6%
合計	891	100.0%

問8 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合い等)」の優先度について、あなたが理想とする(希望する)生活に最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	26	2.9%
②「家庭生活」優先	145	16.3%
③「地域活動・個人の生活」優先	19	2.1%

④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	330	37.0%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	25	2.8%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	80	9.0%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	262	29.4%
無回答	4	0.4%
合計	891	100.0%

問9 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、あなたの現実(現状)の生活に最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	219	24.6%
②「家庭生活」優先	218	24.5%
③「地域活動・個人の生活」優先	31	3.5%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	213	23.9%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	32	3.6%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	92	10.3%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	66	7.4%
無回答	20	2.2%
合計	891	100.0%

問10 あなたは次にあげる家事をしていますか。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 掃除

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	342	42.4%
自分と家族が同じ程度している	197	24.4%
自分は手伝い程度している	189	23.4%
していない	67	8.3%
無回答	11	1.4%
合計	806	100.0%

2 洗濯

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	390	48.4%
自分と家族が同じ程度している	105	13.0%
自分は手伝い程度している	132	16.4%
していない	168	20.8%
無回答	11	1.4%
合計	806	100.0%

3 食料品、日用品などの買物

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	342	42.4%
自分と家族が同じ程度している	197	24.4%
自分は手伝い程度している	189	23.4%
していない	67	8.3%
無回答	11	1.4%
合計	806	100.0%

4 食事のしたく

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	384	47.6%
自分と家族が同じ程度している	75	9.3%
自分は手伝い程度している	158	19.6%
していない	178	22.1%
無回答	11	1.4%

合計	806	100.0%
----	-----	--------

5 食事の後かたづけ

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	372	46.2%
自分と家族が同じ程度している	157	19.5%
自分は手伝い程度している	151	18.7%
していない	114	14.1%
無回答	12	1.5%
合計	806	100.0%

6 ごみ捨て

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	319	39.6%
自分と家族が同じ程度している	156	19.4%
自分は手伝い程度している	181	22.5%
していない	139	17.2%
無回答	11	1.4%
合計	806	100.0%

問11 身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

あなたは育児または介護をどの程度していますか。

あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 育児(お孫さんを含む)

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	111	25.8%
自分と家族が同じ程度している	88	20.5%
自分は手伝い程度している	113	26.3%
していない	118	27.4%
合計	430	100.0%

2 介護

選択肢	回答数	回答割合
主に自分がしている	52	13.2%
自分と家族が同じ程度している	34	8.6%
自分は手伝い程度している	58	14.7%
していない	251	63.5%
合計	395	100.0%

問12 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。

主な理由を次の中から3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①主たる家計の稼ぎ手は男性だから	451	50.6%
②職場や同僚に迷惑がかかるから	373	41.9%
③利用しにくい雰囲気があるから	520	58.4%
④上司がいい顔をしないから	96	10.8%
⑤育児、介護は女性の方が向いているから	129	14.5%

⑥他に育児、介護をする人がいるから	64	7.2%
⑦昇給、昇格に影響するから	135	15.2%
⑧男性で制度を利用する人がほとんどいないから	320	35.9%
⑨制度の整備が不十分だから	360	40.4%
⑩その他	31	3.5%
無回答	39	4.4%
対象数	891	-

問13 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①男女の固定的な役割分担意識を改める	324	36.4%
②夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる	323	36.3%
③方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する	114	12.8%
④雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる	235	26.4%
⑤労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる	561	63.0%
⑥社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める	322	36.1%
⑦男性の関心を高めるよう啓発や情報提供を行う	93	10.4%
⑧男性のための仲間(ネットワーク)作りをすすめる	50	5.6%
⑨男性が相談しやすい窓口を設ける	72	8.1%
⑩官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる	368	41.3%
⑪その他	17	1.9%
⑫特に必要なことはない	20	2.2%
無回答	44	4.9%
対象数	891	-

「地域社会」に関することでおたずねします。

問14 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 自治会やPTAの会長は男性と決まっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	258	29.0%
②そうではない	292	32.8%
③わからない	337	37.8%
無回答	4	0.4%
合計	891	100.0%

2 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	429	48.1%
②そうではない	242	27.2%
③わからない	214	24.0%
無回答	6	0.7%
合計	891	100.0%

3 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	132	14.8%
②そうではない	396	44.4%
③わからない	359	40.3%
無回答	4	0.4%
合計	891	100.0%

4 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	236	26.5%
②そうではない	257	28.8%
③わからない	388	43.5%
無回答	10	1.1%
合計	891	100.0%

5 女性自身が責任ある役職につくのを避けている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	257	28.8%
②そうではない	209	23.5%
③わからない	419	47.0%
無回答	6	0.7%
合計	891	100.0%

6 女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	58	6.5%
②そうではない	351	39.4%
③わからない	477	53.5%
無回答	5	0.6%
合計	891	100.0%

問15 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。

あなたはどうすればそれが可能だと思いますか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)を導入すること	181	20.3%
②積極的改善措置(ポジティブ・アクション)は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること	364	40.9%
③女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること	166	18.6%
④女性が積極的に役職につく意識をもつこと	158	17.7%
⑤その他	12	1.3%
無回答	10	1.1%
合計	891	100.0%

男女の「人権」に関することでおたずねします。

問16 身近な人(夫・妻・恋人)からの暴力が、DV(ドメスティック・バイオレンス)として問題になっています。

次にあげる行為は、DVIにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。

あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 刃物を突きつけ、「殺す」とおどす

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	8	0.9%
②したことがある	4	0.4%
③受けたこともしたこともある	3	0.3%

④受けたこともしたこともない	857	96.2%
無回答	19	2.1%
合計	891	100.0%

2 なぐる、ける

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	49	5.5%
②したことがある	19	2.1%
③受けたこともしたこともある	29	3.3%
④受けたこともしたこともない	775	87.0%
無回答	19	2.1%
合計	891	100.0%

3 物を投げつけたり壊したりする

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	55	6.2%
②したことがある	73	8.2%
③受けたこともしたこともある	44	4.9%
④受けたこともしたこともない	700	78.6%
無回答	19	2.1%
合計	891	100.0%

4 髪の毛をつかんで引きずり回す

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	14	1.6%
②したことがある	2	0.2%
③受けたこともしたこともある	1	0.1%
④受けたこともしたこともない	855	96.0%
無回答	19	2.1%
合計	891	100.0%

5 大声で怒鳴る

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	110	12.3%
②したことがある	119	13.4%
③受けたこともしたこともある	135	15.2%
④受けたこともしたこともない	502	56.3%
無回答	25	2.8%
合計	891	100.0%

6 メールや郵便物、行動を細かく監視する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	20	2.2%
②したことがある	8	0.9%
③受けたこともしたこともある	14	1.6%
④受けたこともしたこともない	829	93.0%
無回答	20	2.2%
合計	891	100.0%

7 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出ていけ」と言う

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	75	8.4%
②したことがある	37	4.2%
③受けたこともしたこともある	13	1.5%
④受けたこともしたこともない	747	83.8%
無回答	19	2.1%
合計	891	100.0%

8 何を言っても無視し続ける

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	62	7.0%
②したことがある	74	8.3%
③受けたこともしたこともある	78	8.8%
④受けたこともしたこともない	655	73.5%
無回答	22	2.5%
合計	891	100.0%

9 生活費を渡さない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	31	3.5%
②したことがある	1	0.1%
③受けたこともしたこともある	4	0.4%
④受けたこともしたこともない	834	93.6%
無回答	21	2.4%
合計	891	100.0%

10 嫌がっているのに性的行為を強要する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	41	4.6%
②したことがある	16	1.8%
③受けたこともしたこともある	3	0.3%
④受けたこともしたこともない	810	90.9%
無回答	21	2.4%
合計	891	100.0%

11 避妊に協力しない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	26	2.9%
②したことがある	12	1.3%
③受けたこともしたこともある	2	0.2%
④受けたこともしたこともない	823	92.4%
無回答	28	3.1%
合計	891	100.0%

問17 あなたはDV(ドメスティック・バイオレンス)にあったとき、相談するところをご存知ですか。
知っている相談窓口すべてをお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①長野県女性相談センター	201	22.6%
②児童虐待・DV24時間ホットライン	231	25.9%
③長野市福祉事務所(長野市役所子育て支援課内、篠ノ井支所内)	205	23.0%
④女性の人権ホットライン	196	22.0%
⑤県警女性被害犯罪ダイヤルサポート110	170	19.1%
⑥県警(地域安全推進室)	373	41.9%
⑦長野犯罪被害者支援センター	107	12.0%
⑧長野市男女共同参画センター	112	12.6%
無回答	279	31.3%

対象数	891	-
-----	-----	---

問18 DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えにもっとも近いのはどれですか。
次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う	426	47.8%
②どんな場合でも人権侵害にあたると思う	246	27.6%
③人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	172	19.3%
④人権侵害にあたるとは思わない	5	0.6%
⑤わからない	34	3.8%
無回答	8	0.9%
合計	891	100.0%

「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。

問19 平成27年4月1日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数(割合)は、6人(15.4%)、
平成27年7月1日現在の住民自治協議会における女性役員の数(割合)は425人(16.4%)となっています。
このことについて、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①現在より大幅に増えた方がよい	264	29.6%
②現在より少し増えた方がよい	309	34.7%
③現状でよい	85	9.5%
④現状より少なくてよい	9	1.0%
⑤わからない	216	24.2%
無回答	8	0.9%
合計	891	100.0%

問20 あなたは、政策決定の場に女性が増えることで何を期待しますか。
次の中から、あなたのお考えに最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①政治が身近になる	25	2.8%
②男性中心の考え方に変化が生じる	159	17.8%
③男女平等や男女共同参画社会に向けての施策が推進される	142	15.9%
④女性が持つ意見や発想が活かされる	411	46.1%
⑤組織が活性化する	58	6.5%
⑥何も期待しない	50	5.6%
⑦わからない	37	4.2%
無回答	9	1.0%
合計	891	100.0%

問21 男女共同参画社会を実現するための拠点施設(長野市男女共同参画センター)の役割としてあなたは
何を望みますか。次の中から3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①図書や情報誌などの充実	132	14.8%
②市民団体への活動の場の提供	340	38.2%
③調査・啓発活動への助成支援	243	27.3%
④講演会やセミナーの開催	273	30.6%
⑤起業や資格取得講座の開催	278	31.2%
⑥相談機能の充実	377	42.3%
⑦女性リーダーの育成	351	39.4%
⑧わからない	147	16.5%
⑨その他	20	2.2%
無回答	19	2.1%

対象数	891	-
-----	-----	---

問22 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。特に重要だと思うものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善	324	36.4%
②政策・方針決定の場への女性の登用促進	215	24.1%
③学校教育や社会社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実	265	29.7%
④女性の人材育成の推進	172	19.3%
⑤女性に対する就業支援や職業教育・訓練の充実	241	27.0%
⑥育児や介護に関するサービスの充実	461	51.7%
⑦夫婦関係や就労などについての相談窓口の充実	74	8.3%
⑧男女共同参画に関する情報提供の充実	84	9.4%
⑨情報提供や総合相談、女性の就労支援などを総合的に行う拠点施設の整備	146	16.4%
⑩企業に対する就労条件の改善策の啓発	217	24.4%
⑪職場における男女の平等な扱いについて企業への周知徹底	249	27.9%
⑫その他	12	1.3%
無回答	21	2.4%
対象数	891	-

問23 「男女共同参画」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

選択肢	回答数	回答割合
文章回答あり	177	19.9%
文章回答なし	714	80.1%
合計	891	100.0%

自由意見

問23 「男女共同参画」についての自由意見

性別	年齢	職業	記入内容
男性	20歳～24歳	正規雇用者	もともと女性は出産、育児に関わることがほとんどだから、男性と同じように（内容も、時間的にも）、社会に出ることは難しい。女性が男性と同じように働く、そんな社会にはなっていない。その間、子どもは誰が育てるのか！お金持ちで、育児を全部お手伝いさんにまかせられる家庭でしか、社会で女性は活躍できないじゃないか！！
男性	20歳～24歳	学生	さらに男女共同参画の意識が向上していく事を望みます。
女性	20歳～24歳	非正規雇用者	こちらが会社など積極的に面接に行っても、おとなしい性格なので自分をなかなか出せず落とされ、面接する方も男性ばかりで女性もいても良いと思います。働く形も家と会社のネットの仕事が出来ると、もっと子どもがいたりしても、女性も男性も働きやすいと思うし、まだまだ男性は特に、女性も会社に出勤しないで、在宅ワークは認められていないと思います。
女性	20歳～24歳	非正規雇用者	女性として日本で21年間生きてきて、何かと「女だから」と得をしてきた気がします。平等、平等と言いながら、昔の女性差別を気にしすぎて、今は男性より女性の方が守られてるし、それをいいことに偉そうな女性も増えていると思います。あまり気にしすぎて“平等”にしなくてもいいのでは。
女性	20歳～24歳	非正規雇用者	女性や母親目線でないと感じない点を、女性から発信していくことも大切ですが、男性の家庭生活の協力によっても同じ意見も得られると思います。ですが、昔ながらの習わしや行事を大切にしていって、男性を立てる必要もあり、必ずしも女性だけに観点を置くべきでもないのではないかと考えます。
男性	25歳～29歳	正規雇用者	女性の社会進出は良いことだと思うが、それにより晩婚化、少子化が進むことも考えられる。また、最近では子どもの愛着障害も問題となっている。男女平等は大切だが、男女は同質ではないので、男性が向いていること、女性が向いていることはある。何事もバランスが大切だと感じる。
男性	25歳～29歳	正規雇用者	女性は仕事に一番やりがいや熱意を持っている時期に、結婚、子育て、出産などがあり、社会から離れる期間がある。育児に家事をしていけば、地域や会社や家族の協力無しでは社会に復職するのは難しい。特に夫の収入だけで何人も子どもを養っていくのは大変。少子化の原因？パートにせよ、正社員にせよ、託児所付きの会社や子育ての女性に優しい会社、社会を作っていくかなければ、なかなか働き手の女性の心は動きたくても動けないと思う。あと、働く女性が増えている今、家事、育児をする男性が増えるのも必然のはず。このようなことをもっと社会に伝え、変わっていくべき。
女性	25歳～29歳	正規雇用者	男性でも、子どもが病気だったり、子どもの学校行事の際に気軽に仕事が休めるようになればいいと思います。女性が働きながら子育てをする時、いつも上記のような事で休むのは、仕事が進まなくなり、職場に迷惑をかける事になります。そのせいで職場にいらなくなったりする事もあると思います。育休のような長期的な休暇ではなく、日常的に子どもの為に取れる休暇を男女関係なく取得できればいいと思います。私に子どもはいませんが、子育て中の会社の先輩方を見るとそのように感じます。
女性	25歳～29歳	非正規雇用者	男は仕事優先、女は家事、育児優先と決めつける社会ではなく、お互いに意識や思いやりを持ち、時と場合に合った行動（その時できる人がやる）が取れる人材育成が必要だと思う。
女性	25歳～29歳	非正規雇用者	仕事中心→少子化、子どもを育てにくい社会。子育て中心→働きにくい環境、待遇。以上の2つをもっとバランスよく、子育ても仕事も充実できる社会が女性にとって必要だと思う。男女の平等はもちろんだが、それ以上に女性としてとった部分を大切にしてほしいと願う。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	25歳～29歳	非正規雇用者	質問文章の時点で既に差別している。女性がしているから、男性もしていきやいけないという事を植え付けているような書き方である。～で良い、～もつこと、など断定した文章でおかしい（イエス、ノーじゃないんです）。役割と差別は違うと思う。男性は男性の役割があり、女性は女性の役割というものがあります。全部が全部平等というわけにはいかないこともあります。今の時代、露骨な不平等は少ないと思います。ですが、コミュニケーションができていなければ、男女とも理解出来ないと思います。
女性	25歳～29歳	非正規雇用者	今回の調査で、「男女共同参画」という言葉を知りました。しかし、どんな事をしているのか、内容はよく分からないままでした。もっと多くのメディアや、イベント活動、CM、市報などでアピールをお願いします。男女平等も大事ですが、企業ごとにも平等は必要だと思います。例えば私の職場は、一年に有給休暇が自由に取れますが、主人の職場は自由に取れません。使っていない日数分、給料に変更もしてくれません。心地よい労働ができる社会にしてください。お願いします。行動して下さい！！新しい風をお願いします！！！！全国一住み良い長野県、長野市にしてください！！！！
女性	25歳～29歳	非正規雇用者	“女性”が、“女性”が、と言われると逆に差別を受けるように感じることもある。「役職に一定の割合で女性が登用される」社会をあえて目指すのではなく、“能力”、“やる気”、“人望”などを兼ね備えた人がそういった役職に就くべきであり、頭数だけで女性を登用するというのは一社会人として変だと思う。
男性	30歳～34歳	自由業	意識改革でなく、制度変更まで行わないと、現状は変えられない。
男性	30歳～34歳	会社役員・経営者	「男女の平等」がよくわかりません。男と女は肉体的、精神的違いがあるにも関わらず、全く同じ仕事（重労働なども含む）をするのが、平等なのか、男女の違いに合わせた仕事内容にし、それに見合う対価を得るのが平等なのか、どちらなのでしょう。個人的には、どちらも平等の1つの形態だと思っておりますが、自分の都合で両者を使い分ける人が多く、このことが男女平等な社会を作る障害になっていると感じます。このアンケートでも、質問にある「平等」の定義が不明であったため、回答に困るものが多かったです。まずは、「男女の平等」とはこういうものであるという定義を定めた方がよいと考えます。
男性	30歳～34歳	正規雇用者	女性登用とか促進とか、そういうのは少し方向が違うと思う。無理に女性登用をしている気がしてならない。男性と女性は世の中の的には平等でいいが、力の差とか、絶対的に差がある。それを平等、平等と言っても、絶対に覆えられないし、ある程度の役割はあると思う。それを壊すと日本の伝統すら壊す気がする。
男性	30歳～34歳	正規雇用者	男女が共に協力しあってつくるのが、「社会」であるならば、よりやる気のある人間が頑張ればよいと思います。それがたまたま女性が多い、男性が多い、そういうのであれば仕方がない。「男女共同参画」も重要かもしれませんが、それぞれ得意なことが十分に発揮できるような社会になればと思います。
男性	30歳～34歳	正規雇用者	適材適所。
女性	30歳～34歳	正規雇用者	全ての女性の悩みを取り上げて、一人一人の女性をレベルアップして長野市をレベルアップしたい。
女性	30歳～34歳	非正規雇用者	女性の収入が男性に比べて圧倒的に少ないことで、家庭や社会において弱い立場となりやすい。また、女性に結婚、出産で退職するケースが多く、その後の仕事復帰が厳しいことが現実。いくら法的に制度を整えても、企業体質やまわりの人間の理解が改善しないと意味がない。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	30歳～34歳	非正規雇用者	男性（特に夫）の意識が変わり、家事、育児などに積極的になってくれていても、結局は今の社会では子どもを安心して育てながら仕事をするのが難しいです。扶養の制度（上限）など見直し、女性がもっと社会に出られるための工夫を考えて頂かないと、女性は社会に出にくいし、子育て中の支援を増やして頂かないと、子どもを産みたくても産めないし、社会はうまく回っていきません。「平等」を強く訴える以前にして頂きたいことは沢山あります。宜しくお願いします。
女性	30歳～34歳	非正規雇用者	今の20代、30代がこれからの社会を作っていきます。このままでは日本の将来はどんどん落ち込んでいくと思います。目先にとらわれず、人材育成、若い世代への投資へもっとお金をかけても良いと思う。安定した雇用を。働きやすい社会を、未来に希望を持てるようにしてほしい。
女性	30歳～34歳	非正規雇用者	「男女共同参画」を知らない方は沢山いると思うので、TV、ラジオ、インターネット、広告などで沢山の方に内容等、理解していただける、わかりやすいアプローチをどんどんしていくべきだと思います。
女性	30歳～34歳	非正規雇用者	家庭を大切にしたいとの夫の意向で、フルタイムの仕事を辞め、今は週2のアルバイトをしています。正直なところ、もっと働きたいと思っていますが、やはり無理そうです。もっと広い分野で女性が活躍できることを願います。
女性	30歳～34歳	家事専業者	私は妊娠、出産を機に仕事を辞めました。妊娠中にトラブルがあり、辞めざるを得なくなり、続けられませんでした。いざ子育てが始まると、経済面を考慮すると働きたいと思うのですが、ブランクもあり、資格もありません。どこから手をつけるべきなのか。どこに相談すれば良いのか。何が利用できるのか。そういった壁にぶつかってしまいます。また住んでいる場所柄、なかなかどこかに出向いて相談しに行くというのも、小さい子を連れてとなると、少し大変でもあります。子育て支援施設やサークル等でこれから働きたいと考えている女性向けに情報提供やセミナー等開いて頂けると大変嬉しく思います。私が知らないだけで既に行っているのかもしれないです。
女性	30歳～34歳	家事専業者	今の若い人より年配の方が意識が低いと思います。政治家、官公庁の役職員、会社の役員等に啓発活動を積極的に行っていくことが社会や企業の雰囲気を変えるのに必要なのではないでしょうか。
女性	30歳～34歳	家事専業者	地域活動等について。父子家庭、母子家庭、自宅で介護、育児、夜勤などの変則勤務など、色々な人がいる中で、昔のようなやり方で自治会をやっていくのは困難。今の自治会は昔のやり方を継続しているため、女性、男性に関わらず、一人にかかる負担が大きい。
男性	35歳～39歳	会社役員・経営者	男だから女だからでなく、個として考える事が大事。議席とか、役職の男女比率の増減など、論ずるに値しない。力のある者がやれば良い。実際男女関係なく素晴らしい人々が台頭してきている。
男性	35歳～39歳	正規雇用者	出産、授乳等、女性にしかできない事が当然あります。体力、筋力は男性が勝ります。男女の役割はあると思います。平等はいいのですが、均等とは別、混同している方がいるのが気になります。
男性	35歳～39歳	正規雇用者	男性に有利過ぎる法、政策もあるが（子の出生等）、女性に有利な政策もあるので（母子家庭、父子家庭の差など）、それらも合わせて同じものにするのを願います。
男性	35歳～39歳	無職	「男女逆転」にならないようにしてもらいたい。
男性	35歳～39歳	無職	男性も女性も仕事、仕事だけではなく、もっと話し合う場所。そして、時間が（間が）、必要なのではないのでしょうか？そうしないと、だめな時に来ているような気がします。
男性	35歳～39歳	無職	女性の方が子どもを産んでも安心して働けるサービスなどの充実。企業の求人における男女の賃金の格差をなくすこと。
男性	35歳～39歳	その他	子どもにとっての良い世界を。男性、女性である前にそれぞれが一人の人間であることの尊厳と平等を自覚し、その中で男性として、女性として、又は個人（能力）としてのその役割を互いに理解し、支え合っている、そんな社会が出来るように頑張ってください。期待しています。私も頑張ります。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	35歳～39歳	正規雇用者	もっといろんな人に男女共同参画を知ってもらおう機会があると思います。
女性	35歳～39歳	正規雇用者	難しい問題だと思えます。今まで変化を実感しない。何だかんだと言っ、男性中心社会は変わらない。女性が出ていこうとすると、たたかれる。協力を得られない。DV問題も、相談に至るケースは、ごくまれで、ほとんどが泣き寝入りだと思えます。地域も、単身者に対して偏見があります。こちらが協力しても、相手にされません。
女性	35歳～39歳	正規雇用者	女性の登用も大事だが、地元の方の意識の改革が必要。前に出て来られる女性に対し、男性が、女性だからしゃしゃり出ると言うような地域では難しい。意識改革には官だけでは難しいので、民やNPOなど面白い取り組みが必要。
女性	35歳～39歳	正規雇用者	共働きをしていますが、学校行事に参加するのは9割女性。子どもが病気で自宅で看護するときは10割女性。当然のように女性の役目。就職活動も子どもが小さいと分かるとうすぐ面接も終わる。毛嫌いされる。残業も（児童センターへの迎えがあるので）こちらから断る。男性は迎えに行くことがないので、いくらでも残業出来る。疲れたと家でくつろぐ夫を尻目に家事をしなければいけない。家事手当をいただきたいとへそくり中。
女性	35歳～39歳	正規雇用者	子育てをしながら働いているが、子どもがいても一人前働く事を期待されるので大変です（人手が足らず、短時間労働や、夜勤免除が制度としてあっても使えない）。社会で働く事は、女性はすごく大変だと痛感しています。子育てする家庭にもっと理解があればな、といつも思います（子育ては一時なので）。
女性	35歳～39歳	正規雇用者	この実態調査の意味と成果はどのような形でわかるのでしょうか？
女性	35歳～39歳	正規雇用者	私の働いている会社では、生き活きと女性が働けるためにプロジェクトが発足したばかりです。これは、結婚、出産、小1や小4の壁などで女性が退職せざるを得ない状況にあつたためです。まずは、新しい制度を作るためにミーティングをしています。就業規則やインセンティブの見直し、風土など様々な問題があり、なかなか進みません。会社側はこのようなミーティングを（業務中に二週間に一度程度で）認めてくれ、まずはフェーズ1として、働くママが退職せず、働き続けられるように制度を作る予定です。いずれはフェーズ2、3と介護やイクメンへの制度にもつながる予定です。このように経営幹部が気付き、理解してくれ、女性がいきいきと働いている企業が増えると嬉しいです。男女共同参画社会が実現し、浸透することを期待しています。
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	法律や制度として、「ない」では話にならないけど、あつても実際利用出来ない状況だと結局何も変わらないと思う。私の考えでは家庭生活が優先なので、それを犠牲にしなければならないような場には積極的に出たいとは思えません。どこかにしわ寄せが来たり、誰かに負担が偏らないように制度を整えるだけでなく、その周り（意識の改善も含め）も整っていかないといけないと思う。
女性	35歳～39歳	非正規雇用者	パートの103万、130万の壁のせいで、会社からは必要とされているのに、働けず、無理矢理休みを取らないといけない状態なので、一刻も早く壁の撤去をして、自由に働ける場を作してほしい。
女性	35歳～39歳	家事専業者	男性であっても、女性であっても、不平等、不利益がある社会ではいけないと思いますが、きっと世の中には様々なケースがあり、一概にこれが“女性にとって良い”とか決められないと思います。そんな様々なケースに柔軟に対応できる社会づくりを希望します。男女だけでなく、例えば性同一性障害の方もいらっしゃるだろうし、様々な立場の弱者にとって、理解される世の中になるといいと思います。
女性	35歳～39歳	家事専業者	主に仕事、家事、育児等、男性も積極的に取り組められるような社会になってほしいなと思えます。今妊娠中ですが、出産のことも理解してほしいところもありますし、私自身働くことができないので、どうしても主人は仕事優先にしてほしい気持ちですが、働きにでたら、やっぱり仕事も育児、家事等が平等にできればいいなと思えます。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	35歳～39歳	家事専業者	転勤族で他県、長野県でも他市を渡り歩いてきたが、長野市が一番。幼稚園や小学校のPTA活動、地区での自治会活動が盛んで、自然と女性に負担がかかり、仕事をはじめようとしても、休みを取れないということで断られ、断念している。幼稚園、小学校では子どもを17:00～17:30ころまで預かってもらえる環境ができてはいるのに意味がなく、高齢者が多いなかでの30～40才代の働き盛りの女性を使わないのは、社会的にももったいないと思う。現在、4才（年中）と1才の子どもがいるが、核家族の周りの同じような家庭環境の母親たちは同じことを言っている。
女性	35歳～39歳	家事専業者	男性、女性が協力し合い、より良い社会生活が営めると良いと思います。男性だから、女性だからというのではなく、個人の良いところを発揮できるような生活が一番重要ではないかなと思います。
女性	35歳～39歳	無職	仕事、家庭生活、地域活動に男女共に積極的に参加するためには、家計を維持するための勤め先（企業）の理解と協力が重要だと思います。参加において雇用主と被雇用者が互いに有益となる仕組みや制度があると良いと思います。また、個人としては、幼い頃から家庭や学校、地域での教育や活動が必要だと思います。男性の素晴らしい所、女性の素晴らしい所、それぞれの特性を活かしつつ、お互いを認め、ねぎらい、尊重し合う心があれば、例え男女の役割が別れたとしても、それぞれのステージで持っている能力を十分に発揮し、よりクリエイティブな社会を形成していけると思います。
男性	40歳～44歳	自由業	そもそも男性に子どもは産めません。ライフスタイル、個人に、性別によって条件が違うのに全く同じにはならないと思います。それぞれの資質を生かして補い合っていくのが、「身勝手な男」なのではと思われて不快でした。「法律」で平等をうたっても、実際の生活では成り立たないことはいくらでもあります。行政が男女平等で、子育て環境の充実を言っても、なんか表面だけのものを感じます。子育てを体験して、いかに子どもが安全に遊び学べる場所が長野にはないか感じました。あまりに古い図書館や「科学館」など。そのくせ3部リーグのサッカー選手には厚遇してはいる。
男性	40歳～44歳	会社役員・経営者	設問が意図的に誘導されている感が強い。そもそも男と女は違う生き物なので、「平等」に扱おうとすること自体がおかしい！「平等」ではなく、「公平」な社会を作らなければ、「心豊かで生き甲斐のある社会」など出来ないと考えます。
男性	40歳～44歳	正規雇用者	男性には男性の、女性には女性の本質があるので、それを無視した法律や制度であってはならない。
男性	40歳～44歳	正規雇用者	要するに、社会全体の意識が変化することが必要。40代より若い大学以上出身者にとっては、普通の意識だと思う。行政、政治、民間等でいまだに80代～60代が力を持っているうちは、変化がないし、根本的には変わらないと思う。長野においては特に、女性の学歴や賃上げはもちろんのこと、育児や介護への更なる充実が求められる。また忘れてるのが、若者、特に男性の給料水準の上昇と働く環境の改善。政治的に働き盛り、育児等で大変な若者へのバックアップが必要。国民資産の70%を60代以上が持って手放さない国には、明るい未来は見えてこないと思う。
男性	40歳～44歳	正規雇用者	ゴールが見えない。女性の望む到達点とは何なのか。男性差別の可能性も出てきませんか？能力のある人は、女性でも（共同参画言う前から）活躍しているし。ジェンダー論を知った90年代は、知識として理解していたけれど、更にまだ何を求められるのだろうか一部嫌気もさしてくるのですが。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	40歳～44歳	正規雇用者	女性には子どもを産むという、女性にしかできない事があり、これは男性にはどうにもできない事である。子どもを産み、育てるということにもっと社会全体で支援や、評価を上げていくことで、少子化にも歯止めがかかるのでは？男、女全てを平等にというのは難しい部分もあると思うので。今まで以上に女性の活躍できる場を増やすことと、昔ながらの考えの“変化”をさせていくことが大切だと思う。また、主に女性のやっている家事、育児に対する評価（社会的評価）の向上をし、男性がする場合でも評価される社会にしていけば、女性の活躍の場も増えると思う。
男性	40歳～44歳	正規雇用者	女性枠だとか、女性登用だとか、「女性」であることだけを重視する行政の考え方が、一番の問題であり、最大の差別。性別という概念を捨てて、その人個人の才能のみに着目することが、男女平等の本質。
男性	40歳～44歳	正規雇用者	社会において男性側が女性の共同参画を受け入れるとか、理解するとかいうスタンスがきっちり壊れない限り、本当の男女共同参画というのは実現しないと考えます。男性は「受け入れるかあ～」、「理解しなきゃなあ～」と、いつまでも上から目線で居続けると思います。例えばざっくりと言うと、女性がいるから、「男性は威張ってられる」、「理解したふりをしてられる」ということを、男性は気付く必要がある。
男性	40歳～44歳	正規雇用者	男女ともに責任のバランスが男女で差があるようではダメだと思う。
男性	40歳～44歳	正規雇用者	制度面や施設面での充実も重要だとは思いますが、まずは個人個人の認識や意識、考え方のアプローチを考えた方がよいのではないかと思います。個人的な考え方を否定する必要はないとは思いますが、DVや差別など絶対にあってはならないことに対する啓発、研修、教育はとても大切だと思います。
男性	40歳～44歳	非正規雇用者	向き不向きもあるので、仕事も育児も全てを50%、50%にするのは無理だし、おかしいと思う。それに近づくように努力する必要はあると思う。
女性	40歳～44歳	自営業（農・林・漁業以外）	女性が責任あるポジションに就ける社会、会社を作っていくことも大切だけど、女性がキャリアと重ねていくところで必ずぶち当たる壁は、「出産」だと思います。女性は「産む」性であるので、それは仕方ないとしても、育児、家事で男性が協力するように意識を変えてくれないと、結局女性の負担が増して大変になるだけだと思います。学校のPTA役員の場合や、地域の育成会の役員等々も、女性の負担になっています。女性に社会参画を望むなら、ポジションを与える前に、女性や子どもが生きやすい社会や仕組み、制度を作れば、無理せずとも女性は自然と社会に出ていくと思います。主にこの社会の制度を作っている多くが男性というところにも問題が。男性も働きながら子育てしている女性の生活を1ヶ月ほど、全く同じように体験してみれば、色々なことが見えてくると思います。
女性	40歳～44歳	正規雇用者	地方の中小企業は自分達に関係ないと思っている処が多い。大きいと思うので、そういう各会社のトップの意識を変えないとダメでしょう。特に、セミナーなどあっても、担当者に行かせるだけ行かせて、実行が伴わず、やってる体の会社が多い。長野のような地域は、まず頭から変えないと。
女性	40歳～44歳	正規雇用者	今、現在女性が強く、男性が弱い立場が多い。やはり昔から男性を立て、女性はという考え方もあると思うので、もっと平等に生活できるような何かがあればいいなと思います。男性も女性に協力してできるものや研修があればよいと思う。
女性	40歳～44歳	非正規雇用者	私は40代ですが、父母（60、70代）の年齢になると、男女の差がすごくあり、特に家の事は女性がやること、というふうに決まってしまうと思います。そうでない家庭もあると思いますが、まわりをみる限り、掃除や料理が全く出来ない男性は多いです。やはり、小さい頃からの考え方が大切なので（大人になって急に言われてもダメだと思うので）、小学生から勉強できるような機会を設ければ違ってくると思います。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	40歳～44歳	家事専業者	私が大学在学中の就職活動中、事務職希望でしたが、四年制大学での入社は給料が高いため、“高卒～短大卒を採用する”と面接に行った先で言われたものでした。表向きはそのような事柄が書けないので、ということでしたが、それも差別の1つなのかと思いました。まるで女は余計な学力はいらぬと言われていたような気がしました。いわゆる“使えない、使いづらい”女性事務員などをいじめて会社を辞めさせるということは男性上司間で相談してよくやる手法です。それが現実です。
女性	40歳～44歳	家事専業者	自分も含め、男女は平等だと口では言えるが、実行となるととても難しい。法律や制度をいくら整えても、根本的に（意識している、いないに関わらず）、男は外、女は家的な考えで家庭教育がなされると変わらないのでは。夫はとても優しい人で、大きな声を出したり、口を荒げる事は全く無いが、自分の親の介護は私がするものだと思っている様である（はっきり言われると反論しなくてはならないので、話し合ったことは無い）。おばあちゃん子で育った夫はとても大事にされて、姉と差をつけられていたらしい。人格をつくる一番大事な時に男だからと大切にされると、ダメなのでは？各家庭のことだが、人間に家庭で育てられ社会をつくるので、そんな人が社会をつくり、家庭をつくると、繰り返すと思う。夫も娘達に女の子なんだからと掃除を、料理を、と言う。
女性	40歳～44歳	家事専業者	子育てをはじめ、初めて気がついたこと。時短勤務は男性でも当たり前前に利用できるようにしてほしい。産休、育休を女性だけが取る時代ですが、男性も積極的に取れるよう官民で働きかけてほしいです。
女性	40歳～44歳	その他	長野市は、福祉が充実する様に、もう少し努力すべきだと思います。職場で責任ある立場に立たされても、「子どもが小さい」という理由で、早く出勤したり、遅くまで残って仕事をすることができません。子どもの迎えに少し遅くなるだけで、利用施設に叱られ、ビクビクしなくてはならなかったり、かといって、そこ以外に預けることは、金銭面でも苦しかったりします。子どもにも後ろめたい、職場でも、施設でも、ということになると、そこまでして働くことが果たして良いか、と考えてしまいます。このようなアンケートで、形だけを整えるのではなく、そういう心情も女性には働いているということも、どうぞ考えて下さい。
男性	45歳～49歳	正規雇用者	施設や図書よりも大切なのはマンパワー（ウーマンパワー）だと思います。息切れさせない仕組みづくりが大事です。応援したいです。
男性	45歳～49歳	正規雇用者	主体形成が大切ではないでしょうか。
男性	45歳～49歳	正規雇用者	前にも記入したが、自分が考える男女の共同は、あくまでも男として、または女としての本来持つ性質、言い換えれば男らしさ、女らしさを尊重した上で、機会は均等に与えられるというものである。従ってこのアンケートで提示されている「男女共同参画」とは相違があるように思える。「女性が不当に差別されている」ことが前提の設問が多く、「ジェンダーフリー」への誘導が疑わしく感じた。
男性	45歳～49歳	正規雇用者	「女性」故に社会への進出を支援するというのは、性差別ではないか。
女性	45歳～49歳	自由業	現状、私が困っていることは特になが、娘がいるので、今後ますます男女の差を感じず暮らせる社会になってほしいという希望はあります。これから社会へ出る娘が、自分のやりたい事をやりながら、幸せに暮らせる未来があるといいなと思います。
女性	45歳～49歳	会社役員・経営者	男性は男性、女性は女性としての向き不向きも多々あると思いますので、それぞれの役割ある社会で良いと感じております。平等をうたい過ぎるとかえって良い事ないと思いますので。
女性	45歳～49歳	正規雇用者	子どもを産んでも、仕事が続けられるように、夫も育児休暇が取れ、夫婦2人で協力して、子育てができる社会になれば良いと思う。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	45歳～49歳	正規雇用者	数ではないと思います。いつの時代も、男性を支える女性、女性を支える男性がいます。支え合える家庭、支え合える職場、支え合える社会であってほしいと思います（そうありたいと思います）。
女性	45歳～49歳	正規雇用者	女性の地位向上は課題であり、取り組むべきことですが、偏重ということは問題として出てきています。DVに対しても、女性の訴えがあればそちらが優先され、真偽はともかく女性だけ守られる。裁判を起こしても男性が負け、子どもにとって不幸な結果となることが多くあるそうです。痴漢行為の冤罪も問題になっています。共同参画とはどちらかに偏って優先することではないと考えます。
女性	45歳～49歳	非正規雇用者	生活、職場で感じることですが、70代以上の男性の意識改善が必要ではないか。家の中での事は外には分からない。DVに関する質問がありましたが、結婚してからは「誰のおかげで生活できるんだ」、年一回以上は言われ続けています。ただ我慢しているだけです。
女性	45歳～49歳	非正規雇用者	女性の出産後の職場復帰の整備が進んでいる今ですが、子どもの保育園を増やすなどの女性を早く早く働かせるようで、ゆっくりとゆっくりと、母と子が向かい合う時間は、とても大切です。小さい頃は特に父と違い、母にしかできないこともたくさんあります。若い人の非行、凶悪な事件の原点は、そこに全てであると思います。女性を無理に働かせるような対策ではなく、子どもがある程度大きくなるまでは、子育てに専念できるように、父の賃金、保障を厚く、高くなる対策が将来の母の仕事への熱意、意欲、そして子どもの人格形成、落ち着き、愛情を養うことに大きくつながり、社会全体、日本の今後の財産になることとなると、何よりも思う、この頃です。
女性	45歳～49歳	非正規雇用者	私の地域は三役に女性になるなど、理解のある地域だと思うが、古くからある地域では、年配の方に意識が薄いと感じることがある。女性も前に出ることはしないのに、陰では話してばかりなど、直していかなくてはいけないと思うこともある。男性も女性も、性別ではなく得手不得手があるので、相手を思いやりながら、それぞれが得意な方が出来るようになるというのでは。必ずしも、女性の全てが昇進などしたい訳ではないので、子どもを預けてまで仕事を優先にしないといけない、という方向にもいってほしくないと思っています。
女性	45歳～49歳	非正規雇用者	米国やヨーロッパのようにはならなくても良いと思うが、社会的に上に立てる女性や、リーダーが向いている女性もいるので、その女性達が喜んで動ける地域、社会になれば良いです。自治会長、区長、公民館長はやることも多く、女性にはなりたがらないので、制度や改革が進んでも意識はどうか？イクメンが増えているので（保育園の送迎や参観日）、育児を通して若い男性が変わってきていることを感じます。（職場の）男女共同参画が進んでくると、離婚率も増えてくるのではないかと？保育所の長時間、深夜、早朝保育も手厚くなりすぎると子どもがかわいそうです。
女性	45歳～49歳	家事専業者	家庭の主婦として長年やってきて、なかなか発言する場所がないが、自分ももっと社会に関心を持ち、沢山の情報や、そして問題意識を持っていかねければと思いました。主婦でも、いつでも学べる場所があればいいと思います（主婦でも長野に通える大学があればいいと思います）。もっと大学や専門学校が社会に開放されていればいいと思います。
女性	45歳～49歳	家事専業者	そもそも男性女性で区別して考えるのではなく、能力の高い順にやらしてもらえばいいのでは。女性の能力がないのであれば無理に登用していただく必要はない。もともと女性には男性ほどの体力がない。それも能力の1つだと思う。そこをハンデと捉えてサポートするならば、その時女性ができる事はだいぶ増えると思います。
男性	50歳～54歳	会社役員・経営者	最近無理矢理数合わせのような女性参画が話題となっているように感じるが、平等の名の元に逆差別となることも考えると、個人の能力に応じた参画が自然であろう。何の為に「男女共同参画」を言うのか。手段が目的化していないだろうか？

性別	年齢	職業	記入内容
男性	50歳～54歳	正規雇用者	女性は十分に強いのに、何故女性の立場を強くしていく事業を進めていくのか。必要の無いことだと思う。母親がもっと子どもの側にいて、子どもを育てることに愛情を注いでいくことが子どもの成長に必要なことだと思う。
男性	50歳～54歳	正規雇用者	女性の活躍を考える前に企業の就労条件、特に男性の労働時間、固定的な就労環境を改めることが重要と考えます。
女性	50歳～54歳	自営業（農・林・漁業以外）	制度を整えることは形式上のもので、DVも相手の立場に立ってない結果にすぎない。仕事、家庭生活、地域活動、全てにおいて協力（責任）しあい、相手の立場に立って考えたり行動し、補い合える社会がいいですね。個人主義が蔓延し、皆が協力以前に助けを求めている。政策は小出しでは世論を変えたり、整えることは難しいと思う。まとめて打ち出し、インパクトを持たせ、充実、幸せ感、満足感を実感させる（大きな渦を作らないと意味がない）。若い世代の考えを創っていくことは大事。思いやりの気持ちは、人から守られたり、優しくされた経験から生まれてくるものだから！！受けたことがないと無理。男女共同参画の土台には行政も家庭も、「子どもが安全に伸び伸び育っている」という確かな未来がないと、実現不可能ではないでしょうか。ex. 学校の敷地のそば、もしくは敷地内に建物があり、その中には習い事のテナントがあり、子どもがスムーズ（安全）に移動出来、通いたい習い事をする。それが終わったら子ども達が集まって遊んだり、待ってられる場所もある（見守る人は必要）。親が迎えに来る。勉強の施設もあると、学力向上も図れる（←長野県の問題でもある）。うまく伝えられませんが、子ども達もゲームなど狭い世界に入り込み、少子化で兄弟も少なく、いろんな事や物を目で覚えたり、感じたり幅広い世界観を身につける場面が少なく、人が集まることの楽しさなどの経験に飢えているように感じます。
女性	50歳～54歳	正規雇用者	あくまで理想として、男女共同参画といっても、誰でも何でも平等にすれば良いというものでもないと考えます。性別ではなく一人の人間として適材適所を見極められる判断力を個人も企業も行政も持つべきで、そのための啓発活動が必要だと思います。どこの行政の女性の役職人数を単純に増やすとかではなく、自然と役職に向いている女性が育つような職場環境が必要だと思います。年功序列、男性社会の行政・企業の中では役職についても男性に負けないようにと気負いがあったり頑張り過ぎたり、結局個人の生活や家庭にまで影響を及ぼしてしまいます。適所が女性にとって家事・育児であれば、あえて不慣れな男性が無理に手を出さなくてもコミュニケーション次第で不平等感は減少するのではないかと思います。男女共同参画に逆行する考え方と言われるかもしれませんが、個々の自由や権利が主張されすぎて、相手を思う気持ちが欠けてきた。最近では男女平等なんだから手伝うのが当たり前という風潮も出てきているように思います。一人一人自分でできることからという気持ちの積み重ねが大事だと思います。
女性	50歳～54歳	非正規雇用者	相続に関する法律が嫁の立場にある人に対して権利がないのはおかしいと思う。
女性	50歳～54歳	非正規雇用者	久しぶりに聞いた言葉でした。アンケート用紙から学ぶ事も多々ありました。これを機に関心を持ちたいと思いました。ありがとうございました。
女性	50歳～54歳	非正規雇用者	男尊女卑はいまだにあります。
女性	50歳～54歳	非正規雇用者	保育士をしています。現代は男性保育士の存在も重要になっていると思います。保育士は賃金が低いと思います。なので、男性はやりたくてもできない場合もあるのではと思います。子ども（特にこれからは未満児）の保育の充実が社会に大きな影響を与えていると思います。男性保育士もしっかりした賃金で働けるようになるといいなと思います。それに合わせて、女性保育士ももっと社会に認めてもらって、賃金が上がることを希望します。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	50歳～54歳	非正規雇用者	職場（以前の）で、男性上司からのパワハラ（暴力）を受けたことがあり、上層部にその事実と改善を求めましたが、結果的に私自身が解雇になった経験があります。結局、その上司はその後、解雇となった様ですが、組織ぐるみ（全員男性）でパワハラ隠しをしていた事実がありました。男女共同参画社会は道のり遠しという想いです。
女性	50歳～54歳	非正規雇用者	一般生活の中では男女平等であれば良い。政治の世界となると、男女の比率より、個人ひとりひとり。誰が自分の意見に近いかという点で選ぶと思う。
女性	50歳～54歳	非正規雇用者	市議や自治会役員の女性の割合の低さは、女性自身の意識にも関係があるのでは、とも思います。有能な女性は今でもどんどん活躍されている！！女性自身の意識改革も、もっとも必要だと思います。何も対等に男性と同じ事をするばかりが参画ではないのでは？男性らしさ、女性らしさをお互いが認め合い、尊重しあえる社会であってほしいと思います。
女性	50歳～54歳	家事専業者	夫が単身赴任で不在であり、1人で育児、介護をしています。また、もし夫がいたとしても、やはりほとんど私が1人でこなしていると思います（夫の仕事が激務なため）。企業に勤める社員の転勤や、勤務時間など、仕組みを変えていかないとずっとこの状態だと思います。
女性	50歳～54歳	無職	女性が結婚しても退職しなくても良い様に、男性にも育児休暇導入、保育園、幼稚園の延長保育の充実など、行ってほしい。企業の長が結構頭の固い人が多く、産休をとりづらく、子どもの人数も2人が限度。3人目は嫌な顔をされる方がいるようだ。
男性	55歳～59歳	正規雇用者	議員に女性が何人いるか。企業の役職者に女性が何割いるかということを取り上げて、男女平等を議論している間は本来の平等な社会には程遠い議論と言えるのでは？何人、何割ではなく、男女の社会貢献が等しくなった時に初めて平等社会と言えるのではないのでしょうか。その為には青少年への教育が一番大切であると考えますが、同時に経営者の皆様にももっと勉強していただく必要があると思います。経営者に共同参画のメリットをもっと知っていただく活動もお願いしたいものです。
男性	55歳～59歳	正規雇用者	単に「女性」というだけで登用するのは間違い。男女平等に評価すべき。数合わせだけで能力のない女性を登用しないようにしてほしい。
男性	55歳～59歳	正規雇用者	より自然に移行していくことが望ましいと思う。〇〇でなければならないと決めつけた政策はなかなかうまくいかないと思う。地域の醸成を更に進めることが必要では！！過去からの慣習を一朝一夕に変更させることは、法律であれ、政策であり、難しいと思う。まずはこのことが何のデメリットがあつて、実現することに何のメリットがあるのか、もっとPRする必要があると思います。
女性	55歳～59歳	自営業（農・林・漁業）	地域柄、昔から女性が地域社会に出ていくことを良しとしない風習がある。このことが一番の問題だと思います。育児休暇にしても、看護にしても、女性の方がどうしても関わる事が多くなってしまうのは、仕方がないのかなあ。かなしいかな、これが現実です。
女性	55歳～59歳	自由業	日頃あまり意識したことのないテーマで、回答することで、大変勉強になりました。質問や回答の選択肢に誘導や決めつけを感じる部分もあり、私としては答えに苦しむ点がままありました。回答させていただきながら、女性の特性そのまま、政治や社会に生かされるといいなあと思いました。“女性は政治に向いていない”それでいいのだと思いました。その政治とは今の政治のことですから。女性の特性そのままに政治に関わり、議員数も逆転すれば、経済は停滞しても、戦争は起こらないかもしれない。そうなるといいです。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	55歳～59歳	自由業	私自身は幼少期から大人になるまで、周囲の男性（父親、小学校の先生、職場の上司等）に恵まれ、男女不平等で深刻に悩んだことはありませんでした。また、職業柄、比較的自由に平等に能力が発揮出来る世界で仕事をしてきました（男性型社会であっても）。しかし、これはあくまで独身で仕事中心でやってきたからであって、結婚し、特に出産、育児を両立しようとする、おそらくまだまだ大変な苦労があると思います。今後介護についても同様に想像できます。友人知人の職場の話や聞くと、未だに進んでいない、不当な女性の立場、地位に愕然とします。地域でも根強い男性型社会が続いています。これは、当の女性が強い気持ちを持っている事もある大きな要因であり、啓発、教育が大切だと感じています。
女性	55歳～59歳	非正規雇用者	男女共同参画もいいのですが、やはり女性は子どもの事を一番に（一番は小学生まで）考えてほしいです。子どもと一緒にいる時間をいっぱい使ってほしい。子どもが大きくなってから、何らかの仕事が就ければ一番いいのですが、仕事を辞めれば、またその仕事に就けないのは、考えてほしい。あるいは年齢とかでやりたい仕事、子育てでだめにならないで、ほしいです。
女性	55歳～59歳	非正規雇用者	50人以上の企業経営者に（関連会社の子会社も含む）、1日1回以上参加して頂き、男女雇用均等法と女性の役員登用を必須アイテムとして、女性はパートタイムで働いている割合が多いので、パートタイムの時給をアップさせて、女性パートの意見を反映させるよう働きかけてほしい。育児、介護、親（実父母、養父母）の通院介助は、女性の役目という古い慣習を取り除き、就労している男性も積極的に時間休をとれる職場体制を作る。啓蒙活動を行政から民間に指導育成してほしい。
女性	55歳～59歳	非正規雇用者	市役所の男女共同参画は知っていますが、もっと一般の私達にも利用の場や、内容を広げてほしいと感じます。
女性	55歳～59歳	非正規雇用者	何事にも男女平等を唱えるというのは、賛成しかねます。男にしか出来ない事、女にしか出来ない事って必ずあると思っていますので、平等、平等という前に自分で出来る事をしていけば良いと考えます。男女ではなく、お互いを補っていければ良いかなと。
女性	55歳～59歳	家事専業者	これからの若い人達が安定した職を得、安定した収入を得、未来、将来結婚、育児と当たり前の事が当たり前の様になっていってほしい。そういう希望の持てる社会となってほしい。
女性	55歳～59歳	家事専業者	男女共同参画を考える前に、今、家庭が崩壊しています。ある面女性が権利を主張しすぎていませんか？家庭より仕事が優先されている。家庭での両親としての役割を考えた方がいいと思います。結婚しない男女が増えていることの方が問題です。それと、シングルマザーが保護されすぎることのも考えものです。安易に離婚したり、忍耐も必要な時もあると思います。やはり、子どもの頃から学校教育の中に道徳の時間を重要視し、純血教育を含めた人としてどうあるべきか、教育を考えてほしい。立派な人格教育を子どもの頃からすれば、おのずと問題は解決すると思います。
男性	60歳～64歳	自営業（農・林・漁業以外）	何でも男女共同参画という考えは性急過ぎる。男性が適した職業、女性が適した職業というものがあることを理解した上で、男女共同参画を推進して欲しい。企画のようなことは当然男女が同一に参画すべきと思う。
男性	60歳～64歳	正規雇用者	色々な場面において、男女が平等であることを望みます。
男性	60歳～64歳	正規雇用者	女性が能力に応じて、それを十分に発揮できるような状況（社会のシステムと思想）を実現すること。そのような中で可能な限り労働に従事することを通して、社会の一員として生活することが重要と思う。
男性	60歳～64歳	正規雇用者	平等論は非常に難問だと思います。あまり意識過剰にならず、互いに得意分野で活躍する事を望みます。
男性	60歳～64歳	非正規雇用者	社会に目を向けている女性の貴重な意見を何回も聞いているが、それによって物事が動くまでにはなっていない様な気がする。昔からのしきたりや慣習をかえていく事が大切だと思います。

性別	年齢	職業	記入内容
男性	60歳～64歳	非正規雇用者	行政の中で女性支援策の優先順位付けの問題。長野市でももっと力を入れるべき施策があると思う。首長の判断で重点施策をしっかりと目に見える形で進めてほしい。「男女共同参画」のスローガンだけを利用して格好付けの行政はいかなものかと思う。
男性	60歳～64歳	非正規雇用者	私の住んでいる中山間地域では、少なくとも男女平等の地域だと考えています！今回の調査では、現状何も根本的解決方法は見つからないでしょう。具体的問題点の提起があれば良かったのですが、ただ私個人としては、地域活動の中で、ちょっとした発言、意見、発案が女性からあった場合、必ず優先して実行する努力を常日頃しております。女性が自ら意識改革をされない限り、現状変わる事はないと思います。高齢化、少子化等、もっと大事な問題を抱えた当地域では、論外の調査です！10人10色ましてや、多様化社会の中で一体「男女共同参画センター」では、どんな社会づくり考えておられますか？お互い相手を尊重し合い、日々仕事を共に淡々とするだけで良いのでは。景気が増々悪化する中で夫婦共働きする我が家では、今回の問題も考える余裕もございません！従って、今の平和な世の中、「男女共同参画」（※問題視する事に問題有！）の名の下に、問題点を模索し、市民の税金を無駄に使う事自体に問題が大いにあると考えます。広い視野に立って、もっと大事な課題が山積しています！
男性	60歳～64歳	非正規雇用者	男、女の役割はおのずとあるもの。法律や規則では平等の扱いが良いが、そうだからといって、全てが平等になるものではない。全てが平等でなければならないとするジェンダーのような考えは、人類を滅亡に追い込むものだと思う。
男性	60歳～64歳	無職	人権は永遠の問題だと思います。政治家の中でもよく分かっていない人がいます。人権の啓発活動は地味な活動だと思いますが、どんなに社会が成熟しても必要なものだと思います。
男性	60歳～64歳	無職	内閣府の委任事務か。市役所の人できるのは、キャンペーンと身上相談だろう。子どもを増やしたいなら、女性に定職と定取と定住を保証するべきだ。中東から子どもを入れるのも早道だが、一緒にイスラムも入ってくるだろう。週に六日くるヘルパーさんたちは個性がある。多様な女を女性でくくるの失礼ではないか。
男性	60歳～64歳	無職	区の役員をしているが、女性が役を受けるのを嫌がる。男性の意識の改革も必要であるが、女性ももう少し積極的であってもよいのではないか？男性の役員も昔ながらの女性ではだめだという差別意識を持った人は少なくなってきた。これからは活躍の場を拡大するチャンスだと思う。
女性	60歳～64歳	自営業（農・林・漁業）	都会に比べ、長野市は男女平等の意識が低い。自分の夫に家事をやってもらおうと隣の奥様からクレームが。さらにもっと田舎へ行くと、もっとひどい。女性自身が足を引っ張る。息子さんが成人（40才）しても、息子さん（娘さん）のパンツを洗濯してやっているお母さんがほとんどの事にびっくりしている。それで家事仕事に追い回されている。レベルの低い奥様達のパートナーはやっぱりレベルを上げられない。女性自身が変わらなければ。世の中は女性が作り上げているのだから。産み、そして育て教育するのは女性なのだから。平和で安全な世の中を作る意識が高いのは女性なのだから。
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	まず男女の意識を変えていく事が大切だと思います。男性はもちろんの事、女性もひとりの人間として、平等であるという事を念頭に置き、生きていく事が重要！
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	「いまでも、男が偉くて、女は役立たず」との想いが至るところにあります。男とは都合が悪くなると大きな声で女、子どもを一喝する。男とは黄色い声を出したりするべきではない。
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	未だ一般に知られていない面が多いと思います。私もこれからも勉強していきたいと思っています。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	3年前、Iターンで横浜より移住してきました。地域活動にあまり関わる事はありませんでしたが、自治会のリーダーなどは男性がやっていました。職場では男性のリーダーの方が多かったように思います。選び方は不透明のように思いました。長野では過疎地に住んでいます。男性優位の考えが根強く、女性はもともと前面に出ずに地域生活がすすんでいるように思われます。女性も遠慮せず発言活動できる雰囲気、積極性が必要かと思えます。
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	私自身勉強不足で理解出来ないので、よろしくお願いします。
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	日本がおかしくなっていないですか。これからの若い人達が希望を持てる社会でないといけないのに、日々の暮らしのみで元気が感じられません。元気なのは中高年のみ？特に感じるのは若い男性が弱ってること。自分の意見言わないし、彼女いなくてもいいなんて変ですね。男女平等あり得ません。体の造りがそもそも違う。男と女の役割は別々で協力すればいいと思います。女性は元気な人たくさんいます。元気な女性を表に出し、今弱い男子に自信がつくような生き方の指導（指導しなくてはならないなんて情けない）。男はリードして、女は後ろから支える（手綱を引く）。頑張ってほしいです。10年先の自分が見えるような生き方をすれば、行動の方向が出来るのではないのでしょうか。
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	若いお母さんが安心して働ける場所。男性も育休がとれる会社が増えることを希望します。介護が必要な家庭が増える社会がやってきます。安心して休みが取れる会社が増えることを期待したい。
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	男女共同参画だから、男、女どちらも働くというよりも、今の社会ではどちらも働かなければ生活が出来ません。一般の企業で働いても、給料はとても安いです。残業代はもらえず（大きな企業は別でしょうが）、給料をもらえるのは2ヶ月後（何も言われなければこんな風です）。国の方にはもっと前に渡していると提出しているが、実際は用意が出来てないと言っただけ延ばす。今こんな世の中です。行政の方々にしっかりしてほしいと思いますが。国民は納税の義務を果たしているのですから、生活もしっかり出来る世の中にして頂きたい。使い捨てのような企業（職場）が多いように思われます。
女性	60歳～64歳	非正規雇用者	私の世代には介護のこと、老後のことがとても心配です。又、若い人達には生活、子育てがとても大変で大事なことです。幅広い活動を望み、お願いします。
女性	60歳～64歳	家事専業者	若い人たちは即戦力になりうるが、年を重ねた人達も、自信を持って働ける、生きていける方法やアイデアを模索していくべきだ。じいさん、ばあさん、おじさん、おばさんは「ダメ」でなく、こんな所が素晴らしい、こんな所は真似たいなど、人間はすごい力を持っているはずだから。何事も、もっと謙虚に対処したら、一層良い社会になるだろうに。女性も今以上に冷静に挑戦して欲しい（女はうるさい、を払拭出来る様に）。
女性	60歳～64歳	家事専業者	人口（子ども）が増えれば、町の活性化になり、多くの人の意見や考え方が伝えられる。悪い面もあると思うが、向上につながる。その為には、女性の働き場所、育児の補助を充実した方がよい。自分は今はリタイヤしているが、そうであってほしかった。
女性	60歳～64歳	家事専業者	男性の意識が変わらない限り、女は家庭から出かけていくことはできない。家事、育児は共同の役割という意識がない男は、今後社会生活できないということを学校教育の場でしっかり教えてほしい。家事の出来ない男を育てるな！学校教育の場で男女公平であっても、就職した途端に男が優位になる。仕事優先となる社会の仕組みがおかしい。女も自立して積極的に社会参加すべきだが、今の大人社会は、「出る女の杭」に見られています。しかし、女も負けない意識を持つべきである。
女性	60歳～64歳	家事専業者	男女共にお互い尊重すること。何でも平等になったら困ることもある。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	60歳～64歳	家事専業者	アンケートを書き終えての反省は、「男女共同参画」に対する知識や関心が薄かったことです。今後、関心を示せる良い機会になったと思います。私の気掛かりは、“子育て”についてです。未来を担う子どもの子育ては、何と言っても「家庭」です。職場と家庭両方の優先は本当に難しいことと思います。親が子を思う「心」を大事に、生き生きとした子どもが育つような共同参画社会になって行ってほしいと願います。
女性	60歳～64歳	家事専業者	結婚してからと独身の時とは少し違いがあるし、色々な立場の人がいて、とても難しい問題だと思いますが、出来るだけ女性に優しい社会が望ましいです。
女性	60歳～64歳	家事専業者	女性が産休を長く取り易く、最低でも1年は取れること。子どもには大切な時間だからです。今はなかなか取れていないように思われます。
女性	60歳～64歳	家事専業者	仕事も育児も女性が主にしている。又、男性が会社を休むと、上司に睨まれる。男女、有休を取るにも気を遣うことがある。
男性	65歳～69歳	正規雇用者	全ての基は教育にあると思うので、「道徳」に力を入れてほしい。
男性	65歳～69歳	非正規雇用者	アンケートの項目が多過ぎる。整理した方がいい。
男性	65歳～69歳	非正規雇用者	「男女平等社会」、これは人類にとって素晴らしい思想である。しかし、全て「大人の目線」での議論に見えてしまう。人類（又は生物）にとって、子ども、孫達の幸福、繁栄を願うのは永遠のテーマと思う。子孫の成長にとって何が大事なのか？全てその観点から出発し、その中での「男女平等社会」を作り上げていくかが問われている。男性側の言い訳として、「身体的構造の違い（出産等）」がすぐ持ち出されるが、しかしこれはまぎれもない「不変の真実」である。これを無視して、「男女平等社会」を求めると歪んだ社会へと進むのではないか？この事実を直視しつつ、ゆっくり時間をかけ、我々の世代とは違う「価値観、生き方」を家庭及び学校教育の場で、養成していくべきと思う（抽象的すぎる意見か？）。
男性	65歳～69歳	無職	私は男女平等の考えに近い方がだと思いますが、私の年代ではまだまだその考えに遠い人が多い。企業でも男女平等には遠いと思う。
男性	65歳～69歳	無職	私は近く70才になる者です。今の若い方は昔と違い男女の仕事の区分けは互いに理解して協力していると思う。特に共稼ぎの場合。女性のリーダー（役職）を多くすると男性より真面目に活動します。お客集客能力は素晴らしい。女性のリーダーを多くすべき。
男性	65歳～69歳	無職	自治会活動について。当自治会は役員が、会長を除く、「巡り」（組長）のため役員会には女性の出席も多い。自治会長は過去に女性もいたが、引き受け手がなく苦勞しているが、女性（妻）が夫の引き受けを妨げているのが多々見られる。「住自協」の仕事が多く、会長以下各役員も苦勞している。負担を減らしてほしい。世代交代がなかなか進まない。若い人がいても、高齢者が出て来てしまう。
男性	65歳～69歳	その他	夫婦新姓。結婚は男女が親から独立すること。新たな姓名をつくり、新しい家庭作りの夢を持つ。家は子どもが健全に育つ場にすべき。祖父母はあくまでも子育ての協力者。男女の良さを互いに尊重し合い、協力して、より良き家庭、地域、社会を築いていきたい。
女性	65歳～69歳	自営業（農・林・漁業以外）	問17について。自分で困ったりしないと関心がなく、相談窓口を知りませんでした。申し訳ございません。
女性	65歳～69歳	非正規雇用者	活動状況をもっと表面に出し、わかりやすく理解出来るようにした方が良いのではと思う。
女性	65歳～69歳	非正規雇用者	疲れました。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	65歳～69歳	非正規雇用者	いくら文言を言ってもちつとも変わりません。女性自身の意識を変えることが大事だと思います。実際に地区の集会等では田舎程男性中心（時には男性のみ）、そしてそんな場で発言すると、生意気、どここの嫁など言われる。又、会社等において中小企業であればある程、重要なポストは男性であり、研修会等もほとんど男性のみ参加。経営者の考えが変わらないとどうにもならない。少しずつ若者は変化していると思うが、まだまだ平等とは程遠い現社会です。国政からして女性の働きやすい社会、口ばかり。現実には女は家という方向に走っていると思います。
女性	65歳～69歳	家事専業者	学校教育、家庭での教育が大事だと思います。今の若い男性は大分変わって来ていると思いますが、60才以上の男性は、なかなか。やっぱり教育だと思います。ちなみに夫の協力無しで30年働きましたが、職場の条件が良かったので、働き続けられたと思います。育休、産休、半日勤務等全て利用して働きました。その時代に児童館があったら、どんなにか良かったのと思います。長い休みは子どもだけという時があり、心苦しかったです。夫の休みの盆、正月、連休は全て休まず、又夜勤をし、昼間は家にいるようにする、働いて他の月に休むようにしました。それが出来る職場でしたので、働くことが出来ました。労働条件をよくしないと女性は働くことが出来ません。
女性	65歳～69歳	家事専業者	広報等で継続的にお知らせを掲載していく。
女性	65歳～69歳	家事専業者	公務員や大企業は育児休業が充実していますが、中小企業は働く人の数が限定されている為、出産時、正規雇用を続ける事が難しい状況にあります。特に小企業（主に個人経営）に補助金等の制度があると（実態を知らないのであったとしたら勉強不足ですみません）、続けて仕事が出来ると思っていますか？
女性	65歳～69歳	家事専業者	家庭、学校での教育で男女平等であることを具体的に教えてほしい（子ども達に）。国県等の公共機関に働く人の半分を、役職を女性にしてほしいと思っています（見本を示してほしい）。
女性	65歳～69歳	家事専業者	期待しておりません。
女性	65歳～69歳	家事専業者	30代の夫婦共働きの娘が他県におります。孫が2人おられて、忙しくしております。残業や出張の時など、一時預かって下さる方もいて、大変助かっております。でも病気の際は長野のおばあちゃんに出勤要請がきます。熱を出した時などはどうしようもなく、私が手伝いに行かざるを得ません。フランスでは病児のシッターが軽費で来て下さるとのこと。そういう制度の検討も必要かと思えます。それと男性自身の意識の改革ですね。子どもが熱を出した時、すぐ休めるような職場の雰囲気作りも大事だと思います。
女性	65歳～69歳	家事専業者	日本人は平等ということに対して、心が狭くない。働く時間も全て頭打ちにして、広く与えてほしい。自分は忙しいことに少し優劣感などがあるのがよくわかる。
女性	65歳～69歳	家事専業者	日本の義務教育などは、とても良い制度だと感じています。が、しかし、ニュース等で目にする不登校や、一人親、特に女性だけの低所得家庭の問題等、まだまだ難しい事がたくさんあるとも思えます。あと、大人社会の一人ひとりのモラルですね。納めるべき子どもの給食費を、払えるのに払わない人達もいるようです。この辺の再教育はどのように為されていけば良いのか、とも思います。
女性	65歳～69歳	無職	勤めを辞めてから、3～4年経ちました。パート勤めの時に常勤の職員との大きな違いに不満を感じながら、の勤めでした。仕事の内容はあまり変わらず、むしろ沢山働きましたが、何の保障もなく、くやしい思いをしてきました。パート職員（従業員）の産業における力は大きいと言われながら、条件が違いすぎると思えます。男性、女性に限らず、もう少し配慮がほしいです。子ども、親を見て、パートに出て、30年近く働きましたが、ボーナスもなく、退職の時にわずかに共済制度で引かれていた分が、わずか返ってきただけです。男女に限らず、仕事に応じた賃金の保障がほしいです。
女性	65歳～69歳	無職	アンケート結果を生かし、発表するなど、活動をより積極的に行って下さい。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	65歳～69歳	無職	昔から市民性として、よそから移住して来た人に対して、よそ者扱いが強いと以前から思っている。実際、私自身新潟県からの移転して来たが、地域でも“本村”とか、“来たり者”という言葉があり、祭りの獅子舞でも移住者の子ども達は参加できなかった。様々な差別があったので、男女共同参画についても、推進しにくいと考えている（若いお母さん方の同意見も多い）。全ての住民、生徒への教育の充実を願っている。関係して、女性が輝けるための子育て支援の内容も不十分。働く母親の意見を聞いて、人口増につながる政策が必要。行政側も、議員各位も、貧困の子ども達への取り組みを忘れていて。弱者に気付いて手当をすることが、男女共同参画の推進にもつながると思う。見えにくいところへの配慮を切に願います。取り組みご苦労様です。よろしく願います。
男性	70歳以上	自営業（農・林・漁業）	男女同権ばかりが前面に出て、男性女性の特質なものまで否定することがあることは残念です。その人その人により要望することを否定するのは良くありませんが、要望していないものまで差別と言うことは反対です。とかく権利を主張する女性が、ともすると利己的な人が多いのが残念です。もっと同権の意味を広範囲なものに考える必要があるのではないのでしょうか。
男性	70歳以上	自営業（農・林・漁業以外）	「単に男女共同参画」と取り組むことには反対。現代の子どもの姿と昔の姿とを比べて考えてほしい。子どものしつけは出来ているのか？家庭生活を大事にすることから考えてほしい。
男性	70歳以上	無職	この問題をもっと多くの市民に日頃の課題となるよう、市政の具体的な方針として取り上げて頂けるように願います。
男性	70歳以上	無職	質問項目が多過ぎる。1/2のところまでで、嫌になってしまい、いい加減な回答になってしまった。
男性	70歳以上	無職	一人暮らしで兄弟、子どももおらず、妻は死亡して一人です。ので、良い意見が無く申し訳ありません。
男性	70歳以上	無職	特にございません。少しずつ良い方向に向かっていると思います。
女性	70歳以上	非正規雇用者	「男女共同参画」という事自体、あまり聞きもしないので、アンケートに答えるのに苦労しました。
女性	70歳以上	家事専業者	少子高齢化社会に向け、女性が子育てをしながら、仕事を続けられる体系作りが必要である。
女性	70歳以上	家事専業者	私達の全盛（30年位前）時代より少々ですが、男性の方々の考えに変化があるように思いますが、まだまだこれからと思います。特に介護について。
女性	70歳以上	家事専業者	まだ、男女共同参画について、本当の理解がされていないと思います。古い習慣にとらわれることなく、多くの市民に分かりやすく広げてほしいと思います。何が一番か、長野市が重点をおくものを目標にしてほしいです。加藤市長さんになって、何か長野市が明るくなったような気がします。
女性	70歳以上	無職	年齢的に社会情勢にうとくなってきましたので、御質問の内容に無理な事が多いと思います。私なりに考えて回答しましたが、大変御無礼な事で申し訳ありません。
女性	70歳以上	無職	現在、社会での女性の活躍は大変なものと思います。仕事をする事は、自身の為、家族の為にも必要な事と考えますが、家庭、家族の理解がなければ出来ません。その為の支援をさらに充実してほしいと思います。
女性	70歳以上	無職	まだまだ男性中心的社会に思います。女性がいろいろ関心を持って、意見を出し、自分というものをしっかり持って望みたいと思います。
女性	70歳以上	無職	不勉強であり考えていませんでした。少しずつ勉強していきたいと思います。

性別	年齢	職業	記入内容
女性	70歳以上	無職	日常生活はもちろん職場にいても、男女の差別がはっきりしていた時代を過ごしてきました。男女共同参画を言われてから随分年月が流れています。少しずつではありますが、世間の意識も前進していると思います。地域活動にも女性の姿が多く見られるようになり、内容にも少しずつその利点が増えていると感じます。反面、気掛かりなことがあります。最近の社会で起きている事件、現象をニュース等で目にする、なぜ？こんな事件が起きるのかと心が痛みます。子どもに関するのですが、周囲の大人達、特に両親や、関わっている周囲の人々は一体気がなかつたのか。何の対応も出来なかつたのか、不安になります。次世代の子ども達が健全に育つ社会でなければ男女共同参画は前進出来ないと思います。
女性	70歳以上	無職	問の中に、「法律や制度の見直し」とありますが、今時見直しの必要があるなんて、腹立たしい思いです。
女性	70歳以上	無職	情報の提供を市民に知らせてほしい。

調査票

一般的なことでおたずねします。

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。
それぞれ1つずつお選びください。

	男性が優位	女性が優位	平等である	わからない		問1
1 家庭では	1	2	3	4	→	
2 学校教育の場では	1	2	3	4	→	
3 地域社会では	1	2	3	4	→	
4 職場では	1	2	3	4	→	
5 法律や制度の上では	1	2	3	4	→	
6 慣習・しきたりでは	1	2	3	4	→	
7 政治の場では	1	2	3	4	→	
8 社会全体では	1	2	3	4	→	

問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。
それぞれ1つずつお選びください。

	知っている	聞いたことがある	知らない		問2
1 男女共同参画社会	1	2	3	→	
2 ジェンダー（社会的性別）	1	2	3	→	
3 女子差別撤廃条約	1	2	3	→	
4 男女雇用機会均等法	1	2	3	→	
5 長野市男女共同参画推進条例	1	2	3	→	
6 長野市男女共同参画センター	1	2	3	→	

問3 あなたが考える「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。
お考えに近いものを3つまでお選びください。

- 1 法律や制度の上で男女の差がなくなる社会
- 2 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性が登用されている社会
- 3 男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会
- 4 新たな発想や多様な価値観が活かされる社会
- 5 男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を發揮することができる社会
- 6 男女を取り巻く偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりなどが解消された社会
- 7 その他（ ）

問3

問4 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。次の中から1つお選びください。

- 1 賛成
- 2 どちらかといえば賛成
- 3 どちらかといえば反対
- 4 反対

問4

--

問5 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。
次の中から1つお選びください。

- 1 女性は職業をもたない方がよい
- 2 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 3 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 4 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 5 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 6 その他 ()

問5

「労働」に関することでおたずねします。

問6 現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。
あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか（次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか）。
あてはまる番号を1つずつお選びください。

	男性の方が 優遇されて いる	女性の方が 優遇されて いる	平等である	わからない		問6
1 賃金	1	2	3	4	→	
2 昇進や昇格	1	2	3	4	→	
3 仕事の内容	1	2	3	4	→	
4 研修の機会や内容	1	2	3	4	→	
5 経験や能力を発揮する 機会	1	2	3	4	→	

「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」に関することでおたずねします。

問7 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。
次の中から1つお選びください。

- 1 言葉も内容も知っている
- 2 言葉は聞いたことがあるが内容は知らない
- 3 知らない

問7

問8 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度について、あなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものを1つお選びください。

- 1 「仕事」優先
- 2 「家庭生活」優先
- 3 「地域活動・個人の生活」優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問8

裏面もごさいます

問9 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、あなたの現実（現状）の生活に最も近いものを1つお選びください。

- 1 「仕事」優先
- 2 「家庭生活」優先
- 3 「地域活動・個人の生活」優先
- 4 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 6 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
- 7 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問9

問10 あなたは次にあげる家事をしていますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

	主に自分がしている	自分と家族が同じ程度している	自分は手伝い程度している	していない		問10
1 掃除	1	2	3	4	→	
2 洗濯	1	2	3	4	→	
3 食料品、日用品などの買物	1	2	3	4	→	
4 食事のしたく	1	2	3	4	→	
5 食事の後かたづけ	1	2	3	4	→	
6 ごみ捨て	1	2	3	4	→	

問11 身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。あなたは育児または介護をどの程度していますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

	主に自分がしている	自分と家族が同じ程度している	自分は手伝い程度している	していない		問11
1 育児（お孫さんを含む）	1	2	3	4	→	
2 介護	1	2	3	4	→	

問12 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。主な理由を次の中から3つまでお選びください。

- 1 主たる家計の稼ぎ手は男性だから
- 2 職場や同僚に迷惑がかかるから
- 3 利用しにくい雰囲気があるから
- 4 上司がいい顔をしないから
- 5 育児、介護は女性の方が向いているから
- 6 他に育児、介護をする人がいるから
- 7 昇給、昇格に影響すると考えるから
- 8 男性で制度を利用する人がほとんどいないから
- 9 制度の整備が不十分だから
- 10 その他（具体的に

問12

問 13 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。
次の中から3つまでお選びください。

- 1 男女の固定的な役割分担意識を改める
- 2 夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる
- 3 方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する
- 4 雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる
- 5 労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる
- 6 社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める
- 7 男性の関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
- 8 男性のための仲間（ネットワーク）作りをすすめる
- 9 男性が相談しやすい窓口を設ける
- 10 官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる
- 11 その他（具体的に
- 12 特に必要なことはない

問 13

「地域社会」に関することでおたずねします。

問 14 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

	そうである	そうではない	わからない		問 14
1 自治会やPTAの会長は男性と決まっている	1	2	3	→	
2 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である	1	2	3	→	
3 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている	1	2	3	→	
4 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている	1	2	3	→	
5 女性自身が責任ある役職につくのを避けている	1	2	3	→	
6 女性が責任ある役職につこうとすると、男性や他の女性から反対される	1	2	3	→	

問 15 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能だと思いますか。次の中から1つお選びください。

- 1 役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）※1を導入すること
- 2 積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること
- 3 女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること
- 4 女性が積極的に役職につく意識をもつこと
- 5 その他（具体的に

問 15

--

※1 積極的改善措置（ポジティブ・アクション）…男女共同参画に関し、男女間の格差を改善するために必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供することをいう

裏面もございます

男女の「人権」に関することでおたずねします。

※2

問 16 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV（ドメスティック・バイオレンス）として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

※2 DV(ドメスティック・バイオレンス)・・・配偶者等に身体的又は精神的な苦痛を与える暴力的行為

	受けたことがある	したことがある	受けたこともしたこともある	受けたこともしたこともない		問 16
1 刃物を突きつけ、「殺す」とおどす	1	2	3	4	→	
2 なぐる、ける	1	2	3	4	→	
3 物を投げつけたり壊したりする	1	2	3	4	→	
4 髪の毛をつかんで引きずり回す	1	2	3	4	→	
5 大声で怒鳴る	1	2	3	4	→	
6 メールや郵便物、行動を細かく監視する	1	2	3	4	→	
7 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う	1	2	3	4	→	
8 何を言っても無視し続ける	1	2	3	4	→	
9 生活費を渡さない	1	2	3	4	→	
10 嫌がっているのに性的行為を強要する	1	2	3	4	→	
11 避妊に協力しない	1	2	3	4	→	

問 17 あなたはDV（ドメスティック・バイオレンス）にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口すべてをお選びください。

- 1 長野県女性相談センター
- 2 児童虐待・DV 24時間ホットライン
- 3 長野市福祉事務所（長野市役所子育て支援課内、篠ノ井支所内）
- 4 女性の人権ホットライン
- 5 県警女性被害犯罪ダイヤルサポート110
- 6 県警（地域安全推進室）
- 7 長野犯罪被害者支援センター
- 8 長野市男女共同参画センター

問 17	

問 18 DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。
次の中から1つお選びください。

- 1 どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う
- 2 どんな場合でも人権侵害にあたると思う
- 3 人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
- 4 人権侵害にあたるとは思わない
- 5 わからない

問 18

「男女共同参画施策」に関することでおたずねします。

問 19 平成 27 年 4 月 1 日現在の長野市議会議員のうち女性議員の数(割合)は6人(15.4%)、平成 27 年 7 月 1 日現在の住民自治協議会における女性役員の数(割合)は425人(16.4%)となっています。

このことについて、あなたの考えに最も近いものを1つお選びください。

- 1 現在より大幅に増えた方がよい
- 2 現在より少し増えた方がよい
- 3 現状でよい
- 4 現状より少なくてよい
- 5 わからない

問 19

問 20 あなたは、政策決定の場に女性が増えることで何を期待しますか。
次の中から、あなたの考えに最も近いものを1つお選びください。

- 1 政治が身近になる
- 2 男性中心の考え方に変化が生じる
- 3 男女平等や男女共同参画社会に向けての施策が推進される
- 4 女性が持つ意見や発想が活かされる
- 5 組織が活性化する
- 6 何も期待しない
- 7 わからない

問 20

問 21 男女共同参画社会を実現するための拠点施設(長野市男女共同参画センター)の役割としてあなたは何を望みますか。次の中から3つまでお選びください。

- 1 図書や情報誌などの充実
- 2 市民団体への活動の場の提供
- 3 調査・啓発活動への助成支援
- 4 講演会やセミナーの開催
- 5 起業や資格取得講座の開催
- 6 相談機能の充実
- 7 女性リーダーの育成
- 8 わからない
- 9 その他 ()

問 21

問 22 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政に期待することはどのようなことですか。
特に重要だと思うものを3つまでお選びください。

- 1 法律や制度の見直しによる女性に不利なものの改善
- 2 政策・方針決定の場への女性の登用促進
- 3 学校教育や社会教育の場で男女の人権を尊重する学習の充実
- 4 女性の人材育成の推進
- 5 女性に対する就業支援や職業教育・訓練の充実
- 6 育児や介護に関するサービスの充実
- 7 夫婦関係や就労などについての相談窓口の充実
- 8 男女共同参画に関する情報提供の充実
- 9 情報提供や総合相談、女性の就労支援などを総合的に行う拠点施設の整備
- 10 企業に対する就労条件の改善策の啓発
- 11 職場における男女の平等な扱いについて企業への周知徹底
- 12 その他 (具体的に)

問 22

問 23 「男女共同参画」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。

記入もれ等を確認いただき、同封の返信用封筒に調査票を入れ9月18日（金）までにポストへご投函ください。

平成27年12月発行

発行 長野市

編集 長野市市民生活部 人権・男女共同参画課

長野市大字鶴賀緑町 1613 番地 電話 026 (224) 5032 (直通)

E-mail : jinken-danjo@city.nagano.lg.jp

集計 協同組合長野シーアイ開発センター